

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券報告書

**【提出先】** 関東財務局長殿

**【提出日】** 2026年1月9日提出

**【計算期間】** 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース 第19期  
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース 第19期  
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース 第19特定期間  
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース 第19特定期間  
(自 2025年4月17日至 2025年10月16日)

**【ファンド名】** 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース  
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース  
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース  
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

**【発行者名】** 野村アセットマネジメント株式会社

**【代表者の役職氏名】** CEO兼代表取締役社長 小池 広靖

**【本店の所在の場所】** 東京都江東区豊洲二丁目2番1号

**【事務連絡者氏名】** 松井 秀仁

**【連絡場所】** 東京都江東区豊洲二丁目2番1号

**【電話番号】** 03-6387-5000

**【縦覧に供する場所】** 該当事項はありません。

## 第一部【ファンド情報】

## 第1【ファンドの状況】

## 1【ファンドの性格】

## (1)【ファンドの目的及び基本的性格】

世界各国（新興国を含みます。）の債券等（国債、政府機関債、社債、モーゲージ証券、資産担保証券、ハイ・イールド債券、企業向け貸付債権（バンクローン）等）および派生商品等を実質的な主要投資対象とし、高水準のインカムゲインの確保と中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として運用を行なうことを基本とします。

世界各国の債券等および派生商品等を主要投資対象とする円建ての外国投資信託と、円建ての国内籍の投資信託である「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」を投資対象とするファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。なお、「実質的な主要投資対象」とは、これらのファンドを通じて投資する、主要な投資対象という意味です。

「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド」は、分配頻度、投資する外国投資信託において為替ヘッジの有無の異なるコースから構成されるファンドです。

コース名	各コースが投資対象とする外国投資信託の為替取引手法
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース (為替ヘッジあり 年2回決算型)	実質組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いません。 投資する外国投資信託において、原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行いません。
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース (為替ヘッジあり 毎月分配型)	
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース (為替ヘッジなし 年2回決算型)	実質組入外貨建資産について、原則として為替ヘッジを行いません。
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース (為替ヘッジなし 毎月分配型)	

## 信託金の限度額

信託金限度額は、各ファンドにつき7,000億円です。ただし、受託者と合意のうえ、当該信託金限度額を変更することができます。

## &lt;商品分類&gt;

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類は以下の通りです。

なお、ファンドに該当する商品分類及び属性区分は下記の表中に**網掛け表示**しております。

(野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース)

## 《商品分類表》

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
---------	--------	-------------------

単位型	国内	株式
	海外	債券
追加型	内外	不動産投信
		その他資産 ( )
		資産複合

## 《属性区分表》

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回  年2回	グローバル (日本を含む)  日本	ファミリーファンド	あり (部分ヘッジ (高位))
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回  年6回 (隔月)  年12回 (毎月)	北米  欧州  アジア		
不動産投信	日々	オセアニア		
その他資産 (投資信託証券 (債券 一般))	その他 ( )	中南米  アフリカ  中近東 (中東)		
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング	ファンド・オブ・ファンズ	なし

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（債券）とが異なります。

（野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース）

## 《商品分類表》

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式
	海外	債券
追加型	内外	不動産投信
		その他資産 ( )
		資産複合

## 《属性区分表》

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
株式 一般 大型株 中小型株	年1回  <b>年2回</b>	<b>グローバル</b> <b>(日本を含む)</b>  日本		
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年4回  年6回 (隔月)  年12回 (毎月)	北米  欧州  アジア  オセアニア	ファミリーファンド	あり ( )
不動産投信  <b>その他資産</b> <b>(投資信託証券</b> <b>(債券 一般))</b>	日々  その他 ( )	中南米  アフリカ  中近東 (中東)	<b>ファンド・オブ・ファンズ</b>	<b>なし</b>
資産複合 ( ) 資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング		

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（債券）とが異なります。

（野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース）

## 《商品分類表》

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式 <b>債券</b>
<b>追加型</b>	海外  <b>内外</b>	不動産投信  その他資産 ( )  資産複合

## 《属性区分表》

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
--------	------	--------	------	-------

株式 一般 大型株 中小型株	年1回	<b>グローバル (日本を含む)</b>		
	年2回	日本		
	年4回	北米	ファミリーファンド	<b>あり (部分ヘッジ 高位)</b>
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年6回 (隔月)	欧州		
	<b>年12回 (毎月)</b>	アジア		
	日々	オセアニア		
不動産投信	その他 ( )	中南米	<b>ファンド・オブ・ファンズ</b>	なし
<b>その他資産 (投資信託証券 (債券 一般))</b>		アフリカ		
資産複合 ( )		中近東 (中東)		
資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング		

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（債券）とが異なります。

（野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース）

《商品分類表》

単位型・追加型	投資対象地域	投資対象資産 (収益の源泉)
単位型	国内	株式 <b>債券</b>
	海外	不動産投信
<b>追加型</b>	<b>内外</b>	その他資産 ( )
		資産複合

《属性区分表》

投資対象資産	決算頻度	投資対象地域	投資形態	為替ヘッジ
--------	------	--------	------	-------

株式 一般 大型株 中小型株	年1回	<b>グローバル (日本を含む)</b>		
	年2回	日本		
	年4回	北米	ファミリーファンド	あり ( )
債券 一般 公債 社債 その他債券 クレジット属性 ( )	年6回 (隔月)	欧州		
	<b>年12回 (毎月)</b>	アジア		
	日々	オセアニア		
不動産投信	その他 ( )	中南米	<b>ファンド・オブ・ファンズ</b>	<b>なし</b>
<b>その他資産 (投資信託証券 (債券 一般))</b>		アフリカ		
資産複合 ( )		中近東 (中東)		
資産配分固定型 資産配分変更型		エマージング		

ファンドは、ファンド・オブ・ファンズです。このため、組入れている資産を示す属性区分上の投資対象資産（その他資産（投資信託証券））と収益の源泉となる資産を示す商品分類上の投資対象資産（債券）とが異なります。

属性区分に記載している「為替ヘッジ」は、対円での為替リスクに対するヘッジの有無を記載しております。

上記、商品分類及び属性区分の定義については、下記をご覧ください。

なお、下記一般社団法人投資信託協会のホームページでもご覧頂けます。

《一般社団法人投資信託協会インターネットホームページアドレス》 <https://www.toushin.or.jp/>

一般社団法人投資信託協会が定める「商品分類に関する指針」に基づくファンドの商品分類及び属性区分は以下の通りです。（2023年1月19日現在）

#### < 商品分類表定義 >

##### [ 単位型投信・追加型投信の区分 ]

- (1) 単位型投信...当初、募集された資金が一つの単位として信託され、その後の追加設定は一切行われのないファンドをいう。
- (2) 追加型投信...一度設定されたファンドであってもその後追加設定が行われ従来の信託財産とともに運用されるファンドをいう。

##### [ 投資対象地域による区分 ]

- (1) 国内...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に国内の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 海外...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に海外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 内外...目論見書又は投資信託約款において、国内及び海外の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

##### [ 投資対象資産による区分 ]

- (1) 株式...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に株式を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (2) 債券...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に債券を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (3) 不動産投信(リート)...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に不動産投資信託の受益証券及び不動産投資法人の投資証券を源泉とする旨の記載があるものをいう。

- (4)その他資産...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による主たる投資収益が実質的に上記(1)から(3)に掲げる資産以外の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、その他資産と併記して具体的な収益の源泉となる資産の名称記載も可とする。
- (5)資産複合...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)に掲げる資産のうち複数の資産による投資収益を実質的に源泉とする旨の記載があるものをいう。

[ 独立した区分 ]

- (1)MMF(マネー・マネージメント・ファンド)...MRF及びMMFの運営に関する規則(以下「MRF等規則」という。)に定めるMMFをいう。
- (2)MRF(マネー・リザーブ・ファンド)...MRF等規則に定めるMRFをいう。
- (3)ETF...投資信託及び投資法人に関する法律施行令(平成12年政令480号)第12条第1号及び第2号に規定する証券投資信託並びに租税特別措置法(昭和32年法律第26号)第9条の4の2に規定する上場証券投資信託をいう。

[ 補足分類 ]

- (1)インデックス型...目論見書又は投資信託約款において、各種指数に連動する運用成果を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2)特殊型...目論見書又は投資信託約款において、投資者に対して注意を喚起することが必要と思われる特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。なお、下記の属性区分で特殊型の小分類において「条件付運用型」に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記するものとし、それ以外の小分類に該当する場合には当該小分類を括弧書きで付記できるものとする。

< 属性区分表定義 >

[ 投資対象資産による属性区分 ]

株式

- (1)一般...次の大型株、中小型株属性にあてはまらないすべてのものをいう。
- (2)大型株...目論見書又は投資信託約款において、主として大型株に投資する旨の記載があるものをいう。
- (3)中小型株...目論見書又は投資信託約款において、主として中小型株に投資する旨の記載があるものをいう。

債券

- (1)一般...次の公債、社債、その他債券属性にあてはまらないすべてのものをいう。
- (2)公債...目論見書又は投資信託約款において、日本国又は各国の政府の発行する国債(地方債、政府保証債、政府機関債、国際機関債を含む。以下同じ。)に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (3)社債...目論見書又は投資信託約款において、企業等が発行する社債に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (4)その他債券...目論見書又は投資信託約款において、公債又は社債以外の債券に主として投資する旨の記載があるものをいう。
- (5)格付等クレジットによる属性...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(4)の「発行体」による区分のほか、特にクレジットに対して明確な記載があるものについては、上記(1)から(4)に掲げる区分に加え「高格付債」「低格付債」等を併記することも可とする。

不動産投信...これ以上の詳細な分類は行わないものとする。

その他資産...組入れている資産を記載するものとする。

資産複合...以下の小分類に該当する場合には当該小分類を併記することができる。

- (1)資産配分固定型...目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については固定的とする旨の記載があるものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。
- (2)資産配分変更型...目論見書又は投資信託約款において、複数資産を投資対象とし、組入比率については、機動的な変更を行なう旨の記載があるもの若しくは固定的とする旨の記載がないものをいう。なお、組み合わせている資産を列挙するものとする。

[ 決算頻度による属性区分 ]

- (1)年1回...目論見書又は投資信託約款において、年1回決算する旨の記載があるものをいう。
- (2)年2回...目論見書又は投資信託約款において、年2回決算する旨の記載があるものをいう。
- (3)年4回...目論見書又は投資信託約款において、年4回決算する旨の記載があるものをいう。
- (4)年6回(隔月)...目論見書又は投資信託約款において、年6回決算する旨の記載があるものをいう。
- (5)年12回(毎月)...目論見書又は投資信託約款において、年12回(毎月)決算する旨の記載があるものをいう。
- (6)日々...目論見書又は投資信託約款において、日々決算する旨の記載があるものをいう。
- (7)その他...上記属性にあてはまらないすべてのものをいう。

[ 投資対象地域による属性区分(重複使用可能) ]

- (1)グローバル...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が世界の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。なお、「世界の資産」の中に「日本」を含むか含まないかを明確に記載するものとする。
- (2)日本...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

- (3)北米...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が北米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (4)欧州...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が欧州地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (5)アジア...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が日本を除くアジア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (6)オセアニア...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がオセアニア地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (7)中南米...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中南米地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (8)アフリカ...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がアフリカ地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (9)中近東(中東)...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益が中近東地域の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。
- (10)エマージング...目論見書又は投資信託約款において、組入資産による投資収益がエマージング地域(新興成長国(地域))の資産を源泉とする旨の記載があるものをいう。

**[ 投資形態による属性区分 ]**

- (1)ファミリーファンド...目論見書又は投資信託約款において、親投資信託(ファンド・オブ・ファンズにのみ投資されるものを除く。)を投資対象として投資するものをいう。
- (2)ファンド・オブ・ファンズ...「投資信託等の運用に関する規則」第2条に規定するファンド・オブ・ファンズをいう。

**[ 為替ヘッジによる属性区分 ]**

- (1)為替ヘッジあり...目論見書又は投資信託約款において、為替のフルヘッジ又は一部の資産に為替のヘッジを行う旨の記載があるものをいう。
- (2)為替ヘッジなし...目論見書又は投資信託約款において、為替のヘッジを行わない旨の記載があるもの又は為替のヘッジを行う旨の記載がないものをいう。

**[ インデックスファンドにおける対象インデックスによる属性区分 ]**

- (1)日経225
- (2)TOPIX
- (3)その他の指数...上記指数にあてはまらないすべてのものをいう。

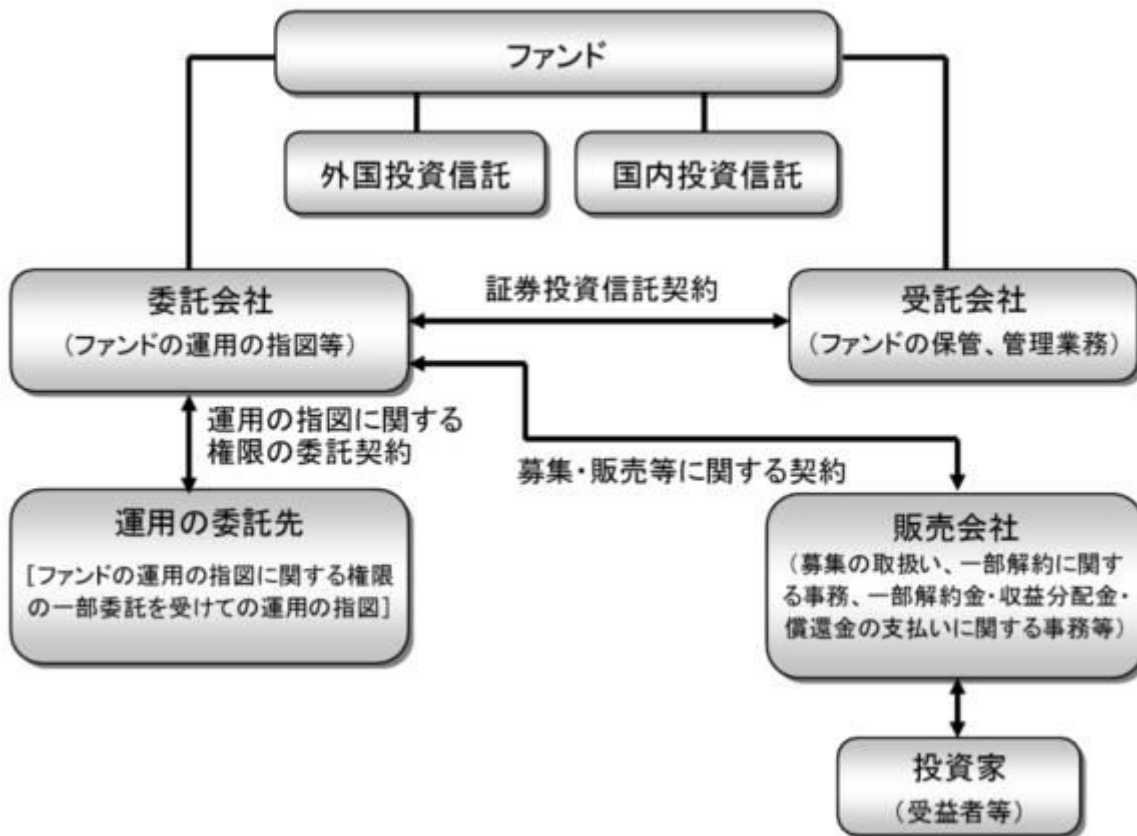
**[ 特殊型 ]**

- (1)ブル・ベア型...目論見書又は投資信託約款において、派生商品をヘッジ目的以外に用い、積極的に投資を行うとともに各種指数・資産等への連動若しくは逆連動(一定倍の連動若しくは逆連動を含む。)を目指す旨の記載があるものをいう。
- (2)条件付運用型...目論見書又は投資信託約款において、仕組債への投資又はその他特殊な仕組みを用いることにより、目標とする投資成果(基準価額、償還価額、収益分配金等)や信託終了日等が、明示的な指標等の値により定められる一定の条件によって決定される旨の記載があるものをいう。
- (3)ロング・ショート型/絶対収益追求型...目論見書又は投資信託約款において、特定の市場に左右されにくい収益の追求を目指す旨若しくはロング・ショート戦略により収益の追求を目指す旨の記載があるものをいう。
- (4)その他型...目論見書又は投資信託約款において、上記(1)から(3)に掲げる属性のいずれにも該当しない特殊な仕組みあるいは運用手法の記載があるものをいう。

**( 2 ) 【ファンドの沿革】**

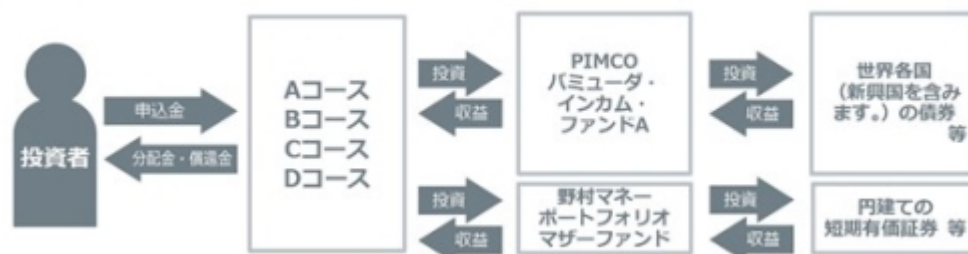
2016年4月22日 信託契約締結、ファンドの設定日、運用開始

**( 3 ) 【ファンドの仕組み】**



ファンド	野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース	野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース	野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース	野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース
外国投資信託	PIMCOパミュダ・インカム・ファンドA - クラスN (JPY)		PIMCOパミュダ・インカム・ファンドA - クラスN (USD)	
国内投資信託	野村マネーポートフォリオ マザーファンド			
委託会社(委託者)	野村アセットマネジメント株式会社			
受託会社(受託者)	三菱UFJ信託銀行株式会社 (再信託受託者：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)			
運用の委託先	ピムコジャパンリミテッド			

●ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式で運用します。



委託会社の概況(2025年11月末現在)

- ・名称  
野村アセットマネジメント株式会社
- ・資本金の額  
17,180百万円

## ・会社の沿革

1959年12月1日	野村証券投資信託委託株式会社として設立
1997年10月1日	投資顧問会社である野村投資顧問株式会社と合併して野村アセット・マネジメント投信株式会社に変更
2000年11月1日	野村アセットマネジメント株式会社に変更

## ・大株主の状況

名称	住所	所有株式数	比率
野村ホールディングス株式会社	東京都中央区日本橋1-13-1	5,150,693株	100%

## 2【投資方針】

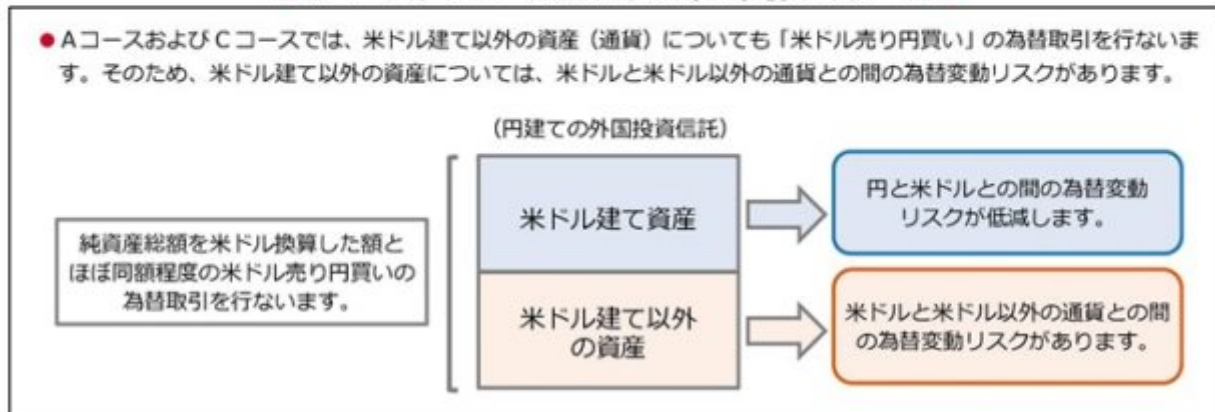
## (1)【投資方針】

「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド」は、分配頻度、投資する外国投資信託において為替ヘッジの有無の異なる、4本のファンドで構成されています。

	為替ヘッジあり (部分ヘッジ(高位))※	為替ヘッジなし
年2回分配	Aコース	Bコース
毎月分配	Cコース	Dコース

※「Aコース」「Cコース」は、投資する「PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA-クラスN(JPY)」において、原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行いません。

## ■ Aコース、Cコースにおける為替取引のイメージ ■



※詳しくは後述の「3投資リスク」をご参照下さい。

各々以下の円建ての外国投資信託「PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA」および国内投資信託「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」を投資対象とします。

ファンド名	投資対象
Aコース	外国投資信託： PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA-クラスN(JPY)
Cコース	国内投資信託： 野村マネーポートフォリオ マザーファンド
Bコース	外国投資信託： PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA-クラスN(USD)
Dコース	国内投資信託： 野村マネーポートフォリオ マザーファンド

通常の場合においては、「PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA」への投資を中心としますが、投資比率には特に制限は設けず、各投資対象ファンドの収益性および流動性ならびにファンドの資金動向等

を勧案のうえ決定します。

通常の状態においては、「PIMCOパミューダ・インカム・ファンドA」への投資比率は、概ね90%以上を目処とします。

運用にあたっては、「ピムコジャパンリミテッド」に、運用の指図に関する権限の一部を委託します。

委託する範囲	: 外国投資信託受益証券の運用
委託先名称	: ピムコジャパンリミテッド
委託先所在地	: 東京都港区

運用の指図に関する権限の委託を中止または委託の内容を変更する場合があります。

#### ピムコジャパンリミテッドについて

PIMCO（パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー）グループの日本の拠点で、1997年に設立されました。

PIMCOは1971年に米国に設立された世界有数の債券運用に高い専門性を有する資産運用会社であり、ドイツのミュンヘンに拠点を置く総合金融グループであるアリアンツSEの傘下にあります。

PIMCOは、グローバルな拠点展開により世界の債券市場のセクターを広範にカバーする充実した運用調査体制を有し、幅広い投資プロダクトを提供しています。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

#### （２）【投資対象】

世界各国（新興国を含みます。）の債券等（国債、政府機関債、社債、モーゲージ証券、資産担保証券、ハイ・イールド債券、企業向け貸付債権（バンクローン）等）および派生商品等に投資する外国投資信託と、野村マネーポートフォリオ マザーファンドを主要投資対象とします。なお、コマーシャル・ペーパー等の短期有価証券ならびに短期金融商品等に直接投資する場合があります。

#### 投資の対象とする資産の種類(信託約款)

この信託において投資の対象とする資産（本邦通貨表示のものに限ります。）の種類は、次に掲げるものとします。

1. 次に掲げる特定資産（「特定資産」とは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第1項で定めるものをいいます。以下同じ。）
  - イ．有価証券
  - ロ．約束手形（イに掲げるものに該当するものを除きます。）
  - ハ．金銭債権（イ及びロに掲げるものに該当するものを除きます。）
2. 次に掲げる特定資産以外の資産
  - イ．為替手形

#### 有価証券の指図範囲等(信託約款)

委託者（委託者から委託を受けた者を含みます。）は、信託金を、円建ての外国投資信託受益証券および野村アセットマネジメント株式会社を委託者とし、三菱UFJ信託銀行株式会社を受託者として締結された親投資信託である野村マネーポートフォリオ マザーファンド受益証券のほか、次の有価証券（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を除くものとし、本邦通貨表示のものに限ります。）に投資することを指図します。

1. コマーシャル・ペーパーおよび短期社債等
2. 外国または外国の者の発行する証券または証書で、前号の証券の性質を有するもの
3. 国債証券、地方債証券、特別の法律により法人の発行する債券および社債券（新株引受権証券と社債券とが一体となった新株引受権付社債券の新株引受権証券および短期社債等を除きます。）
4. 指定金銭信託の受益証券（金融商品取引法第2条第1項第14号で定める受益証券発行信託の受益証券に限ります。）

なお、第3号の証券を以下「公社債」といい、公社債にかかる運用の指図は買い現先取引（売戻し条件付の買い入れ）および債券貸借取引（現金担保付き債券借入れ）に限り行なうことができるものとし  
ます。

#### 金融商品の指図範囲等(信託約款)

委託者は、信託金を、上記 に掲げる有価証券のほか、次に掲げる金融商品（金融商品取引法第2条第2項の規定により有価証券とみなされる同項各号に掲げる権利を含みます。）により運用することを指図することができます。

1. 預金
2. 指定金銭信託（上記 に掲げるものを除く。）
3. コール・ローン
4. 手形割引市場において売買される手形

#### (参考)各コースが投資対象とする外国投資信託の概要

PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA - クラスN (JPY) / N (USD)

（英領バミューダ諸島籍円建外国投資信託）

<運用の基本方針>	
実質的な 主要投資対象	世界各国（新興国を含みます。）の債券等（国債、政府機関債、社債、モーゲージ証券、資産担保証券、ハイ・イールド債券、企業向け貸付債権（バンクローン）等）および派生商品等
投資方針	<p>PIMCOバミューダ・インカム・ファンドAをファンドといいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファンドは、PIMCOバミューダ・インカム・ファンド(M)<sup>*</sup> 受益証券への投資を通じて、世界各国（新興国を含みます。）の債券等（国債、政府機関債、社債、モーゲージ証券、資産担保証券、ハイ・イールド債券、企業向け貸付債権（バンクローン）等）および派生商品等を実質的に投資を行ない、インカムゲインの最大化と長期的な値上がり益の獲得を目指します。</li> <li>・マスターファンドといいます。</li> <li>・通常、総資産の65%以上を世界各国（新興国を含みます。）の債券等（国債、政府機関債、社債、モーゲージ証券、資産担保証券、ハイ・イールド債券、企業向け貸付債権（バンクローン）等）および派生商品等を実質的に投資します。</li> <li>・ポートフォリオの平均デュレーションは、原則として0～8年の範囲で調整します。</li> <li>・米ドル建て以外の資産に投資を行なった場合は、投資顧問会社が、原則として当該資産にかかる通貨を売り、米ドルを買う為替取引を行ないます。ただし、総資産の15%以内の範囲で、米ドル建て以外の通貨エクスポージャーを、実質的に保有することができます。</li> <li>・クラスN(JPY)は、原則として、純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行ないます。クラスN(USD)は、組入資産について、原則として対円で為替ヘッジを行わず、米ドルへの投資効果を追求します。</li> </ul>

主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハイ・イールド債券等（ムーディーズ社、S&amp;P社、フィッチ社、もしくはその他の一般的に認められた格付機関により、投資適格未滿の格付を付与された債券等（格付がない場合は同等の信用度を有すると投資顧問会社が判断するものを含みます。））への実質投資割合は総資産の50%以内とします。ただし、資産担保証券およびモーゲージ証券についてはこの限りではありません。</li> <li>・新興国の発行体が発行する銘柄への実質投資割合は総資産の20%以内とします。</li> <li>・デリバティブの利用は、ヘッジ目的に限定しません。</li> </ul>
収益分配方針	毎月、利子収入および売買益等から分配を行なう方針です。
償還条項	投資顧問会社による償還決議がなされた場合、受益者の利益に反する場合、また受益者による償還決議がなされた場合等には、ファンドを償還する場合があります。
< 主な関係法人 >	
管理会社 投資顧問会社	パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシー
受託会社	メイブルズ・トラスティ・サービシーズ（バミュダ）リミテッド
管理事務代行会社 保管受託銀行	ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・アンド・カンパニー
名義書換事務受託会社	ブラウン・ブラザーズ・ハリマン（ルクセンブルグ）エス・シー・エー
< 管理報酬等 >	
信託報酬	なし
申込手数料	なし
信託財産留保額	なし
その他の費用	信託財産に関する租税、組入有価証券の売買時の売買委託手数料、信託事務の処理に要する費用および信託財産の監査に要する費用、外貨建資産の保管などに要する費用、借入金の利息および立替金の利息、訴訟費用および損害賠償費用等。

上記のほか、一般社団法人投資信託協会の定めるファンド・オブ・ファンズ組入投資信託および投資法人の要件を満たしております。

\* 上記は2026年1月9日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

#### パシフィック・インベストメント・マネジメント・カンパニー・エルエルシーについて

##### [ 運用体制 ]

PIMCOのポートフォリオ・マネジメント・グループはチーム体制で運営されており、合議制を可能にするためにハブ&スポーク型のシステムをとっております。即ち、上席ポートフォリオ・マネージャーで構成されるインベストメント・コミッティーがチームの中心でハブとしての役割を果たし、各債券セクターのスペシャリスト・ポートフォリオ・マネージャーから多様な債券セクターの情報や戦略面でのアイデアを受け取り、ポートフォリオ・マネジメント・グループ内で日々緊密に連絡をとりながら投資戦略の立案・実行が行われます。

尚、実効性のあるリスク管理を行うため、PIMCOでは全ての取引及びポートフォリオについて、ポートフォリオ・マネジメント、アカウント・マネジメント、リーガル/コンプライアンスの独立した3部門が互いに牽制し合う形でモニターする体制が採られております。

(参考)国内投資信託の概要

「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」

## 運用の基本方針

約款第14条に基づき委託者の定める方針は、次のものとします。

## 1. 基本方針

この投資信託は、安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

## 2. 運用方法

## (1) 投資対象

本邦通貨表示の短期有価証券を主要投資対象とします。

## (2) 投資態度

本邦通貨表示の公社債等に投資を行ない、安定した収益と流動性の確保を図ることを目的として運用を行ないます。

残存期間の短い公社債やコマーシャル・ペーパー等の短期有価証券への投資により利息等収益の確保を図り、あわせてコール・ローンなどで運用を行なうことで流動性の確保を図ります。

資金動向、市況動向等によっては上記のような運用ができない場合があります。

## (3) 投資制限

株式への投資は行ないません。

外貨建資産への投資は行ないません。

有価証券先物取引等は約款第15条の範囲で行ないます。

スワップ取引は約款第16条の範囲で行ないます。

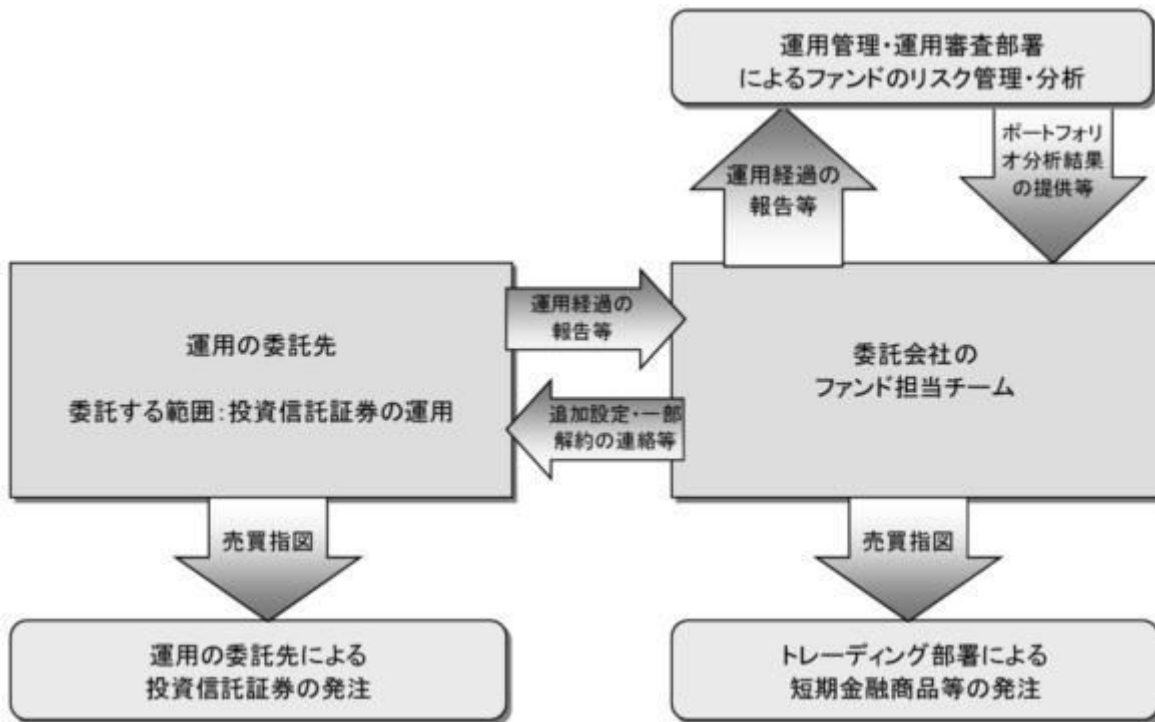
一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の利用は行ないません。

一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」の運用体制等について  
経済調査部署による国内外の経済調査および発行体の信用力調査をもとに、運用担当者が債券・短期金融商品等の銘柄選定やポートフォリオの構築を行ないます。運用審査部署がファンドのリスク管理・分析を行ない、モニタリング・分析結果を運用チームに提供します。

## (3) 【運用体制】

ファンドの運用体制は以下の通りです。



当社では、ファンドの運用に関する社内規程として、運用担当者に関する規程並びにスワップ取引、信用リスク管理、資金の借入、外国為替の予約取引等、信用取引等に関して各々、取扱い基準を設けております。

ファンドを含む委託会社における投資信託の内部管理及び意思決定を監督する組織等は以下の通りです。



委託会社によるファンドの関係法人（販売会社を除く）に対する管理体制等

当社では、「受託会社」または受託会社の再信託先に対しては、日々の純資産照合、月次の勘定残高照合などを行っています。また、受託業務の内部統制の有効性についての監査人による報告書を、受託会社より受け取っております。

運用の外部委託を行う場合、「運用の外部委託先」に対しては、外部委託先が行った日々の約定について、投資ガイドラインに沿ったものであるかを確認しています。また、コンプライアンスレポートの提出を義務付け、定期的に管理状況に関する報告を受けています。さらに、外部委託先の管理体制、コンプライアンス体制等について調査ならびに評価を行い、定期的に商品に関する委員会に報告しています。

ファンドの運用体制等は今後変更となる場合があります。

#### （４）【分配方針】

毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行いません。

分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みま

す。)等の全額とします。

<年2回決算型(Aコース、Bコース)>

収益分配金額は、上記の範囲内で、原則として利子・配当等収益等および基準価額水準等を勘案して委託者が決定します。

<毎月分配型(Cコース、Dコース)>

収益分配金額は、上記の範囲内で、委託者が決定するものとし、原則として、利子・配当等収益等を中心に分配を行なうことを基本とします。ただし、基準価額水準等によっては、売買益等が中心となる場合があります。なお、市況動向や基準価額水準等によっては、分配金額が大きく変動する場合があります。

留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行ないます。

\* 委託会社の判断により分配を行なわない場合もあります。また、将来の分配金の支払いおよびその金額について示唆、保証するものではありません。

ファンドの決算日

<年2回決算型(Aコース、Bコース)>

原則として**毎年4月および10月の各16日**(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

<毎月分配型(Cコース、Dコース)>

原則として**毎月16日**(休業日の場合は翌営業日)を決算日とします。

## ◆分配金に関する留意点

●分配金は、預貯金の利息とは異なりファンドの純資産から支払われますので、分配金支払い後の純資産はその相当額が減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。

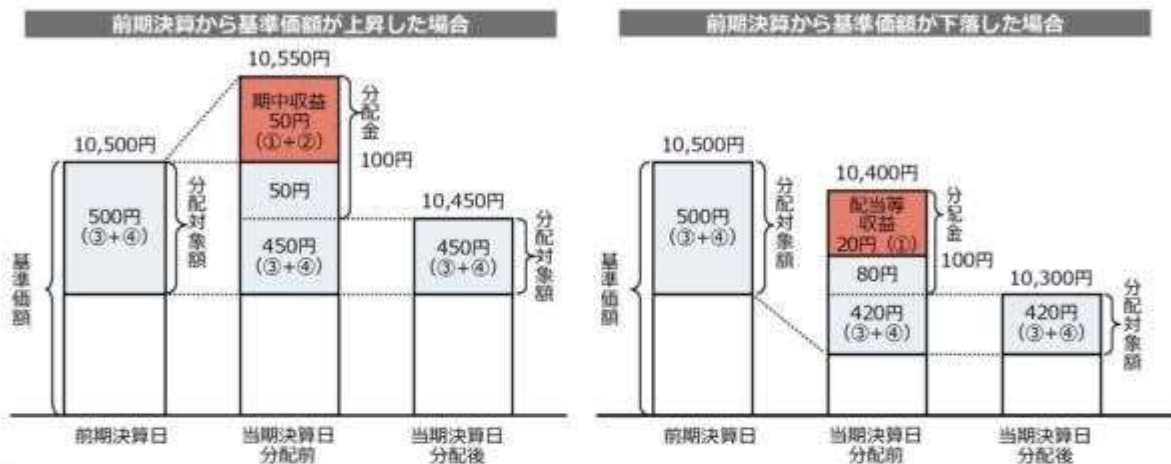


●ファンドは、計算期間中に発生した運用収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて分配を行なう場合があります。したがって、ファンドの分配金の水準は必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示唆するものではありません。

・計算期間中に運用収益があった場合においても、当該運用収益を超えて分配を行なった場合、当期決算日の基準価額は前期決算日の基準価額と比べて下落することになります。

※分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

分配対象額とは、①経費控除後の配当等収益②経費控除後の評価益を含む売買益③分配準備積立金④収益調整金です。



●投資者の個別元本（追加型投資信託を保有する投資者毎の取得元本）の状況によっては、分配金額の一部または全部が、実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

普通分配金	分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本と同額の場合または投資者の個別元本を上回っている場合には分配金の全額が普通分配金となります。
元本払戻金 (特別分配金)	分配金落ち後の基準価額が投資者の個別元本を下回っている場合には、下回る部分の分配金の額が元本払戻金 (特別分配金) となります。

●投資者が元本払戻金 (特別分配金) を受け取った場合、分配金発生時にその個別元本から元本払戻金 (特別分配金) を控除した額が、その後の投資者の個別元本となります。



分配金に関する留意点に記載の図はイメージ図であり、全ての状況について説明したものではありません。また、実際の分配金額や基準価額について示唆、保証するものではありません。

## 運用の基本方針 2 運用方法 (3)投資制限(信託約款)

- ・投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
- ・外貨建資産への直接投資は行ないません。
- ・デリバティブの直接利用は行ないません。  
一般社団法人投資信託協会規則に定める合理的な方法により算出した額が、信託財産の純資産総額を超えることとなるデリバティブ取引等（同規則に定めるデリバティブ取引等をいいます。）の実質的な利用は行ないません。
- ・株式への直接投資は行ないません。
- ・一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則としてそれぞれ10%、合計で20%以内とすることとし、当該比率を超えることとなった場合には、同規則に従い当該比率以内となるよう調整を行なうこととします。

## 公社債の借入れ(信託約款)

- ( )委託者は、信託財産の効率的な運用に資するため、公社債の借入れの指図をすることができます。なお、当該公社債の借入れを行なうにあたり担保の提供が必要と認めるときは、担保の提供の指図を行なうものとします。
- ( )上記( )の指図は、当該借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額の範囲内とします。
- ( )信託財産の一部解約等の事由により、上記( )の借入れにかかる公社債の時価総額が信託財産の純資産総額を超えることとなった場合には、委託者は速やかに、その超える額に相当する借入れた公社債の一部を返還するための指図をするものとします。
- ( )上記( )の借入れにかかる品貸料は信託財産中から支弁します。

## 資金の借入れ(信託約款)

- ( )委託者は、信託財産の効率的な運用ならびに運用の安定性をはかるため、一部解約に伴う支払資金の手当て（一部解約に伴う支払資金の手当てのために借入れた資金の返済を含みます。）を目的として、または再投資にかかる収益分配金の支払資金の手当てを目的として、資金借入れ（コール市場を通じる場合を含みます。）の指図をすることができます。なお、当該借入金をもって有価証券等の運用は行なわないものとします。
- ( )一部解約に伴う支払資金の手当てにかかる借入期間は、受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の売却代金の受渡日までの間または受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の解約代金入金日までの間もしくは受益者への解約代金支払開始日から信託財産で保有する有価証券等の償還金の入金日までの期間が5営業日以内である場合の当該期間とし、資金借入額は当該有価証券等の売却代金、有価証券等の解約代金および有価証券等の償還金の合計額を限度とします。ただし、資金の借入額は、借入れ指図を行なう日における信託財産の純資産総額の10%を超えないこととします。
- ( )収益分配金の再投資にかかる借入期間は信託財産から収益分配金が支弁される日からその翌営業日までとし、資金借入額は収益分配金の再投資額を限度とします。
- ( )借入金の利息は信託財産中より支弁します。

## 3【投資リスク】

## 基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、投資を行なっている有価証券等の値動きによる影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属します。

したがって、ファンドにおいて、投資者の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。

#### [債券価格変動リスク]

債券（公社債等）は、市場金利や信用度の変動により価格が変動します。ファンドは実質的に債券に投資を行ないますので、これらの影響を受けます。特にファンドの実質的な投資対象に含まれる新興国の債券価格の変動は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。また、ファンドの実質的な投資対象に含まれるハイ・イールド債券等の格付の低い債券については、格付の高い債券に比べ、価格が大きく変動する可能性や組入債券の元利金の支払遅延および支払不履行などが生じるリスクが高いと想定されます。

#### [バンクローンの価格変動リスク]

バンクローンは、信用度の変動等により価格が変動します。ファンドの実質的な投資対象にはバンクローンが含まれますので、これらの影響を受けます。特にファンドの実質的な投資対象に含まれる格付の低いバンクローンについては、格付の高いバンクローンに比べ、価格が大きく変動する可能性や組入バンクローンの元利金の支払遅延および支払不履行等が生じる可能性が高いと想定されます。また、一般的にバンクローンは債券と比べて流動性が低いと考えられます。そのため、市場の混乱時やファンドに大量の資金変動が生じた場合等には機動的に保有資産を売買できない場合があります。また、バンクローンを売却する際の売却価値が当初の投資価値を大幅に下回る場合があります。

#### [為替変動リスク]

「Bコース」および「Dコース」が投資する「クラスN（USD）」においては、組入資産について、原則として対円で為替ヘッジを行ないませんので、対円での為替変動の影響を受けます。

「Aコース」および「Cコース」が投資する「クラスN（JPY）」においては、原則として当該クラスの純資産総額を米ドル換算した額とほぼ同額程度の米ドル売り円買いの為替取引を行なうことにより、米ドル建ての資産については為替変動リスクが低減しますが、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。なお、総資産の15%を上限として実質的に保有する米ドル建て以外の通貨エクスポージャー部分については、当該通貨と米ドルとの間の為替変動の影響を受けます。この場合、当該通貨が米ドルに対して安くなった場合には、基準価額が下落する要因となります。また、円金利が米ドルの金利より低い場合、為替取引によるコスト（金利差相当分の費用）がかかるため、基準価額の変動要因となります。

特に新興国の通貨については、先進国の通貨に比べ流動性が低い状況となる可能性が高く、その結果、当該通貨の為替変動は先進国以上に大きいものになることも想定されます。

基準価額の変動要因は上記に限定されるものではありません。

#### その他の留意点

ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影

響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止等となる可能性、換金代金の支払いが遅延する可能性等があります。

資金動向、市況動向等によっては、また、不慮の出来事等が起きた場合には、投資方針に沿った運用ができない場合があります。

ファンドが実質的に組み入れる有価証券の発行体において、利払いや償還金の支払いが遅延する可能性があります。

有価証券への投資等ファンドにかかる取引にあたっては、取引の相手方の倒産等により契約が不履行になる可能性があります。

投資対象とするマザーファンドにおいて、他のベビーファンドの資金変動等に伴う売買等が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

ファンドの主要投資対象である外国投資信託は、マスターファンドを通じて運用を行いません。そのため、マスターファンドを投資対象とする他のファンドおよびクラスに追加設定・買戻し（解約）等に伴う資金変動等があり、その結果、当該マスターファンドにおいて売買等が生じた場合などには、外国投資信託の純資産価格に影響を及ぼす場合があります。この結果、ファンドの基準価額に影響を及ぼす場合があります。

ファンドが各々投資対象とする外国投資信託受益証券が存続しないこととなる場合は、当該ファンドを繰上償還させます。

ファンドの実質的な投資対象に含まれる新興国においては、政治、経済、社会情勢の変化が金融市場に及ぼす影響は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。さらに、当局による海外からの投資規制などが緊急に導入されたり、あるいは政策の変更等により、金融市場が著しい悪影響を被る可能性や運用上の制約を大きく受ける可能性があります。

上記のような投資環境変化の内容によっては、ファンドでの新規投資の中止や大幅な縮小をする場合があります。

金融商品取引所等における取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます。）、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情（実質的な投資対象国における非常事態による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、投資信託約款の規定に従い、委託会社の判断でファンドの購入（スイッチングによる購入を含みます。）・換金の各受け付けを中止すること、および既に受付けた購入（スイッチングによる購入を含みます。）・換金の各受け付けを取り消す場合があります。

外国投資信託の組入資産について為替取引を行なう一部の新興国の為替市場においては、内外の為替取引の自由化が実施されておらず、実際の現地通貨での金銭の受渡に制約があるため、ファンドはNDF（ノン・デリバラブル・フォワード）を用いる場合があります。

NDFの取引価格の値動きと、実際の為替市場の値動きは、需給などの市況や規制等により大きく乖離する場合があります。その結果、ファンドの投資成果は、実際の為替市場や、金利市場の動向から想定されるものから大きく乖離する場合があります。なお、今後、NDFが利用できなくなった場合、ファンドの投資方針に沿った運用ができなくなる場合があります。

NDFとは、為替取引を行なう場合に利用する直物為替先渡取引の一種で、当該国の通貨を用いず、米ドルまたはその他の主要な通貨によって差金決済する取引をいいます。

店頭デリバティブ取引等の金融取引に関して、国際的に規制の強化が行なわれており、ファンドが実質的に活用する当該金融取引が当該規制強化等の影響を受け、当該金融取引を行なうための担保として現金等を提供する必要がある場合があります。その場合、追加的に現金等を保有するため、ファンドの実質的な主要投資対象の組入比率が下がり、高位に組入れた場合に期待される投資効果が得られないことが想定されます。また、その結果として、実質的な主要投資対象を高位に組入れた場合と比べてファンドのバ

パフォーマンスが悪化する場合があります。

## 委託会社におけるリスクマネジメント体制

### リスク管理関連の委員会

#### パフォーマンスの考査

投資信託の信託財産についてパフォーマンスに基づいた定期的な考査（分析、評価）の結果の報告、審議を行ないます。

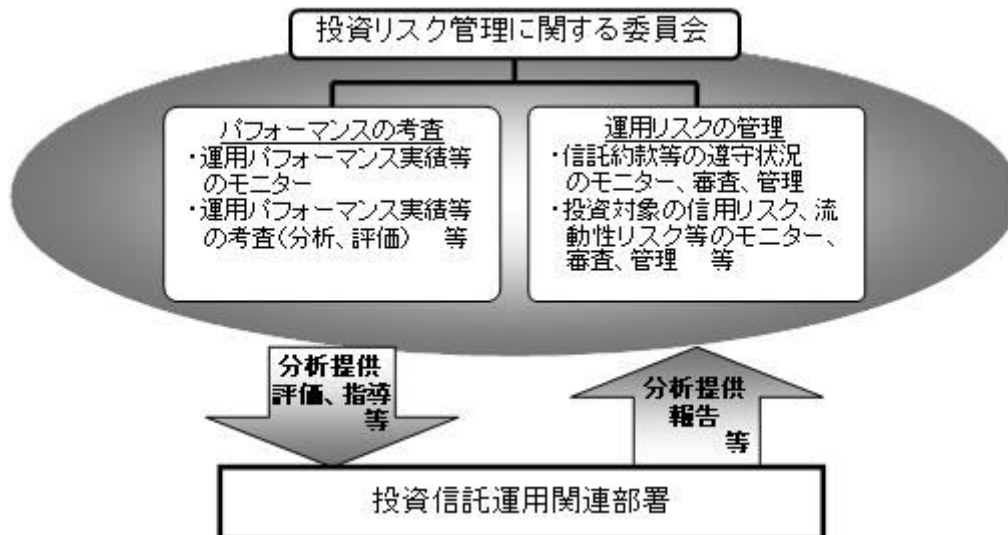
#### 運用リスクの管理

投資信託の信託財産の運用リスクを把握、管理し、その結果に基づき運用部門その他関連部署への是正勧告を行なうことにより、適切な管理を行ないます。

#### 流動性リスク管理について

流動性リスク管理に関する規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行ないます。リスク管理関連の委員会が、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について監督します。

### リスク管理体制図

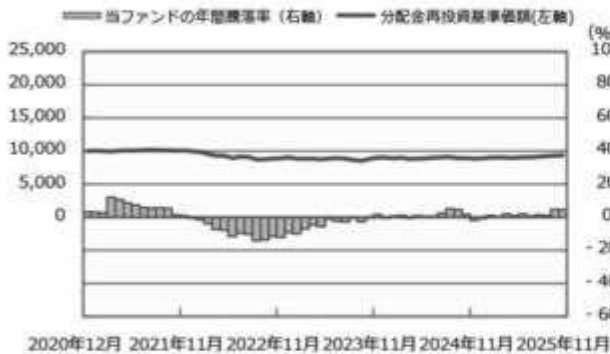


投資リスクに関する管理体制等は今後変更となる場合があります。

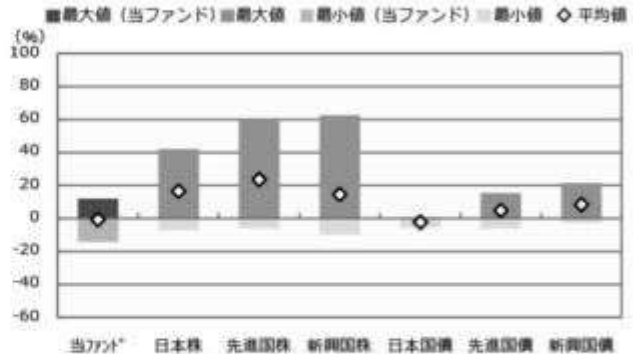
## ■ リスクの定量的比較 (2020年12月末～2025年11月末：月次)

### IAコース

#### ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



#### ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



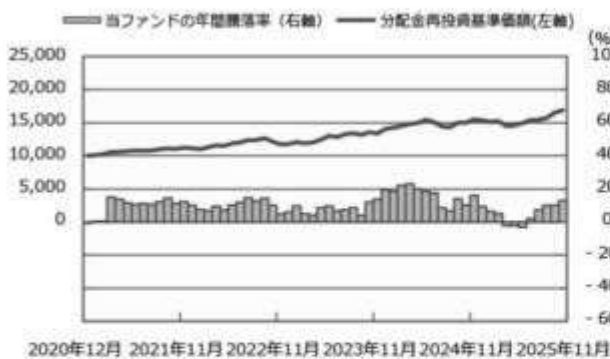
	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値 (%)	12.0	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値 (%)	△ 14.1	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 2.7
平均値 (%)	△ 0.7	16.5	23.6	14.5	△ 2.3	4.9	8.4

- \* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2020年12月末を10,000として指数化しております。
- \* 年間騰落率は、2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

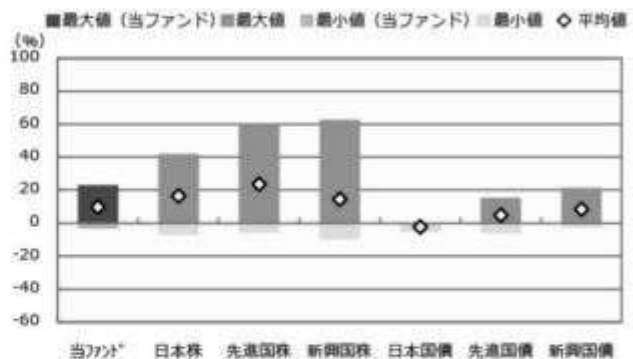
- \* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- \* 2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- \* 決算日に対応した数値とは異なります。
- \* 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

### IBコース

#### ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



#### ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



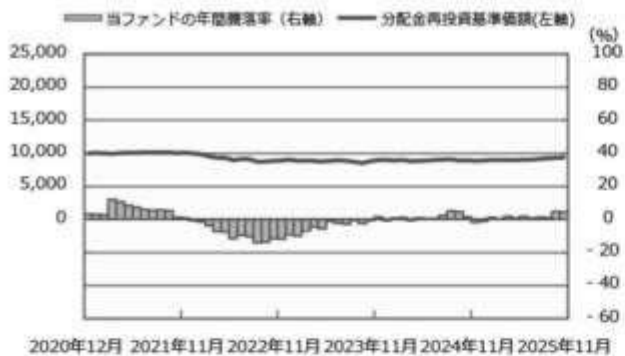
	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値 (%)	23.0	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値 (%)	△ 3.3	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 2.7
平均値 (%)	9.7	16.5	23.6	14.5	△ 2.3	4.9	8.4

- \* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2020年12月末を10,000として指数化しております。
- \* 年間騰落率は、2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

- \* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- \* 2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。
- \* 決算日に対応した数値とは異なります。
- \* 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

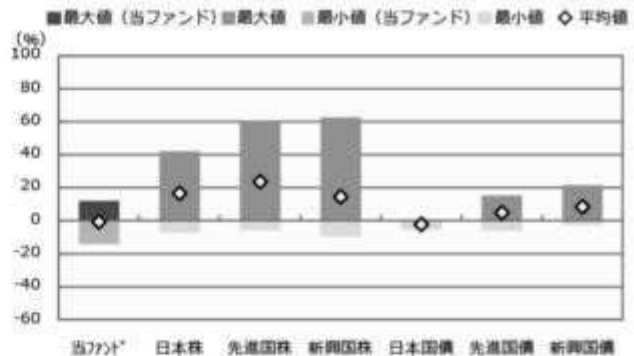
## ICコース

## ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



2020年12月 2021年11月 2022年11月 2023年11月 2024年11月 2025年11月

## ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値 (%)	12.0	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値 (%)	△ 14.0	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 2.7
平均値 (%)	△ 0.7	16.5	23.6	14.5	△ 2.3	4.9	8.4

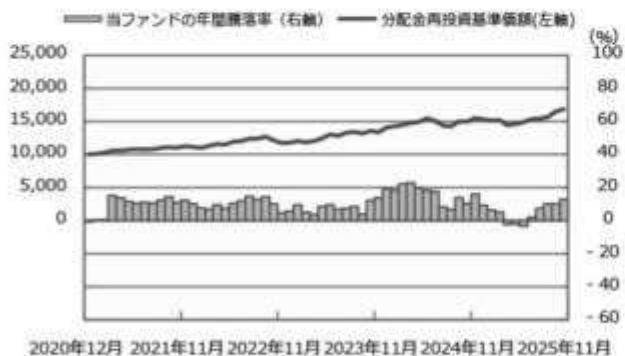
\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2020年12月末を10,000として指数化しております。

\* 年間騰落率は、2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

\* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。  
\* 2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。  
\* 決算日に対応した数値とは異なります。  
\* 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

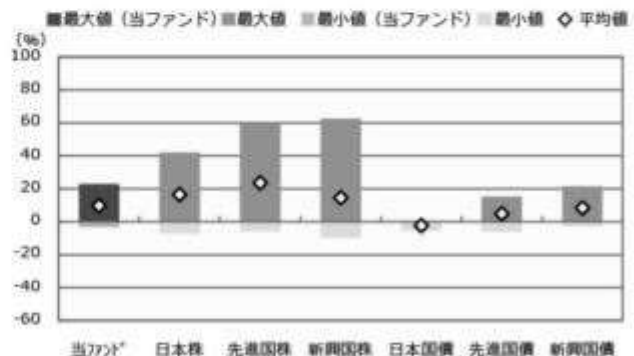
## IDコース

## ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移



2020年12月 2021年11月 2022年11月 2023年11月 2024年11月 2025年11月

## ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値 (%)	22.9	42.1	59.8	62.7	0.6	15.3	21.5
最小値 (%)	△ 3.3	△ 7.1	△ 5.8	△ 9.7	△ 5.5	△ 6.1	△ 2.7
平均値 (%)	9.7	16.5	23.6	14.5	△ 2.3	4.9	8.4

\* 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものです。2020年12月末を10,000として指数化しております。

\* 年間騰落率は、2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率を表示したものです。

\* 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。  
\* 2020年12月から2025年11月の5年間の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。  
\* 決算日に対応した数値とは異なります。  
\* 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

※ 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額と異なる場合があります。

＜代表的な資産クラスの指数＞

- 日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
- 先進国株：MSCI-KOKUSAI指数（配当込み、円ベース）
- 新興国株：MSCI Emerging Market Index（配当込み、円ベース）
- 日本国債：NOMURA-BPI国債
- 先進国債：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）
- 新興国債：JP Morgan Government Bond Emerging Market Index（円ベース）

■代表的な資産クラスの指数の著作権等について■

- 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）・・・配当込みTOPIX（「東証株価指数（TOPIX）（配当込み）」といいます。）の指数値及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標準又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウ及び東証株価指数（TOPIX）（配当込み）に係る標準又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）の指数値の算出又は公表の遅延、遅延又は中断に対し、責任を負いません。本商品は、J P X により提供、保証又は販売されるものではなく、本商品の設定、販売及び販売促進活動に起因するいかなる損害に対しても J P X は責任を負いません。
- MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）、MSCI Emerging Market Index（配当込み、円ベース）・・・MSCI-KOKUSAI 指数（配当込み、円ベース）、MSCI Emerging Market Index（配当込み、円ベース）は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的財産その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- NOMURA-BPI 国債・・・NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ & コンサルティング株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。
- FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）・・・FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。
- JP Morgan Government Bond Emerging Market Index（円ベース）・・・「JP Morgan Government Bond Emerging Market Index（円ベース）」（ここでは「指数」とよびます）については「指数」とよびます。ここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンフィメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価格や値域を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスも法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JP Morgan Chase & Co. 及びその子会社（以下、JPM）がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持ったり、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受人、プレースメント・エージェンシー、アドバイザー、または買主になっている可能性もあります。
- 米国の J.P. Morgan Securities LLC（ここでは「JPMS LLC」と呼びます）（「指数スポンサー」）は、指数に関する証券、金融商品または取引（ここでは「プロダクト」と呼びます）についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に関連させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。JPMS LLC は NASD、NYSE、SIPC の会員です。JP Morgan は JP Morgan Chase Bank, NA、JPST、J.P. Morgan Securities PLC.、またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

（出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他）

#### 4【手数料等及び税金】

##### （1）【申込手数料】

取得申込日の翌営業日の基準価額に、3.3%（申込手数料および当該申込手数料にかかる消費税等に相当する率）（税抜3.0%）以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。

詳しくは、販売会社にお問い合わせ下さい。販売会社については、「サポートダイヤル」までお問い合わせ下さい。

収益分配金を再投資する場合には無手数料とします。

購入時手数料は、商品及び関連する投資環境の説明および情報提供等、ならびに購入に関する事務コストの対価として、購入時に頂戴するものです。

##### （2）【換金（解約）手数料】

換金手数料はありません。

##### （3）【信託報酬等】

信託報酬の総額は、ファンドの計算期間を通じて毎日、ファンドの純資産総額に年1.848%（税抜年1.68%）の率（「信託報酬率」といいます。）を乗じて得た額とします。ファンドの信託報酬は、日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のときファンドから支払われます。

信託報酬率の配分については、次の通り（税抜）とします。

< 委託会社 >	< 販売会社 >	< 受託会社 >
年0.95%	年0.70%	年0.03%

運用の委託先が受ける報酬は、委託者が受ける報酬から、毎年4月および10月ならびに信託契約終了のとき支払うものとし、その報酬額は、信託財産に属する運用の指図に関する権限を委託する外国投資信託受益証券の時価総額の日々の平均値に、年0.60%を乗じて得た額とします。

#### 支払先の役務の内容

< 委託会社 >	< 販売会社 >	< 受託会社 >
ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等

#### (4) 【その他の手数料等】

ファンドにおいて一部解約に伴う支払資金の手当て等を目的として資金借入れの指図を行なった場合、当該借入金の利息はファンドから支払われます。

ファンドに関する租税、信託事務の処理に要する諸費用および受託者の立替えた立替金の利息等は、受益者の負担とし、ファンドから支払われます。

ファンドに関する組入有価証券の売買の際に発生する売買委託手数料、売買委託手数料に係る消費税等に相当する金額はファンドから支払われます。

監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用および当該監査費用に係る消費税等に相当する金額は、信託報酬支払いのときにファンドから支払われます。

\* これらの費用等の中には、運用状況等により変動するものがあり、事前に料率、上限額等を表示することができないものがあります。

#### (5) 【課税上の取扱い】

課税上は、株式投資信託として取扱われます。

個人、法人別の課税について

個人の投資家に対する課税

< 収益分配金に対する課税 >

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金については、20.315% (国税(所得税及び復興特別所得税) 15.315%および地方税5%)の税率による源泉徴収が行なわれます。なお、確定申告により、申告分離課税もしくは総合課税のいずれかを選択することもできます。

なお、配当控除は適用されません。

< 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対する課税 >

換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)については、申告分離課税により20.315% (国税 15.315%および地方税5%)の税率が適用され、源泉徴収口座を選択した場合は20.315%の税率により源泉徴収が行なわれます。

損益通算について

以下の所得間で損益通算が可能です。上場株式等の配当所得については申告分離課税を選択したものに限りません。

《利子所得》	《上場株式等に係る譲渡所得等》 <sup>(注2)</sup>	《配当所得》
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定公社債<sup>(注1)</sup>の利子</li> <li>・ 公募公社債投資信託の収益</li> <li>・ 分配金</li> </ul>	特定公社債、公募公社債投資信託、上場株式、公募株式投資信託の <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 譲渡益</li> <li>・ 譲渡損</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上場株式の配当</li> <li>・ 公募株式投資信託の収益</li> <li>・ 分配金</li> </ul>

(注1) 「特定公社債」とは、国債、地方債、外国国債、公募公社債、上場公社債、2015年12月31日以前に発行された公社債（同族会社が発行した社債を除きます。）などの一定の公社債をいいます。

(注2) 株式等に係る譲渡所得等について、上場株式等に係る譲渡所得等とそれ以外の株式等に係る譲渡所得等に区分し、別々の分離課税制度とすることとされ、原則として、これら相互の通算等ができないこととされました。

公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。ファンドは、NISAの対象ではありません。

#### 法人の投資家に対する課税

分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金（解約）時および償還時の個別元本超過額については、15.315%（国税15.315%）の税率で源泉徴収が行なわれます。なお、地方税の源泉徴収はありません。

源泉税は所有期間に応じて法人税額から控除

税金の取扱いの詳細については税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

#### 換金（解約）時および償還時の課税について

##### [ 個人の投資家の場合 ]

換金（解約）時および償還時の差益 については、譲渡所得とみなして課税が行われます。

換金（解約）時および償還時の価額から取得費（申込手数料（税込）を含む）を控除した利益を譲渡益として課税対象となります。

##### [ 法人の投資家の場合 ]

換金（解約）時および償還時の個別元本超過額が源泉徴収の対象（配当所得）となります。

なお、買取りによるご換金について、詳しくは販売会社にお問い合わせください。

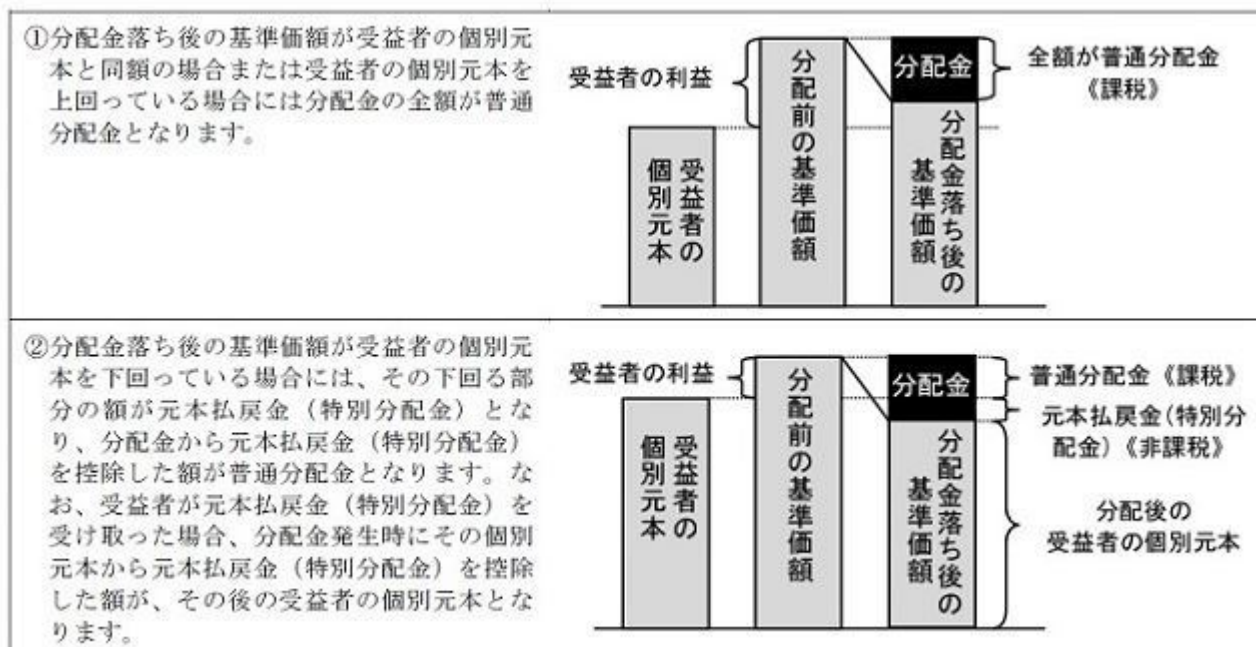
#### 個別元本について

追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本をいいます。

受益者が同一ファンドの受益権を複数回取得した場合や受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合などには、当該受益者の個別元本が変わりますので、詳しくは販売会社へお問い合わせください。

#### 分配金の課税について

分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者毎の元本の一部払戻しに相当する部分）があります。



上図はあくまでもイメージ図であり、個別元本や基準価額、分配金の各水準等を示唆するものではありません。

\* 上記は2025年11月末現在の情報に基づくものですので、税法が改正された場合等には、内容が変更される場合があります。

### （参考情報）ファンドの総経費率

（単位：％）

	総経費率 （①+②+③+④）	①ファンドの運用 管理費用の比率	②ファンドのそ の他費用の比率	③投資先ファンドの 運用管理費用の 比率	④投資先ファンドの 運用管理費用以 外の比率
Aコース	1.97	1.85	0.00	—	0.12
Bコース	1.97	1.85	0.00	—	0.12
Cコース	1.97	1.85	0.00	—	0.12
Dコース	1.97	1.85	0.00	—	0.12

（2025年4月17日～2025年10月16日）

\* 総経費率の算出にあたっては、作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。消費税等のかかるものは消費税等を含む。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除しています。

\* ファンドの費用は交付運用報告書に記載している1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

\* ファンドの費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

\* 投資先ファンドの費用は、投資先ファンドの開示基準に基づき算出したものです。

\* 各比率は、年率換算した値です。

\* 投資先ファンドとは、ファンドが組み入れている投資信託証券等（マザーファンドを除く。）です。

\* ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

\* ファンドのその他費用には、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用が含まれます。

\* ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

\* 投資先ファンドの純資産総額等によっては、投資先ファンドの運用管理費用以外の比率が高まる場合があります。

\* 投資先ファンドの費用は、交付運用報告書作成時点において、委託会社が知りうる情報をもとに作成しています。

\* 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

\* 最新の詳細費用につきましては、委託会社ホームページに掲載している交付運用報告書をご覧ください。

## 5【運用状況】

以下は2025年11月28日現在の運用状況であります。  
また、投資比率とはファンドの純資産総額に対する当該資産の時価比率をいいます。

## (1)【投資状況】

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	バミューダ	253,683,798,151	99.56
親投資信託受益証券	日本	2,002,590	0.00
現金・預金・その他資産(負債控除後)		1,105,995,563	0.43
合計(純資産総額)		254,791,796,304	100.00

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	バミューダ	121,424,466,248	99.08
親投資信託受益証券	日本	2,002,590	0.00
現金・預金・その他資産(負債控除後)		1,124,593,324	0.91
合計(純資産総額)		122,551,062,162	100.00

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	バミューダ	58,746,105,495	99.33
親投資信託受益証券	日本	2,002,590	0.00
現金・預金・その他資産(負債控除後)		390,769,362	0.66
合計(純資産総額)		59,138,877,447	100.00

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	バミューダ	94,185,672,980	98.48
親投資信託受益証券	日本	2,002,590	0.00
現金・預金・その他資産(負債控除後)		1,445,611,891	1.51
合計(純資産総額)		95,633,287,461	100.00

## (参考)野村マネーポートフォリオ マザーファンド

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
現金・預金・その他資産(負債控除後)		60,586,352	100.00
合計(純資産総額)		60,586,352	100.00

## (2)【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

順位	国/ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	バミューダ	投資信託受益証券	PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA-クラスN(JPY)	34,519,499	7,281	251,341,744,534	7,349	253,683,798,151	99.56
2	日本	親投資信託受益証券	野村マネーポートフォリオ マザーファンド	1,985,121	1.0082	2,001,398	1.0088	2,002,590	0.00

## 種類別及び業種別投資比率

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	99.56
親投資信託受益証券	0.00
合計	99.56

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

順位	国/ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	バミューダ	投資信託受益証券	PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA-クラスN(USD)	11,599,586	10,033	116,380,952,016	10,468	121,424,466,248	99.08
2	日本	親投資信託受益証券	野村マネーポートフォリオ マザーファンド	1,985,121	1.0082	2,001,398	1.0088	2,002,590	0.00

## 種類別及び業種別投資比率

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	99.08
親投資信託受益証券	0.00
合計	99.08

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

順位	国/ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	バミューダ	投資信託受益証券	PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA-クラスN(JPY)	7,993,755	7,298	58,338,423,990	7,349	58,746,105,495	99.33
2	日本	親投資信託受益証券	野村マネーポートフォリオ マザーファンド	1,985,121	1.0087	2,002,391	1.0088	2,002,590	0.00

## 種類別及び業種別投資比率

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	99.33
親投資信託受益証券	0.00
合計	99.33

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

順位	国/ 地域	種類	銘柄名	数量	簿価 単価 (円)	簿価 金額 (円)	評価 単価 (円)	評価 金額 (円)	投資 比率 (%)
1	バミューダ	投資信託受益証券	PIMCOバミューダ・インカム・ファンドA-クラスN(USD)	8,997,485	10,250	92,228,350,824	10,468	94,185,672,980	98.48
2	日本	親投資信託受益証券	野村マネーポートフォリオ マザーファンド	1,985,121	1.0087	2,002,391	1.0088	2,002,590	0.00

## 種類別及び業種別投資比率

種類	投資比率(%)
投資信託受益証券	98.48
親投資信託受益証券	0.00

合 計	98.48
-----	-------

（参考）野村マネーポートフォリオ マザーファンド

該当事項はありません。

種類別及び業種別投資比率

該当事項はありません。

【投資不動産物件】

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

該当事項はありません。

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

該当事項はありません。

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

該当事項はありません。

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

該当事項はありません。

（参考）野村マネーポートフォリオ マザーファンド

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

該当事項はありません。

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

該当事項はありません。

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

該当事項はありません。

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

該当事項はありません。

（参考）野村マネーポートフォリオ マザーファンド

該当事項はありません。

（3）【運用実績】

【純資産の推移】

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

2025年11月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

		純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額（円）	
		（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第1計算期間	(2016年10月17日)	17,025	17,041	1.0323	1.0333
第2計算期間	(2017年 4月17日)	51,325	51,374	1.0526	1.0536

第3計算期間	(2017年10月16日)	235,347	235,566	1.0735	1.0745
第4計算期間	(2018年 4月16日)	348,435	348,764	1.0595	1.0605
第5計算期間	(2018年10月16日)	322,958	323,269	1.0406	1.0416
第6計算期間	(2019年 4月16日)	300,208	300,489	1.0659	1.0669
第7計算期間	(2019年10月16日)	287,498	287,766	1.0742	1.0752
第8計算期間	(2020年 4月16日)	244,563	244,563	1.0085	1.0085
第9計算期間	(2020年10月16日)	236,158	236,378	1.0761	1.0771
第10計算期間	(2021年 4月16日)	211,842	212,031	1.1168	1.1178
第11計算期間	(2021年10月18日)	218,445	218,639	1.1303	1.1313
第12計算期間	(2022年 4月18日)	205,602	205,798	1.0465	1.0475
第13計算期間	(2022年10月17日)	204,292	204,292	0.9587	0.9587
第14計算期間	(2023年 4月17日)	237,227	237,227	0.9903	0.9903
第15計算期間	(2023年10月16日)	235,838	235,838	0.9586	0.9586
第16計算期間	(2024年 4月16日)	239,070	239,070	0.9799	0.9799
第17計算期間	(2024年10月16日)	240,159	240,159	1.0016	1.0016
第18計算期間	(2025年 4月16日)	236,871	236,871	0.9888	0.9888
第19計算期間	(2025年10月16日)	252,209	252,454	1.0314	1.0324
	2024年11月末日	238,350		0.9968	
	12月末日	234,751		0.9843	
	2025年 1月末日	236,710		0.9915	
	2月末日	239,022		1.0043	
	3月末日	240,876		1.0033	
	4月末日	240,595		1.0000	
	5月末日	240,012		0.9939	
	6月末日	244,426		1.0095	
	7月末日	243,272		1.0087	
	8月末日	247,659		1.0204	
	9月末日	251,021		1.0267	
	10月末日	252,788		1.0349	
	11月末日	254,791		1.0402	

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

2025年11月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記決算期末の純資産の推移は次の通りです。

		純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額(円)	
		（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第1計算期間	(2016年10月17日)	3,013	3,013	0.9836	0.9836
第2計算期間	(2017年 4月17日)	9,830	9,839	1.0599	1.0609
第3計算期間	(2017年10月16日)	25,291	25,313	1.1150	1.1160
第4計算期間	(2018年 4月16日)	33,764	33,796	1.0680	1.0690
第5計算期間	(2018年10月16日)	34,035	34,066	1.1030	1.1040
第6計算期間	(2019年 4月16日)	34,421	34,451	1.1490	1.1500
第7計算期間	(2019年10月16日)	40,175	40,210	1.1409	1.1419
第8計算期間	(2020年 4月16日)	37,157	37,192	1.0728	1.0738

第9計算期間	(2020年10月16日)	31,174	31,202	1.1262	1.1272
第10計算期間	(2021年 4月16日)	29,802	29,826	1.2103	1.2113
第11計算期間	(2021年10月18日)	31,997	32,022	1.2857	1.2867
第12計算期間	(2022年 4月18日)	35,400	35,427	1.3182	1.3192
第13計算期間	(2022年10月17日)	44,796	44,827	1.4394	1.4404
第14計算期間	(2023年 4月17日)	57,474	57,516	1.3726	1.3736
第15計算期間	(2023年10月16日)	73,169	73,217	1.5301	1.5311
第16計算期間	(2024年 4月16日)	88,970	89,023	1.6625	1.6635
第17計算期間	(2024年10月16日)	102,544	102,605	1.6902	1.6912
第18計算期間	(2025年 4月16日)	100,723	100,784	1.6335	1.6345
第19計算期間	(2025年10月16日)	114,993	115,055	1.8454	1.8464
	2024年11月末日	103,114		1.7135	
	12月末日	107,975		1.7725	
	2025年 1月末日	107,864		1.7545	
	2月末日	106,725		1.7347	
	3月末日	106,860		1.7425	
	4月末日	101,488		1.6499	
	5月末日	103,664		1.6698	
	6月末日	105,223		1.7067	
	7月末日	108,223		1.7594	
	8月末日	109,151		1.7633	
	9月末日	112,009		1.7992	
	10月末日	118,500		1.8882	
	11月末日	122,551		1.9309	

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

2025年11月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記特定期間末の純資産の推移は次の通りです。

		純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額(円)	
		（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第1特定期間	(2016年10月17日)	12,669	12,693	1.0209	1.0229
第2特定期間	(2017年 4月17日)	32,796	32,860	1.0299	1.0319
第3特定期間	(2017年10月16日)	84,341	84,503	1.0395	1.0415
第4特定期間	(2018年 4月16日)	110,815	111,033	1.0151	1.0171
第5特定期間	(2018年10月16日)	106,453	106,669	0.9861	0.9881
第6特定期間	(2019年 4月16日)	99,912	100,112	0.9986	1.0006
第7特定期間	(2019年10月16日)	100,142	100,343	0.9954	0.9974
第8特定期間	(2020年 4月16日)	97,557	97,768	0.9236	0.9256
第9特定期間	(2020年10月16日)	97,781	97,981	0.9745	0.9765
第10特定期間	(2021年 4月16日)	97,139	97,333	1.0002	1.0022
第11特定期間	(2021年10月18日)	102,487	102,692	1.0011	1.0031
第12特定期間	(2022年 4月18日)	100,108	100,327	0.9164	0.9184
第13特定期間	(2022年10月17日)	92,093	92,316	0.8281	0.8301
第14特定期間	(2023年 4月17日)	91,992	92,210	0.8436	0.8456

第15特定期間	(2023年10月16日)	85,597	85,810	0.8049	0.8069
第16特定期間	(2024年 4月16日)	82,943	83,148	0.8108	0.8128
第17特定期間	(2024年10月16日)	76,956	77,144	0.8166	0.8186
第18特定期間	(2025年 4月16日)	67,196	67,365	0.7942	0.7962
第19特定期間	(2025年10月16日)	60,767	60,916	0.8170	0.8190
	2024年11月末日	74,578		0.8106	
	12月末日	71,904		0.7985	
	2025年 1月末日	71,131		0.8023	
	2月末日	70,654		0.8106	
	3月末日	68,967		0.8078	
	4月末日	67,683		0.8031	
	5月末日	66,703		0.7962	
	6月末日	66,776		0.8066	
	7月末日	64,132		0.8040	
	8月末日	63,570		0.8114	
	9月末日	61,837		0.8144	
	10月末日	60,471		0.8197	
	11月末日	59,138		0.8219	

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

2025年11月末日及び同日前1年以内における各月末並びに下記特定期間末の純資産の推移は次の通りです。

		純資産総額（百万円）		1口当たり純資産額(円)	
		（分配落）	（分配付）	（分配落）	（分配付）
第1特定期間	(2016年10月17日)	4,938	4,954	0.9699	0.9729
第2特定期間	(2017年 4月17日)	11,574	11,608	1.0266	1.0296
第3特定期間	(2017年10月16日)	21,542	21,603	1.0634	1.0664
第4特定期間	(2018年 4月16日)	29,308	29,395	1.0027	1.0057
第5特定期間	(2018年10月16日)	30,387	30,476	1.0187	1.0217
第6特定期間	(2019年 4月16日)	31,066	31,155	1.0436	1.0466
第7特定期間	(2019年10月16日)	32,962	33,059	1.0188	1.0218
第8特定期間	(2020年 4月16日)	32,691	32,796	0.9420	0.9450
第9特定期間	(2020年10月16日)	30,769	30,864	0.9717	0.9747
第10特定期間	(2021年 4月16日)	30,031	30,119	1.0264	1.0294
第11特定期間	(2021年10月18日)	31,723	31,812	1.0729	1.0759
第12特定期間	(2022年 4月18日)	35,287	35,385	1.0823	1.0853
第13特定期間	(2022年10月17日)	39,180	39,281	1.1637	1.1667
第14特定期間	(2023年 4月17日)	42,174	42,290	1.0922	1.0952
第15特定期間	(2023年10月16日)	53,841	53,976	1.1994	1.2024
第16特定期間	(2024年 4月16日)	61,887	62,032	1.2851	1.2881
第17特定期間	(2024年10月16日)	65,390	65,697	1.2767	1.2827
第18特定期間	(2025年 4月16日)	70,913	71,268	1.2002	1.2062
第19特定期間	(2025年10月16日)	88,640	89,044	1.3180	1.3240
	2024年11月末日	68,407		1.2883	

12月末日	71,910		1.3265
2025年 1月末日	71,759		1.3071
2月末日	71,341		1.2865
3月末日	75,673		1.2863
4月末日	72,791		1.2123
5月末日	74,686		1.2209
6月末日	76,774		1.2417
7月末日	80,034		1.2736
8月末日	84,826		1.2705
9月末日	86,703		1.2902
10月末日	91,105		1.3486
11月末日	95,633		1.3729

## 【分配の推移】

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

	計算期間	1口当たりの分配金
第1計算期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	0.0010円
第2計算期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	0.0010円
第3計算期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	0.0010円
第4計算期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	0.0010円
第5計算期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	0.0010円
第6計算期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	0.0010円
第7計算期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	0.0010円
第8計算期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	0.0000円
第9計算期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	0.0010円
第10計算期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	0.0010円
第11計算期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	0.0010円
第12計算期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	0.0010円
第13計算期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	0.0000円
第14計算期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	0.0000円
第15計算期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	0.0000円
第16計算期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	0.0000円
第17計算期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	0.0000円
第18計算期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	0.0000円
第19計算期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	0.0010円

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

	計算期間	1口当たりの分配金
第1計算期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	0.0000円
第2計算期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	0.0010円
第3計算期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	0.0010円
第4計算期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	0.0010円

第5計算期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	0.0010円
第6計算期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	0.0010円
第7計算期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	0.0010円
第8計算期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	0.0010円
第9計算期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	0.0010円
第10計算期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	0.0010円
第11計算期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	0.0010円
第12計算期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	0.0010円
第13計算期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	0.0010円
第14計算期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	0.0010円
第15計算期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	0.0010円
第16計算期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	0.0010円
第17計算期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	0.0010円
第18計算期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	0.0010円
第19計算期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	0.0010円

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

	計算期間	1口当たりの分配金
第1特定期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	0.0100円
第2特定期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	0.0120円
第3特定期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	0.0120円
第4特定期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	0.0120円
第5特定期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	0.0120円
第6特定期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	0.0120円
第7特定期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	0.0120円
第8特定期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	0.0120円
第9特定期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	0.0120円
第10特定期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	0.0120円
第11特定期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	0.0120円
第12特定期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	0.0120円
第13特定期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	0.0120円
第14特定期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	0.0120円
第15特定期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	0.0120円
第16特定期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	0.0120円
第17特定期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	0.0120円
第18特定期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	0.0120円
第19特定期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	0.0120円

各特定期間中の分配金単価の合計を表示しております。

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

	計算期間	1口当たりの分配金
第1特定期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	0.0150円
第2特定期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	0.0180円

第3特定期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	0.0180円
第4特定期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	0.0180円
第5特定期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	0.0180円
第6特定期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	0.0180円
第7特定期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	0.0180円
第8特定期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	0.0180円
第9特定期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	0.0180円
第10特定期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	0.0180円
第11特定期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	0.0180円
第12特定期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	0.0180円
第13特定期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	0.0180円
第14特定期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	0.0180円
第15特定期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	0.0180円
第16特定期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	0.0180円
第17特定期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	0.0300円
第18特定期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	0.0360円
第19特定期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	0.0360円

各特定期間中の分配金単価の合計を表示しております。

#### 【収益率の推移】

#### 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

	計算期間	収益率
第1計算期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	3.3%
第2計算期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	2.1%
第3計算期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	2.1%
第4計算期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	1.2%
第5計算期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	1.7%
第6計算期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	2.5%
第7計算期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	0.9%
第8計算期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	6.1%
第9計算期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	6.8%
第10計算期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	3.9%
第11計算期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	1.3%
第12計算期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	7.3%
第13計算期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	8.4%
第14計算期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	3.3%
第15計算期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	3.2%
第16計算期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	2.2%
第17計算期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	2.2%
第18計算期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	1.3%
第19計算期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	4.4%

各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

	計算期間	収益率
第1計算期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	1.6%
第2計算期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	7.9%
第3計算期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	5.3%
第4計算期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	4.1%
第5計算期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	3.4%
第6計算期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	4.3%
第7計算期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	0.6%
第8計算期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	5.9%
第9計算期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	5.1%
第10計算期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	7.6%
第11計算期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	6.3%
第12計算期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	2.6%
第13計算期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	9.3%
第14計算期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	4.6%
第15計算期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	11.5%
第16計算期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	8.7%
第17計算期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	1.7%
第18計算期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	3.3%
第19計算期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	13.0%

各計算期間の収益率は、計算期間末の基準価額（分配付の額）から当該計算期間の直前の計算期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

	計算期間	収益率
第1特定期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	3.1%
第2特定期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	2.1%
第3特定期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	2.1%
第4特定期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	1.2%
第5特定期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	1.7%
第6特定期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	2.5%
第7特定期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	0.9%
第8特定期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	6.0%
第9特定期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	6.8%
第10特定期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	3.9%
第11特定期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	1.3%
第12特定期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	7.3%
第13特定期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	8.3%
第14特定期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	3.3%

第15特定期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	3.2%
第16特定期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	2.2%
第17特定期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	2.2%
第18特定期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	1.3%
第19特定期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	4.4%

各特定期間中の分配金単価の合計を加算して算出しております。

各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額（期間中の分配金を加算した額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

#### 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

	計算期間	収益率
第1特定期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	1.5%
第2特定期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	7.7%
第3特定期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	5.3%
第4特定期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	4.0%
第5特定期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	3.4%
第6特定期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	4.2%
第7特定期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	0.7%
第8特定期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	5.8%
第9特定期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	5.1%
第10特定期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	7.5%
第11特定期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	6.3%
第12特定期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	2.6%
第13特定期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	9.2%
第14特定期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	4.6%
第15特定期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	11.5%
第16特定期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	8.6%
第17特定期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	1.7%
第18特定期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	3.2%
第19特定期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	12.8%

各特定期間中の分配金単価の合計を加算して算出しております。

各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額（期間中の分配金を加算した額）から当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じて得た数を記載しております。なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

#### （４）【設定及び解約の実績】

#### 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

	計算期間	設定口数	解約口数	発行済み口数
第1計算期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	16,538,189,112	44,910,233	16,493,278,879
第2計算期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	34,182,305,872	1,915,935,633	48,759,649,118
第3計算期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	174,779,322,803	4,297,364,887	219,241,607,034
第4計算期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	124,995,289,704	15,372,630,976	328,864,265,762
第5計算期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	20,347,695,388	38,861,072,275	310,350,888,875
第6計算期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	12,802,485,756	41,498,945,634	281,654,428,997

第7計算期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	21,995,225,234	36,000,787,200	267,648,867,031
第8計算期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	15,402,590,697	40,539,192,783	242,512,264,945
第9計算期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	11,590,619,867	34,642,345,495	219,460,539,317
第10計算期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	15,392,757,753	45,173,429,309	189,679,867,761
第11計算期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	23,634,300,043	20,042,997,109	193,271,170,695
第12計算期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	17,930,715,787	14,727,158,112	196,474,728,370
第13計算期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	26,905,298,144	10,286,737,894	213,093,288,620
第14計算期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	36,078,471,024	9,631,875,693	239,539,883,951
第15計算期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	24,861,335,662	18,383,159,659	246,018,059,954
第16計算期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	24,325,722,132	26,372,967,282	243,970,814,804
第17計算期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	23,628,372,149	27,832,286,669	239,766,900,284
第18計算期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	21,745,297,496	21,968,549,851	239,543,647,929
第19計算期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	25,229,633,878	20,250,444,001	244,522,837,806

本邦外における設定及び解約の実績はありません。

#### 野村 P I M C O ・世界インカム戦略ファンド Bコース

	計算期間	設定口数	解約口数	発行済み口数
第1計算期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	3,089,547,270	26,168,827	3,063,378,443
第2計算期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	6,866,567,686	654,941,840	9,275,004,289
第3計算期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	14,985,942,849	1,579,321,727	22,681,625,411
第4計算期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	11,812,743,368	2,879,438,551	31,614,930,228
第5計算期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	4,075,041,742	4,834,235,828	30,855,736,142
第6計算期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	6,919,020,469	7,817,471,533	29,957,285,078
第7計算期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	8,515,914,441	3,259,228,164	35,213,971,355
第8計算期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	5,929,301,755	6,505,547,110	34,637,726,000
第9計算期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	1,711,124,844	8,668,489,382	27,680,361,462
第10計算期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	2,404,317,013	5,460,294,280	24,624,384,195
第11計算期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	2,533,469,428	2,271,669,831	24,886,183,792
第12計算期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	4,388,202,141	2,418,764,308	26,855,621,625
第13計算期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	7,614,571,117	3,347,586,692	31,122,606,050
第14計算期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	13,854,461,732	3,105,547,310	41,871,520,472
第15計算期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	10,802,327,617	4,853,647,817	47,820,200,272
第16計算期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	10,949,183,576	5,252,190,089	53,517,193,759
第17計算期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	13,330,830,109	6,177,207,467	60,670,816,401
第18計算期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	8,738,338,937	7,749,616,232	61,659,539,106
第19計算期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	8,224,603,658	7,571,957,709	62,312,185,055

本邦外における設定及び解約の実績はありません。

#### 野村 P I M C O ・世界インカム戦略ファンド Cコース

	計算期間	設定口数	解約口数	発行済み口数
第1特定期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	12,691,179,777	280,886,260	12,410,293,517
第2特定期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	20,875,379,181	1,441,611,770	31,844,060,928
第3特定期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	51,376,890,203	2,086,703,450	81,134,247,681

第4特定期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	33,245,407,297	5,216,266,382	109,163,388,596
第5特定期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	11,747,271,645	12,951,298,653	107,959,361,588
第6特定期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	5,188,974,417	13,099,873,910	100,048,462,095
第7特定期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	12,366,760,672	11,808,212,738	100,607,010,029
第8特定期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	16,215,274,566	11,198,020,440	105,624,264,155
第9特定期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	7,177,407,598	12,461,928,272	100,339,743,481
第10特定期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	9,634,951,917	12,855,011,191	97,119,684,207
第11特定期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	11,873,800,197	6,616,787,641	102,376,696,763
第12特定期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	12,137,919,660	5,267,132,760	109,247,483,663
第13特定期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	6,992,507,869	5,026,771,674	111,213,219,858
第14特定期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	6,965,760,400	9,133,143,621	109,045,836,637
第15特定期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	4,713,972,134	7,409,038,553	106,350,770,218
第16特定期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	4,658,532,741	8,704,694,664	102,304,608,295
第17特定期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	2,561,947,321	10,628,279,744	94,238,275,872
第18特定期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	737,001,269	10,362,327,973	84,612,949,168
第19特定期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	1,822,200,120	12,052,551,328	74,382,597,960

本邦外における設定及び解約の実績はありません。

#### 野村 P I M C O ・ 世界インカム戦略ファンド Dコース

	計算期間	設定口数	解約口数	発行済み口数
第1特定期間	2016年 4月22日～2016年10月17日	5,110,100,410	18,192,075	5,091,908,335
第2特定期間	2016年10月18日～2017年 4月17日	7,726,081,394	1,543,202,207	11,274,787,522
第3特定期間	2017年 4月18日～2017年10月16日	10,839,743,186	1,855,220,366	20,259,310,342
第4特定期間	2017年10月17日～2018年 4月16日	10,621,056,849	1,651,495,443	29,228,871,748
第5特定期間	2018年 4月17日～2018年10月16日	4,179,621,789	3,578,309,869	29,830,183,668
第6特定期間	2018年10月17日～2019年 4月16日	5,395,713,122	5,456,364,866	29,769,531,924
第7特定期間	2019年 4月17日～2019年10月16日	6,764,775,544	4,178,683,729	32,355,623,739
第8特定期間	2019年10月17日～2020年 4月16日	7,600,056,095	5,249,324,179	34,706,355,655
第9特定期間	2020年 4月17日～2020年10月16日	1,985,547,362	5,025,318,005	31,666,585,012
第10特定期間	2020年10月17日～2021年 4月16日	1,886,484,126	4,294,005,804	29,259,063,334
第11特定期間	2021年 4月17日～2021年10月18日	2,626,440,196	2,317,951,332	29,567,552,198
第12特定期間	2021年10月19日～2022年 4月18日	4,412,043,726	1,375,568,513	32,604,027,411
第13特定期間	2022年 4月19日～2022年10月17日	3,791,702,864	2,726,770,701	33,668,959,574
第14特定期間	2022年10月18日～2023年 4月17日	7,724,438,264	2,779,099,268	38,614,298,570
第15特定期間	2023年 4月18日～2023年10月16日	9,024,226,165	2,747,107,879	44,891,416,856
第16特定期間	2023年10月17日～2024年 4月16日	6,509,103,211	3,241,533,919	48,158,986,148
第17特定期間	2024年 4月17日～2024年10月16日	7,008,413,528	3,947,835,133	51,219,564,543
第18特定期間	2024年10月17日～2025年 4月16日	11,645,304,650	3,780,723,409	59,084,145,784
第19特定期間	2025年 4月17日～2025年10月16日	11,304,880,732	3,137,274,186	67,251,752,330

本邦外における設定及び解約の実績はありません。

#### 参考情報

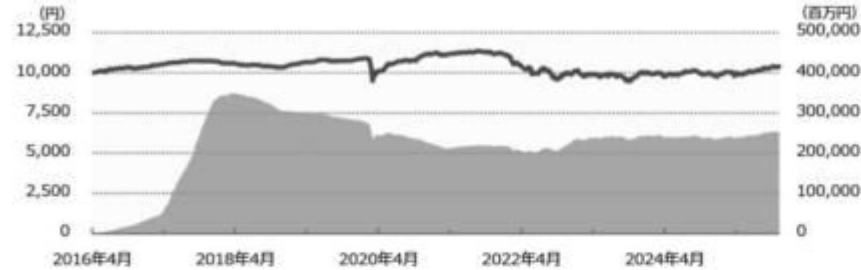


# 運用実績 (2025年11月28日現在)

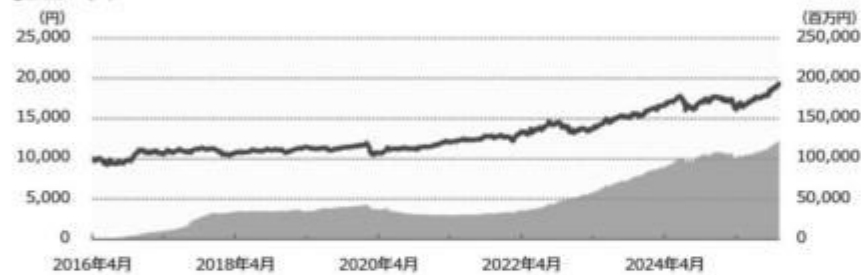
## ■ 基準価額・純資産の推移 (日次：設定来)

— 基準価額（分配後、1万口あたり）（左軸） — 純資産総額（右軸）

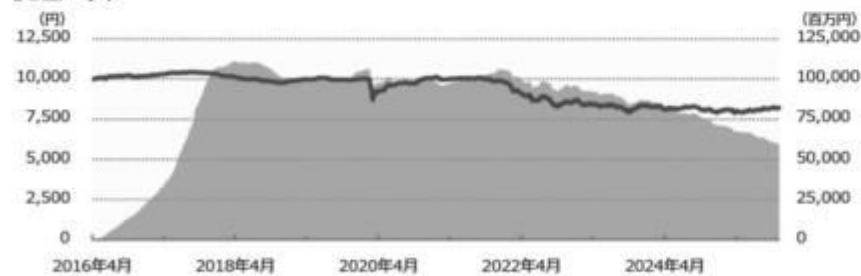
### IAコース



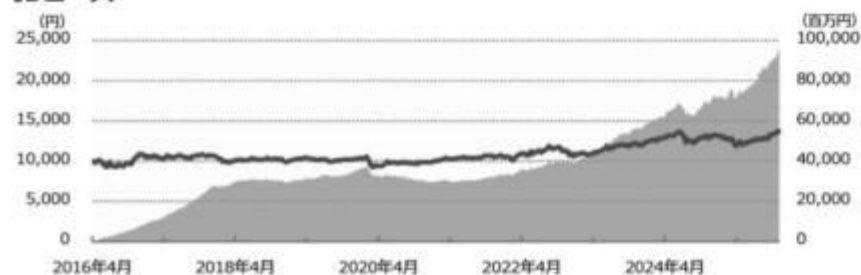
### IBコース



### ICコース



### IDコース



## ■ 分配の推移

(1万口あたり、課税前)

### IAコース

2025年10月	10 円
2025年4月	0 円
2024年10月	0 円
2024年4月	0 円
2023年10月	0 円
設定来累計	120 円

### IBコース

2025年10月	10 円
2025年4月	10 円
2024年10月	10 円
2024年4月	10 円
2023年10月	10 円
設定来累計	180 円

### ICコース

2025年11月	20 円
2025年10月	20 円
2025年9月	20 円
2025年8月	20 円
2025年7月	20 円
直近1年間累計	240 円
設定来累計	2,280 円

### IDコース

2025年11月	60 円
2025年10月	60 円
2025年9月	60 円
2025年8月	60 円
2025年7月	60 円
直近1年間累計	720 円
設定来累計	3,930 円

## ■ 主要な資産の状況

実質的な銘柄別投資比率（上位）

順位	銘柄	種類	投資比率（%）			
			Aコース	Bコース	Cコース	Dコース
1	FNMA TBA 6.5% DEC 30YR	米国政府系住宅ローン担保証券	5.8	5.8	5.8	5.8
2	GNMA II TBA 3.0% NOV 30YR JMBO	米国政府系住宅ローン担保証券	3.7	3.7	3.6	3.7
3	GNMA II TBA 4.0% NOV 30YR JMBO	米国政府系住宅ローン担保証券	3.6	3.6	3.6	3.6
4	GNMA II TBA 4.5% NOV 30YR JMBO	米国政府系住宅ローン担保証券	3.1	3.1	3.1	3.1
5	FNMA TBA 6.0% DEC 30YR	米国政府系住宅ローン担保証券	3.1	3.1	3.1	3.1
6	GNMA II TBA 4.5% DEC 30YR JMBO	米国政府系住宅ローン担保証券	2.9	2.9	2.9	2.9
7	GNMA II TBA 5.0% NOV 30YR JMBO	米国政府系住宅ローン担保証券	2.5	2.5	2.5	2.5
8	GNMA II MULTPL SGL 30YR #MB0552M	米国政府系住宅ローン担保証券	2.5	2.5	2.5	2.5
9	GNMA II TBA 5.5% DEC 30YR JMBO	米国政府系住宅ローン担保証券	2.5	2.5	2.5	2.5
10	GNMA II TBA 5.0% DEC 30YR JMBO	米国政府系住宅ローン担保証券	2.4	2.4	2.4	2.4

・2025年10月31日現在のデータを使用。

## ■ 年間収益率の推移（暦年ベース）

### IAコース



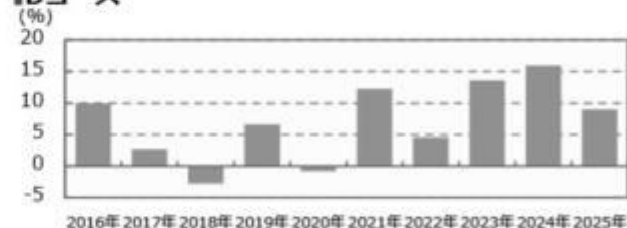
### IBコース



### ICコース



### IDコース



- ・ファンドの年間収益率は税引前分配金を再投資して算出。
- ・ファンドにベンチマークはありません。
- ・2016年は設定日（2016年4月22日）から年末までの収益率。
- ・2025年は年初から運用実績作成基準日までの収益率。

●ファンドの運用実績はあくまで過去の実績であり、将来の運用成果を約束するものではありません。●ファンドの運用状況は、別途、委託会社ホームページで開示している場合があります。●グラフの縦軸の目盛りはファンドごとに異なる場合があります。

## 第2【管理及び運営】

### 1【申込（販売）手続等】

#### (1)受益権の募集

申込期間中の各営業日に受益権の募集が行なわれます。

販売会社によっては、一部のファンドのみのお取扱いとなる場合があります。

## (2) 申込締切時間

原則、午後3時30分までに取得申込みが行なわれかつ当該取得申込みの受け付けにかかる販売会社所定の事務手続きが完了したものを当日の申込み分とします。

（販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。）

## (3) 申込不可日

販売会社の営業日であっても、下記の条件に該当する日（「申込不可日」といいます。）には、原則として取得およびスイッチングの申込みができません。（申込不可日については、「サポートダイヤル」でもご確認いただけます。）

申込日当日がニューヨーク証券取引所の休場日と同日の場合

## (4) 販売単位

1万口以上1口単位（当初元本1口＝1円）または1万円以上1円単位とします。

## (5) 販売価額

取得申込日の翌営業日の基準価額とします。

## (6) 申込代金の支払い

販売会社の定める期日までに支払うものとします。

## (7) スイッチング

「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド」を構成する各ファンド間でスイッチングができます。

なお、「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド 為替ナビ Eコース」の換金代金をもって、「Aコース」「Bコース」へのスイッチング、「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド 為替ナビ Fコース」の換金代金をもって、「Cコース」「Dコース」へのスイッチングが可能です。

スイッチングの方法等は、購入、換金の場合と同様です。

（販売会社によっては、一部または全部のスイッチングのお取扱いを行わない場合があります。）

## (8) 積立方式

販売会社によっては、「定時定額購入サービス」等に関する契約を締結した場合、当該契約で規定する取得申込の単位でお申込みいただけます。

当該契約または規定については、同様の権利義務関係を規定する名称の異なる契約または規定を使用することがあります。

## (9) 申込受け付けの中止および取り消し

金融商品取引所（金融商品取引法第2条第16項に規定する金融商品取引所および金融商品取引法第2条第8項第3号に規定する外国金融商品市場をいいます。以下同じ。なお、金融商品取引所を単に「取引所」という場合があり、取引所のうち、有価証券の売買または金融商品取引法第28条第8項第3号もしくは同項第5号の取引を行なう市場ないしは当該市場を開設するものを「証券取引所」という場合があります。）等における取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます。）、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情（実質的な投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大

な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等)による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等)があるときは、受益権の取得申込の受け付け(スイッチングの申込みを含みます。)を中止することおよびすでに受け付けた取得申込の受け付け(スイッチングの申込みを含みます。)を取り消す場合があります。

#### (10) 申込手続等に関する照会先

ファンドの申込(販売)手続等についてご不明な点がある場合には、下記の照会先までお問い合わせ下さい。

野村アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 0120-753104(フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <https://www.nomura-am.co.jp/>

購入およびスイッチングのお申込みの方法ならびに単位等について、販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 2【換金(解約)手続等】

### (1) 解約の請求

受益者が一部解約の実行の請求をするときは、販売会社に対し、振替受益権をもって行なうものとします。

### (2) 解約請求の締切時間

一部解約の実行の請求の受け付けについては、原則、午後3時30分までに解約請求の申込みが行われ、かつ、その解約請求の申込みの受け付けにかかる販売会社所定の事務手続が完了したものを当日の申込み分とします。

(販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。)

### (3) 申込不可日

販売会社の営業日であっても、申込不可日には原則として受益権の一部解約の実行の請求ができません。(申込不可日については、「サポートダイヤル」でもご確認いただけます。)

### (4) 換金単位

1口単位または1円単位で一部解約の実行を請求することができます。

### (5) 換金価額

換金申込日の翌営業日の基準価額となります。

### (6) 換金制限

信託財産の資金管理を円滑に行なうため、大口換金には制限を設ける場合があります。

### (7) 換金代金の支払い

原則として一部解約の実行の請求日から起算して6営業日目から販売会社において支払います。

ただし、金融商品取引所等における取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます。）、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情（実質的な投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）により、投資対象資産の売却や売却代金の入金が遅延したとき等は、一部解約金の支払いを延期する場合があります。

#### (8)解約請求の受け付けの中止および取り消し

金融商品取引所等における取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます。）、外国為替取引の停止、決済機能の停止その他やむを得ない事情（実質的な投資対象国における非常事態（金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争等）による市場の閉鎖もしくは流動性の極端な減少等）があるときは、一部解約の実行の請求の受け付けを中止することおよびすでに受け付けた一部解約の実行の請求の受け付けを取り消す場合があります。

また、一部解約の実行の請求の受け付けが中止された場合には、受益者は当該受け付け中止以前に行なった当日の一部解約の実行の請求を撤回できます。ただし、受益者がその一部解約の実行の請求を撤回しない場合には、当該受益権の一部解約の価額は、当該受け付け中止を解除した後の最初の基準価額の計算日に一部解約の実行の請求を受け付けたものとして信託約款の規定に準じて計算された価額とします。

#### (9)換金手続等に関する照会先

ファンドの換金（解約）手続等についてご不明な点がある場合には、下記の照会先までお問い合わせ下さい。

野村アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 0120-753104(フリーダイヤル)

<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <https://www.nomura-am.co.jp/>

換金のお申込みの方法ならびに単位等について、販売会社によっては上記と異なる場合があります。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

### 3【資産管理等の概要】

#### (1)【資産の評価】

##### <基準価額の計算方法>

基準価額とは、計算日において、信託財産に属する資産（受入担保金代用有価証券および借入有価証券を除きます。）を法令および一般社団法人投資信託協会規則にしたがって時価または一部償却原価法により評価して得た信託財産の資産総額から負債総額を控除した金額（「純資産総額」といいます。）を、計算日における受益権口数で除して得た額をいいます。なお、ファンドにおいては1万口当たりの価額で表示されます。

ファンドの主な投資対象の評価方法は以下の通りです。

対象	評価方法
外国投資信託	原則、基準価額計算日の前日(前日が当該外国投資信託の営業日でない場合はとりうる直近)の純資産価格で評価します。
公社債等	原則として、基準価額計算日 <sup>1</sup> における以下のいずれかの価額で評価します。 <sup>2</sup> 日本証券業協会が発表する売買参考統計値(平均値) 金融商品取引業者、銀行等の提示する価額(売気配相場を除く) 価格情報会社の提供する価額

1 外国で取引されているものについては、原則として、基準価額計算日の前日とします。

2 残存期間1年以内の公社債等については、一部償却原価法(アキュムレーションまたはアモチゼーション)による評価を適用することができます。

ファンドの基準価額については下記の照会先までお問い合わせ下さい。

野村アセットマネジメント株式会社

サポートダイヤル 0120-753104 (フリーダイヤル)

< 受付時間 > 営業日の午前9時～午後5時

インターネットホームページ <https://www.nomura-am.co.jp/>

## (2) 【保管】

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、受益証券を発行しませんので、受益証券の保管に関する該当事項はありません。

## (3) 【信託期間】

2031年4月16日までとします(2016年4月22日設定)。

なお、委託者は、信託期間満了前に、信託期間の延長が受益者に有利であると認めたときは、受託者と協議のうえ、信託期間を延長することができます。

## (4) 【計算期間】

< 年2回決算型 (Aコース、Bコース) >

原則として、毎年4月17日から10月16日までおよび10月17日から翌年4月16日までとします。

< 毎月分配型 (Cコース、Dコース) >

原則として、毎月17日から翌月16日までとします。

なお、各計算期間終了日に該当する日(以下「該当日」といいます。)が休業日のとき、各計算期間終了日は該当日の翌営業日とし、その翌日より次の計算期間が開始されるものとします。ただし、最終計算期間の終了日は、信託期間の終了日とします。

## (5) 【その他】

(a) ファンドの繰上償還条項

( ) 委託者は、信託終了前に、信託契約の一部を解約することにより各ファンドにつき受益権の口数

が30億口を下回った場合、または各ファンド、「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド 為替ナビ Eコース」、「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド 為替ナビ Fコース」の受益権の口数を合計した口数が50億口を下回った場合、この信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させることができます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

- ( )委託者は、各ファンドにつき、主要投資対象とする外国投資信託受益証券が存続しないこととなる場合には、受託者と合意のうえ、この信託契約を解約し、信託を終了させます。この場合において、委託者は、あらかじめ、解約しようとする旨を監督官庁に届け出ます。

(b) 信託期間の終了

- ( )委託者は、上記「(a)ファンドの繰上償還条項( )」に従い信託期間を終了させるには、書面による決議(以下「書面決議」といいます。)を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに信託契約の解約の理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託契約に係る知っている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を發します。
- ( )上記( )の書面決議において、受益者(委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。)は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行行使することができます。なお、知っている受益者が議決権を行行使しないときは、当該知っている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- ( )上記( )の書面決議は議決権を行行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行ないます。
- ( )上記( )から( )までの規定は、委託者が信託契約の解約について提案をした場合において、当該提案につき、この信託契約に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。また、信託財産の状態に照らし、真にやむを得ない事情が生じている場合であって、上記( )から( )までに規定するこの信託契約の解約の手続を行なうことが困難な場合には適用しません。
- ( )委託者は、監督官庁よりこの信託契約の解約の命令を受けたときは、その命令にしたがい、信託契約を解約し信託を終了させます。
- ( )委託者が監督官庁より登録の取消を受けたとき、解散したときまたは業務を廃止したときは、委託者は、この信託契約を解約し、信託を終了させます。ただし、監督官庁がこの信託契約に関する委託者の業務を他の投資信託委託会社に引き継ぐことを命じたときは、この信託は、下記「(d)信託約款の変更等」の書面決議が否決となる場合を除き、当該投資信託委託会社と受託者との間において存続します。

(c) 運用報告書

各ファンドにつき、毎年4月、10月に終了する計算期間の末日および償還時に交付運用報告書を作成し、知っている受益者に対して交付します。

(d) 信託約款の変更等

- ( )委託者は、受益者の利益のため必要と認めるときまたはやむを得ない事情が発生したときは、受託者と合意のうえ、この信託約款を変更することまたはこの信託と他の信託との併合(投資信託及び投資法人に関する法律第16条第2号に規定する「委託者指図型投資信託の併合」をいいます。)を行なうことができるものとし、あらかじめ、変更または併合しようとする旨およびその内容を監督官庁に届け出ます。なお、この信託約款は本条に定める以外の方法によって変更することができ

ないものとしします。

- ( ) 委託者は、上記( )の事項（上記( )の変更事項にあつてはその変更の内容が重大なものに該当する場合に限り、併合事項にあつてはその併合が受益者の利益に及ぼす影響が軽微なものに該当する場合を除き、以下、合わせて「重大な約款の変更等」といいます。）について、書面決議を行ないます。この場合において、あらかじめ、書面決議の日ならびに重大な約款の変更等の内容およびその理由などの事項を定め、当該決議の日の2週間前までに、この信託約款に係る知れている受益者に対し、書面をもってこれらの事項を記載した書面決議の通知を発送します。
- ( ) 上記( )の書面決議において、受益者（委託者およびこの信託の信託財産にこの信託の受益権が属するときの当該受益権に係る受益者としての受託者を除きます。）は受益権の口数に応じて、議決権を有し、これを行使することができます。なお、知れている受益者が議決権を行使しないときは、当該知れている受益者は書面決議について賛成するものとみなします。
- ( ) 上記( )の書面決議は議決権を行使することができる受益者の議決権の3分の2以上に当たる多数をもって行ないます。
- ( ) 書面決議の効力は、この信託のすべての受益者に対してその効力を生じます。
- ( ) 上記( )から( )までの規定は、委託者が重大な約款の変更等について提案をした場合において、当該提案につき、この信託約款に係るすべての受益者が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときには適用しません。
- ( ) 上記( )から( )の規定にかかわらず、この投資信託において併合の書面決議が可決された場合にあつても、当該併合にかかる一又は複数の他の投資信託において当該併合の書面決議が否決された場合は、当該他の投資信託との併合を行なうことはできません。

(e) 公告

委託者が受益者に対してする公告は、電子公告の方法により行ない、次のアドレスに掲載します。

<https://www.nomura-am.co.jp/>

なお、電子公告による公告をすることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合の公告は、日本経済新聞に掲載します。

(f) 受託者の辞任および解任に伴う取扱い

- ( ) 受託者は、委託者の承諾を受けてその任務を辞任することができます。受託者がその任務に違反して信託財産に著しい損害を与えたことその他重要な事由があるときは、委託者または受益者は、裁判所に受託者の解任を申立てることができます。受託者が辞任した場合、または裁判所が受託者を解任した場合、委託者は、上記「(d)信託約款の変更等」にしたがい、新受託者を選任します。なお、受益者は、上記によって行なう場合を除き、受託者を解任することはできないものとしします。
- ( ) 委託者が新受託者を選任できないときは、委託者はこの信託契約を解約し、信託を終了させます。

(g) 反対受益者の受益権買取請求の不適用

この信託は、受益者が一部解約の実行の請求を行なったときは、委託者が信託契約の一部の解約をすることにより当該請求に応じ、当該受益権の公正な価格が当該受益者に一部解約金として支払われることとなる委託者指図型投資信託に該当するため、信託契約の解約または重大な約款の変更等を行なう場合において、投資信託及び投資法人に関する法律第18条第1項に定める反対受益者による受益権の買取請求の規定の適用を受けません。

(h) 他の受益者の氏名等の開示の請求の制限

受益者は、委託者または受託者に対し、次に掲げる事項の開示の請求を行なうことはできません。

1.他の受益者の氏名または名称および住所

2.他の受益者が有する受益権の内容

(i) 関係法人との契約の更新に関する手続

委託者と販売会社との間で締結する「募集・販売等に関する契約」は、契約終了の3ヵ月前までに当事者の一方から別段の意思表示のないときは、原則1年毎に自動的に更新されるものとします。

なお、運用の外部委託を行なう場合は、委託者と運用の委託先との間で締結する「運用指図に関する権限の委託契約」は、契約終了の3ヵ月前までに当事者の一方から更新しない旨を書面によって通知がない限り、1年毎に自動的に更新されるものとします。但し、当該契約はファンドの償還日に終了するものとします。

(j) 有価証券報告書

委託者は、有価証券報告書を毎年4月、10月の決算日を基準に作成し3ヵ月以内に関東財務局長に提出します。

#### 4【受益者の権利等】

受益者の有する主な権利は次の通りです。

収益分配金に対する請求権

収益分配金の支払い開始日

収益分配金は、決算日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（当該収益分配金にかかる決算日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該収益分配金にかかる決算日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、原則として決算日から起算して5営業日までに支払いを開始します。販売会社でお受取りください。

累積投資契約を結んでいる場合には、税金を差引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。この場合の受益権の価額は、各計算期間終了日(決算日)の基準価額とします。

なお、再投資により増加した受益権は、振替口座簿に記載または記録されます。

収益分配金請求権の失効

受益者は、収益分配金を支払開始日から5年間支払請求しないと権利を失います。

償還金に対する請求権

償還金の支払い開始日

償還金は、償還日において振替機関等の振替口座簿に記載または記録されている受益者（償還日以前において一部解約が行なわれた受益権にかかる受益者を除きます。また、当該償還日以前に設定された受益権で取得申込代金支払前のため販売会社の名義で記載または記録されている受益権については原則として取得申込者として）に、原則として償還日(償還日が休業日の場合は翌営業日)から起算して5営業日までに支払いを開始します。

償還金請求権の失効

受益者は、償還金を支払開始日から10年間支払請求しないと権利を失います。

換金(解約)請求権

受益者は、一部解約の実行を請求することができます。詳しくは、前述の「2 換金(解約)手続等」をご参照下さい。

### 第3【ファンドの経理状況】

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)(以下「財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第19期計算期間(2025年4月17日から2025年10月16日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

(1)当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)(以下「財務諸表等規則」という。)ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」(平成12年総理府令第133号)(以下「投資信託財産計算規則」という。)に基づいて作成しております。なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。

(2)当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は原則として6ヶ月毎に作成しております。

(3)当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当期(2025年4月17日から2025年10月16日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

#### 1【財務諸表】

## 【野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース】

## (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第18期 (2025年 4月16日現在)	第19期 (2025年10月16日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	4,244,732,018	4,540,168,370
投資信託受益証券	235,057,202,030	250,381,976,805
親投資信託受益証券	999	2,001,398
未収入金	105,605,670	413,560,800
未収利息	56,786	60,703
流動資産合計	239,407,597,503	255,337,768,076
<b>資産合計</b>	<b>239,407,597,503</b>	<b>255,337,768,076</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	-	18,977,866
未払収益分配金	-	244,522,837
未払解約金	344,412,632	600,380,595
未払受託者報酬	39,097,936	40,380,692
未払委託者報酬	2,150,386,478	2,220,937,501
その他未払費用	2,606,471	2,691,985
流動負債合計	2,536,503,517	3,127,891,476
<b>負債合計</b>	<b>2,536,503,517</b>	<b>3,127,891,476</b>
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	239,543,647,929	244,522,837,806
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	2,672,553,943	7,687,038,794
（分配準備積立金）	34,264,846,759	32,946,411,873
元本等合計	236,871,093,986	252,209,876,600
<b>純資産合計</b>	<b>236,871,093,986</b>	<b>252,209,876,600</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>239,407,597,503</b>	<b>255,337,768,076</b>

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第18期		第19期	
	自	2024年10月17日	自	2025年 4月17日
	至	2025年 4月16日	至	2025年10月16日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		2,022,597,610		2,045,813,550
受取利息		6,122,470		8,290,617
有価証券売買等損益		2,920,957,234		10,764,204,370
<b>営業収益合計</b>		<b>892,237,154</b>		<b>12,818,308,537</b>
<b>営業費用</b>				
受託者報酬		39,097,936		40,380,692
委託者報酬		2,150,386,478		2,220,937,501
その他費用		2,606,471		2,691,985
<b>営業費用合計</b>		<b>2,192,090,885</b>		<b>2,264,010,178</b>
<b>営業利益又は営業損失（ ）</b>		<b>3,084,328,039</b>		<b>10,554,298,359</b>
<b>経常利益又は経常損失（ ）</b>		<b>3,084,328,039</b>		<b>10,554,298,359</b>
<b>当期純利益又は当期純損失（ ）</b>		<b>3,084,328,039</b>		<b>10,554,298,359</b>
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		165,007,359		433,063,660
<b>期首剰余金又は期首欠損金（ ）</b>		<b>392,659,917</b>		<b>2,672,553,943</b>
剰余金増加額又は欠損金減少額		-		482,880,875
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		211,430,742
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		-		271,450,133
<b>剰余金減少額又は欠損金増加額</b>		<b>145,893,180</b>		<b>-</b>
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		27,858,585		-
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		118,034,595		-
分配金		-		244,522,837
<b>期末剰余金又は期末欠損金（ ）</b>		<b>2,672,553,943</b>		<b>7,687,038,794</b>

## （３）【注記表】

## （重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場(計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場)で評価しております。 市場価格のない有価証券については基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	親投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 受取配当金 原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 投資信託受益証券については、原則として収益分配金落ち日において、当該収益分配金額を計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. その他	当ファンドの計算期間は、信託約款の規定により、2025年4月17日から2025年10月16日までとなっております。

## （重要な会計上の見積りに関する注記）

該当事項はありません。

## （貸借対照表に関する注記）

第18期 2025年4月16日現在	第19期 2025年10月16日現在
1. 計算期間の末日における受益権の総数 239,543,647,929口	1. 計算期間の末日における受益権の総数 244,522,837,806口
2. 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額  元本の欠損 2,672,553,943円	
3. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.9888円 (10,000口当たり純資産額) (9,888円)	2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.0314円 (10,000口当たり純資産額) (10,314円)

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

第18期 自 2024年10月17日 至 2025年4月16日	第19期 自 2025年4月17日 至 2025年10月16日																																																												
1. 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額 705,781,962円	1. 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額 729,428,737円																																																												
2. 分配金の計算過程	2. 分配金の計算過程																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>67,270,487,725円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>34,264,846,759円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>101,535,334,484円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>239,543,647,929口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F × 10,000</td> <td>4,238円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F × H/10,000</td> <td>0円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	0円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	67,270,487,725円	分配準備積立金額	D	34,264,846,759円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	101,535,334,484円	当ファンドの期末残存口数	F	239,543,647,929口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	4,238円	10,000口当たり分配金額	H	0円	収益分配金金額	I=F × H/10,000	0円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>1,677,584,416円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>72,133,938,468円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>31,513,350,294円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>105,324,873,178円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>244,522,837,806口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F × 10,000</td> <td>4,307円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>10円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F × H/10,000</td> <td>244,522,837円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	1,677,584,416円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	72,133,938,468円	分配準備積立金額	D	31,513,350,294円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	105,324,873,178円	当ファンドの期末残存口数	F	244,522,837,806口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	4,307円	10,000口当たり分配金額	H	10円	収益分配金金額	I=F × H/10,000	244,522,837円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	0円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	67,270,487,725円																																																											
分配準備積立金額	D	34,264,846,759円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	101,535,334,484円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	239,543,647,929口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	4,238円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	0円																																																											
収益分配金金額	I=F × H/10,000	0円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	1,677,584,416円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	72,133,938,468円																																																											
分配準備積立金額	D	31,513,350,294円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	105,324,873,178円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	244,522,837,806口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	4,307円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	10円																																																											
収益分配金金額	I=F × H/10,000	244,522,837円																																																											

## （金融商品に関する注記）

## (1)金融商品の状況に関する事項

第18期 自 2024年10月17日 至 2025年4月16日	第19期 自 2025年4月17日 至 2025年10月16日
1. 金融商品に対する取組方針 当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	1. 金融商品に対する取組方針 同左
2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク	2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク

<p>当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。</p> <p>当ファンドが保有する有価証券の詳細は、(その他の注記)の2 有価証券関係に記載しております。</p> <p>これらは、金利変動リスク、バンクローンの価格変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。</p> <p>3.金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>委託会社においては、独立した投資リスク管理に関する委員会を設け、パフォーマンスの考査及び運用リスクの管理を行っております。</p> <p>市場リスクの管理</p> <p>市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行っております。</p> <p>信用リスクの管理</p> <p>信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行っております。</p> <p>流動性リスクの管理</p> <p>流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行っております。</p>	<p>同左</p> <p>3.金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>同左</p>
---	---

## (2)金融商品の時価等に関する事項

第18期 2025年 4月16日現在	第19期 2025年10月16日現在
<p>1. 貸借対照表計上額、時価及び差額</p> <p>貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。</p> <p>2. 時価の算定方法</p> <p>投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>親投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。</p> <p>コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。</p>	<p>1. 貸借対照表計上額、時価及び差額</p> <p>同左</p> <p>2. 時価の算定方法</p> <p>同左</p>

## (関連当事者との取引に関する注記)

第18期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	第19期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はございません。	同左

## (その他の注記)

## 1 元本の移動

第18期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	第19期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
期首元本額 239,766,900,284円	期首元本額 239,543,647,929円
期中追加設定元本額 21,745,297,496円	期中追加設定元本額 25,229,633,878円
期中一部解約元本額 21,968,549,851円	期中一部解約元本額 20,250,444,001円

2 有価証券関係  
売買目的有価証券

種類	第18期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	第19期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
	損益に含まれた評価差額(円)	
投資信託受益証券	2,859,834,501	10,616,044,508
親投資信託受益証券	1	399
合計	2,859,834,500	10,616,044,907

## 3 デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1)株式(2025年10月16日現在)

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券(2025年10月16日現在)

(単位:円)

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	PIMCOパミューダ・インカム・ファンドA - クラスN (JPY)	34,388,405	250,381,976,805	
	小計	銘柄数: 1 組入時価比率: 99.3%	34,388,405	250,381,976,805 100.0%	
	合計			250,381,976,805	
親投資信託受益証券	日本円	野村マネーポートフォリオ マザーファンド	1,985,121	2,001,398	
	小計	銘柄数: 1 組入時価比率: 0.0%	1,985,121	2,001,398 0.0%	
	合計			2,001,398	
合計				250,383,978,203	

(注1) 投資信託受益証券、投資証券及び親投資信託受益証券における券面総額の数値は、証券数を表示しております。

(注2) 比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表  
該当事項はありません。

## 【野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース】

## (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	第18期 (2025年 4月16日現在)	第19期 (2025年10月16日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	2,688,710,026	2,552,304,072
投資信託受益証券	99,193,279,680	113,908,082,084
親投資信託受益証券	999	2,001,398
未収入金	53,840,070	-
未収利息	35,969	34,125
流動資産合計	101,935,866,744	116,462,421,679
<b>資産合計</b>	<b>101,935,866,744</b>	<b>116,462,421,679</b>
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払金	15,396,555	89,262,644
未払収益分配金	61,659,539	62,312,185
未払解約金	159,352,916	327,651,073
未払受託者報酬	17,412,041	17,660,464
未払委託者報酬	957,662,158	971,325,381
その他未払費用	1,160,741	1,177,302
流動負債合計	1,212,643,950	1,469,389,049
<b>負債合計</b>	<b>1,212,643,950</b>	<b>1,469,389,049</b>
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	61,659,539,106	62,312,185,055
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金( )	39,063,683,688	52,680,847,575
(分配準備積立金)	17,394,861,371	21,365,692,967
元本等合計	100,723,222,794	114,993,032,630
<b>純資産合計</b>	<b>100,723,222,794</b>	<b>114,993,032,630</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>101,935,866,744</b>	<b>116,462,421,679</b>

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第18期		第19期	
	自	2024年10月17日	自	2025年 4月17日
	至	2025年 4月16日	至	2025年10月16日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		3,854,789,460		3,668,508,480
受取利息		3,163,737		4,742,539
有価証券売買等損益		6,364,596,480		10,490,604,178
営業収益合計		2,506,643,283		14,163,855,197
<b>営業費用</b>				
受託者報酬		17,412,041		17,660,464
委託者報酬		957,662,158		971,325,381
その他費用		1,160,741		1,177,302
営業費用合計		976,234,940		990,163,147
営業利益又は営業損失（ ）		3,482,878,223		13,173,692,050
経常利益又は経常損失（ ）		3,482,878,223		13,173,692,050
当期純利益又は当期純損失（ ）		3,482,878,223		13,173,692,050
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		274,588,398		669,269,977
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		41,873,933,519		39,063,683,688
剰余金増加額又は欠損金減少額		6,376,966,789		5,999,961,114
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		6,376,966,789		5,999,961,114
剰余金減少額又は欠損金増加額		5,368,090,460		4,824,907,115
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		5,368,090,460		4,824,907,115
分配金		61,659,539		62,312,185
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		39,063,683,688		52,680,847,575

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場(計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場)で評価しております。 市場価格のない有価証券については基準価額で評価しております。 親投資信託受益証券 基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	受取配当金 原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 投資信託受益証券については、原則として収益分配金落ち日において、当該収益分配金額を計上しております。 有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. その他	当ファンドの計算期間は、信託約款の規定により、2025年4月17日から2025年10月16日までとなっております。

## (重要な会計上の見積りに関する注記)

該当事項はありません。

## (貸借対照表に関する注記)

第18期 2025年4月16日現在	第19期 2025年10月16日現在
1. 計算期間の末日における受益権の総数 61,659,539,106口	1. 計算期間の末日における受益権の総数 62,312,185,055口
2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.6335円 (10,000口当たり純資産額) (16,335円)	2. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.8454円 (10,000口当たり純資産額) (18,454円)

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

第18期 自 2024年10月17日 至 2025年4月16日	第19期 自 2025年4月17日 至 2025年10月16日																																																												
1. 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額 313,798,583円	1. 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額 317,997,143円																																																												
2. 分配金の計算過程	2. 分配金の計算過程																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>2,736,136,976円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>37,822,865,153円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>14,720,383,934円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>55,279,386,063円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>61,659,539,106口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F × 10,000</td> <td>8,965円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>10円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F × H/10,000</td> <td>61,659,539円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	2,736,136,976円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	37,822,865,153円	分配準備積立金額	D	14,720,383,934円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	55,279,386,063円	当ファンドの期末残存口数	F	61,659,539,106口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	8,965円	10,000口当たり分配金額	H	10円	収益分配金金額	I=F × H/10,000	61,659,539円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>3,250,131,191円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>2,791,169,197円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>40,599,448,194円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>15,386,704,764円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>62,027,453,346円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>62,312,185,055口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F × 10,000</td> <td>9,954円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>10円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F × H/10,000</td> <td>62,312,185円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	3,250,131,191円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	2,791,169,197円	収益調整金額	C	40,599,448,194円	分配準備積立金額	D	15,386,704,764円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	62,027,453,346円	当ファンドの期末残存口数	F	62,312,185,055口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	9,954円	10,000口当たり分配金額	H	10円	収益分配金金額	I=F × H/10,000	62,312,185円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	2,736,136,976円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	37,822,865,153円																																																											
分配準備積立金額	D	14,720,383,934円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	55,279,386,063円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	61,659,539,106口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	8,965円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	10円																																																											
収益分配金金額	I=F × H/10,000	61,659,539円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	3,250,131,191円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	2,791,169,197円																																																											
収益調整金額	C	40,599,448,194円																																																											
分配準備積立金額	D	15,386,704,764円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	62,027,453,346円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	62,312,185,055口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	9,954円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	10円																																																											
収益分配金金額	I=F × H/10,000	62,312,185円																																																											

## (金融商品に関する注記)

## (1)金融商品の状況に関する事項

第18期 自 2024年10月17日 至 2025年4月16日	第19期 自 2025年4月17日 至 2025年10月16日
1. 金融商品に対する取組方針 当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	1. 金融商品に対する取組方針 同左
2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 当ファンドが保有する有価証券の詳細は、(その他の注記)の2 有価証券関係に記載しております。 これらは、金利変動リスク、バンクローンの価格変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。	2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 同左
3. 金融商品に係るリスク管理体制	3. 金融商品に係るリスク管理体制

委託会社においては、独立した投資リスク管理に関する委員会を設け、パフォーマンスの審査及び運用リスクの管理を行なっております。 市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行なっております。 信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行なっております。 流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行なっております。	同左
---	----

## (2)金融商品の時価等に関する事項

第18期 2025年 4月16日現在	第19期 2025年10月16日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 2. 時価の算定方法 投資信託受益証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 親投資信託受益証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 同左 2. 時価の算定方法 同左

## (関連当事者との取引に関する注記)

第18期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	第19期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はございません。	同左

## (その他の注記)

## 1 元本の移動

第18期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	第19期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
期首元本額 60,670,816,401円	期首元本額 61,659,539,106円
期中追加設定元本額 8,738,338,937円	期中追加設定元本額 8,224,603,658円
期中一部解約元本額 7,749,616,232円	期中一部解約元本額 7,571,957,709円

## 2 有価証券関係

## 売買目的有価証券

種類	第18期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	第19期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
	損益に含まれた評価差額（円）	
投資信託受益証券	6,415,480,864	10,298,184,305
親投資信託受益証券	1	399
合計	6,415,480,863	10,298,184,704

## 3 デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1)株式(2025年10月16日現在)

該当事項はありません。

## (2)株式以外の有価証券(2025年10月16日現在)

(単位:円)

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	PIMCOバミューダ・インカム・ファン ドA - クラスN (USD)	11,359,003	113,908,082,084	

	小計	銘柄数：1 組入時価比率：99.1%	11,359,003	113,908,082,084 100.0%	
	合計			113,908,082,084	
親投資信託受益証券	日本円	野村マネーポートフォリオ マザーファンド	1,985,121	2,001,398	
	小計	銘柄数：1 組入時価比率：0.0%	1,985,121	2,001,398 0.0%	
	合計			2,001,398	
	合計			113,910,083,482	

(注1)投資信託受益証券、投資証券及び親投資信託受益証券における券面総額の数値は、証券数を表示しております。

(注2)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

## 第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース】

## (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 (2025年 4月16日現在)	当期 (2025年10月16日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	689,477,430	1,176,449,189
投資信託受益証券	66,922,526,895	60,216,127,110
親投資信託受益証券	999	2,001,398
未収入金	96,162,435	240,715,800
未収利息	9,223	15,729
流動資産合計	67,708,176,982	61,635,309,226
資産合計	67,708,176,982	61,635,309,226
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	169,225,898	148,765,195
未払解約金	238,464,431	624,911,460
未払受託者報酬	1,863,602	1,679,458
未払委託者報酬	102,498,197	92,370,300
その他未払費用	124,229	111,956
流動負債合計	512,176,357	867,838,369
負債合計	512,176,357	867,838,369
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	84,612,949,168	74,382,597,960
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	17,416,948,543	13,615,127,103
（分配準備積立金）	5,267,715,858	3,976,299,789
元本等合計	67,196,000,625	60,767,470,857
純資産合計	67,196,000,625	60,767,470,857
負債純資産合計	67,708,176,982	61,635,309,226

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	前期		当期	
	自	2024年10月17日	自	2025年 4月17日
	至	2025年 4月16日	至	2025年10月16日
<b>営業収益</b>				
受取配当金		612,946,920		544,955,220
受取利息		1,202,061		1,582,289
有価証券売買等損益		894,727,997		2,849,269,894
<b>営業収益合計</b>		<b>280,579,016</b>		<b>3,395,807,403</b>
<b>営業費用</b>				
受託者報酬		11,874,096		10,757,727
委託者報酬		653,075,616		591,674,963
その他費用		791,549		717,120
<b>営業費用合計</b>		<b>665,741,261</b>		<b>603,149,810</b>
<b>営業利益又は営業損失（ ）</b>		<b>946,320,277</b>		<b>2,792,657,593</b>
<b>経常利益又は経常損失（ ）</b>		<b>946,320,277</b>		<b>2,792,657,593</b>
<b>当期純利益又は当期純損失（ ）</b>		<b>946,320,277</b>		<b>2,792,657,593</b>
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		8,199,184		31,595,693
<b>期首剰余金又は期首欠損金（ ）</b>		<b>17,281,952,618</b>		<b>17,416,948,543</b>
剰余金増加額又は欠損金減少額		2,010,656,572		2,348,954,274
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		2,010,656,572		2,348,954,274
剰余金減少額又は欠損金増加額		142,787,664		349,560,182
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		142,787,664		349,560,182
分配金		1,064,743,740		958,634,552
<b>期末剰余金又は期末欠損金（ ）</b>		<b>17,416,948,543</b>		<b>13,615,127,103</b>

## (3)【注記表】

## (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場(計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場)で評価しております。 市場価格のない有価証券については基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	親投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 受取配当金 原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 投資信託受益証券については、原則として収益分配金落ち日において、当該収益分配金額を計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. その他	当該財務諸表の特定期間は、2025年4月17日から2025年10月16日までとなっております。

## (重要な会計上の見積りに関する注記)

該当事項はありません。

## (貸借対照表に関する注記)

前期 2025年4月16日現在	当期 2025年10月16日現在
1. 特定期間の末日における受益権の総数 84,612,949,168口	1. 特定期間の末日における受益権の総数 74,382,597,960口
2. 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 17,416,948,543円	2. 投資信託財産計算規則第55条の6第1項第10号に規定する額 元本の欠損 13,615,127,103円
3. 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.7942円 (10,000口当たり純資産額) (7,942円)	3. 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 0.8170円 (10,000口当たり純資産額) (8,170円)

## (損益及び剰余金計算書に関する注記)

前期 自 2024年10月17日 至 2025年4月16日	当期 自 2025年4月17日 至 2025年10月16日																																																												
1. 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額 214,025,935円	1. 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額 193,979,675円																																																												
2. 分配金の計算過程 2024年10月17日から2024年11月18日まで	2. 分配金の計算過程 2025年4月17日から2025年5月16日まで																																																												
<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>0円</td></tr> <tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>13,313,687,086円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>6,667,922,796円</td></tr> <tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>19,981,609,882円</td></tr> <tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>92,795,884,647口</td></tr> <tr><td>10,000口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F×10,000</td><td>2,153円</td></tr> <tr><td>10,000口当たり分配金額</td><td>H</td><td>20円</td></tr> <tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F×H/10,000</td><td>185,591,769円</td></tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	0円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	13,313,687,086円	分配準備積立金額	D	6,667,922,796円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	19,981,609,882円	当ファンドの期末残存口数	F	92,795,884,647口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,153円	10,000口当たり分配金額	H	20円	収益分配金金額	I=F×H/10,000	185,591,769円	<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>66,608,880円</td></tr> <tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>12,109,839,521円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>5,209,019,427円</td></tr> <tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>17,385,467,828円</td></tr> <tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>84,035,864,553口</td></tr> <tr><td>10,000口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F×10,000</td><td>2,068円</td></tr> <tr><td>10,000口当たり分配金額</td><td>H</td><td>20円</td></tr> <tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F×H/10,000</td><td>168,071,729円</td></tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	66,608,880円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	12,109,839,521円	分配準備積立金額	D	5,209,019,427円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	17,385,467,828円	当ファンドの期末残存口数	F	84,035,864,553口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,068円	10,000口当たり分配金額	H	20円	収益分配金金額	I=F×H/10,000	168,071,729円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	0円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	13,313,687,086円																																																											
分配準備積立金額	D	6,667,922,796円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	19,981,609,882円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	92,795,884,647口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,153円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	20円																																																											
収益分配金金額	I=F×H/10,000	185,591,769円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	66,608,880円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	12,109,839,521円																																																											
分配準備積立金額	D	5,209,019,427円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	17,385,467,828円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	84,035,864,553口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,068円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	20円																																																											
収益分配金金額	I=F×H/10,000	168,071,729円																																																											
2024年11月19日から2024年12月16日まで	2025年5月17日から2025年6月16日まで																																																												
<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>75,777,168円</td></tr> <tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>13,108,050,450円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>6,368,422,819円</td></tr> <tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>19,552,250,437円</td></tr> <tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>91,297,881,435口</td></tr> <tr><td>10,000口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F×10,000</td><td>2,141円</td></tr> <tr><td>10,000口当たり分配金額</td><td>H</td><td>20円</td></tr> <tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F×H/10,000</td><td>182,595,762円</td></tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	75,777,168円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	13,108,050,450円	分配準備積立金額	D	6,368,422,819円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	19,552,250,437円	当ファンドの期末残存口数	F	91,297,881,435口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,141円	10,000口当たり分配金額	H	20円	収益分配金金額	I=F×H/10,000	182,595,762円	<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>77,646,939円</td></tr> <tr><td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td><td>B</td><td>0円</td></tr> <tr><td>収益調整金額</td><td>C</td><td>12,001,208,447円</td></tr> <tr><td>分配準備積立金額</td><td>D</td><td>5,055,075,370円</td></tr> <tr><td>当ファンドの分配対象収益額</td><td>E=A+B+C+D</td><td>17,133,930,756円</td></tr> <tr><td>当ファンドの期末残存口数</td><td>F</td><td>83,249,505,296口</td></tr> <tr><td>10,000口当たり収益分配対象額</td><td>G=E/F×10,000</td><td>2,058円</td></tr> <tr><td>10,000口当たり分配金額</td><td>H</td><td>20円</td></tr> <tr><td>収益分配金金額</td><td>I=F×H/10,000</td><td>166,499,010円</td></tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	77,646,939円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	12,001,208,447円	分配準備積立金額	D	5,055,075,370円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	17,133,930,756円	当ファンドの期末残存口数	F	83,249,505,296口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,058円	10,000口当たり分配金額	H	20円	収益分配金金額	I=F×H/10,000	166,499,010円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	75,777,168円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	13,108,050,450円																																																											
分配準備積立金額	D	6,368,422,819円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	19,552,250,437円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	91,297,881,435口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,141円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	20円																																																											
収益分配金金額	I=F×H/10,000	182,595,762円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	77,646,939円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	12,001,208,447円																																																											
分配準備積立金額	D	5,055,075,370円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	17,133,930,756円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	83,249,505,296口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,058円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	20円																																																											
収益分配金金額	I=F×H/10,000	166,499,010円																																																											
2024年12月17日から2025年1月16日まで	2025年6月17日から2025年7月16日まで																																																												
<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>0円</td></tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	0円	<table border="1"> <thead> <tr><th>項目</th><th></th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>費用控除後の配当等収益額</td><td>A</td><td>55,461,500円</td></tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	55,461,500円																																																
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	0円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	55,461,500円																																																											

費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	12,852,897,053円
分配準備積立金額	D	6,135,831,117円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	18,988,728,170円
当ファンドの期末残存口数	F	89,502,413,197口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,121円
10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	179,004,826円

2025年 1月17日から2025年 2月17日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	90,975,876円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	12,611,663,448円
分配準備積立金額	D	5,833,162,318円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	18,535,801,642円
当ファンドの期末残存口数	F	87,766,082,256口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,111円
10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	175,532,164円

2025年 2月18日から2025年 3月17日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	77,150,836円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	12,417,308,221円
分配準備積立金額	D	5,656,489,189円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	18,150,948,246円
当ファンドの期末残存口数	F	86,396,660,627口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,100円
10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	172,793,321円

2025年 3月18日から2025年 4月16日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	0円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	12,170,066,134円
分配準備積立金額	D	5,436,941,756円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	17,607,007,890円
当ファンドの期末残存口数	F	84,612,949,168口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,080円
10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	169,225,898円

費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	11,793,797,839円
分配準備積立金額	D	4,876,350,074円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	16,725,609,413円
当ファンドの期末残存口数	F	81,790,904,994口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,044円
10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	163,581,809円

2025年 7月17日から2025年 8月18日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	79,664,234円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	11,316,413,055円
分配準備積立金額	D	4,560,395,958円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	15,956,473,247円
当ファンドの期末残存口数	F	78,406,931,723口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,035円
10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	156,813,863円

2025年 8月19日から2025年 9月16日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	80,389,167円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	11,219,938,483円
分配準備積立金額	D	4,387,194,891円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	15,687,522,541円
当ファンドの期末残存口数	F	77,451,473,221口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,025円
10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	154,902,946円

2025年 9月17日から2025年10月16日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	5,994,388円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	10,798,100,645円
分配準備積立金額	D	4,119,070,596円
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	14,923,165,629円
当ファンドの期末残存口数	F	74,382,597,960口
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F×10,000	2,006円
10,000口当たり分配金額	H	20円
収益分配金金額	I=F×H/10,000	148,765,195円

## (金融商品に関する注記)

## (1)金融商品の状況に関する事項

前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
1.金融商品に対する取組方針 当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。 2.金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 当ファンドが保有する有価証券の詳細は、(その他の注記)の2 有価証券関係に記載しております。 これらは、金利変動リスク、パンクローンの価格変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。 3.金融商品に係るリスク管理体制	1.金融商品に対する取組方針 同左 2.金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 同左 3.金融商品に係るリスク管理体制

委託会社においては、独立した投資リスク管理に関する委員会を設け、パフォーマンスの審査及び運用リスクの管理を行なっております。

市場リスクの管理  
市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行なっております。

信用リスクの管理  
信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行なっております。

流動性リスクの管理  
流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行なっております。

同左

## (2)金融商品の時価等に関する事項

前期 2025年 4月16日現在	当期 2025年10月16日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 同左
2. 時価の算定方法 投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 親投資信託受益証券 (重要な会計方針に係る事項に関する注記)に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	2. 時価の算定方法 同左

## (関連当事者との取引に関する注記)

前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はございません。	同左

## (その他の注記)

## 1 元本の移動

前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
期首元本額 94,238,275,872円	期首元本額 84,612,949,168円
期中追加設定元本額 737,001,269円	期中追加設定元本額 1,822,200,120円
期中一部解約元本額 10,362,327,973円	期中一部解約元本額 12,052,551,328円

## 2 有価証券関係

## 売買目的有価証券

種類	前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
	損益に含まれた評価差額(円)	
投資信託受益証券	989,665,509	16,540,620
親投資信託受益証券	0	397
合計	989,665,509	16,541,017

## 3 デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1)株式(2025年10月16日現在)

該当事項はありません。

## (2)株式以外の有価証券(2025年10月16日現在)

(単位:円)

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	PIMCOバミューダ・インカム・ファン ドA - クラスN (JPY)	8,270,310	60,216,127,110	

	小計	銘柄数：1 組入時価比率：99.1%	8,270,310	60,216,127,110 100.0%	
	合計			60,216,127,110	
親投資信託受益証券	日本円	野村マネーポートフォリオ マザーファンド	1,985,121	2,001,398	
	小計	銘柄数：1 組入時価比率：0.0%	1,985,121	2,001,398 0.0%	
	合計			2,001,398	
	合計			60,218,128,508	

(注1)投資信託受益証券、投資証券及び親投資信託受益証券における券面総額の数値は、証券数を表示しております。

(注2)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

## 第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 【野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース】

## (1) 【貸借対照表】

(単位：円)

	前期 (2025年 4月16日現在)	当期 (2025年10月16日現在)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
コール・ローン	1,023,141,373	1,288,510,423
投資信託受益証券	70,465,898,160	88,040,866,112
親投資信託受益証券	999	2,001,398
未収入金	37,905,300	-
未収利息	13,687	17,227
流動資産合計	71,526,959,519	89,331,395,160
<b>資産合計</b>	71,526,959,519	89,331,395,160
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
未払金	28,844,640	71,789,212
未払収益分配金	354,504,874	403,510,513
未払解約金	117,357,019	82,710,191
未払受託者報酬	2,009,003	2,363,701
未払委託者報酬	110,495,143	130,003,663
その他未払費用	133,924	157,569
流動負債合計	613,344,603	690,534,849
<b>負債合計</b>	613,344,603	690,534,849
<b>純資産の部</b>		
<b>元本等</b>		
元本	59,084,145,784	67,251,752,330
<b>剰余金</b>		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	11,829,469,132	21,389,107,981
（分配準備積立金）	10,567,754,757	10,138,884,754
元本等合計	70,913,614,916	88,640,860,311
<b>純資産合計</b>	70,913,614,916	88,640,860,311
<b>負債純資産合計</b>	71,526,959,519	89,331,395,160

## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	前期		当期	
	自 至	2024年10月17日 2025年 4月16日	自 至	2025年 4月17日 2025年10月16日
営業収益				
受取配当金		2,586,730,260		2,720,971,580
受取利息		1,795,144		3,318,730
有価証券売買等損益		4,524,416,648		7,810,130,460
営業収益合計		1,935,891,244		10,534,420,770
営業費用				
受託者報酬		11,656,947		13,122,195
委託者報酬		641,131,911		721,720,472
その他費用		777,071		874,751
営業費用合計		653,565,929		735,717,418
営業利益又は営業損失（ ）		2,589,457,173		9,798,703,352
経常利益又は経常損失（ ）		2,589,457,173		9,798,703,352
当期純利益又は当期純損失（ ）		2,589,457,173		9,798,703,352
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		7,669,703		28,302,157
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		14,170,570,854		11,829,469,132
剰余金増加額又は欠損金減少額		3,349,341,152		2,860,259,547
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		3,349,341,152		2,860,259,547
剰余金減少額又は欠損金増加額		1,109,808,316		767,366,035
当期一部解約に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		1,109,808,316		767,366,035
分配金		1,998,847,088		2,303,655,858
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		11,829,469,132		21,389,107,981

## （ 3 ）【注記表】

## （重要な会計方針に係る事項に関する注記）

1. 運用資産の評価基準及び評価方法	投資信託受益証券 原則として時価で評価しております。 時価評価にあたっては、市場価格のある有価証券についてはその最終相場（計算日に最終相場のない場合には、直近の日の最終相場）で評価しております。 市場価格のない有価証券については基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	親投資信託受益証券 基準価額で評価しております。 受取配当金 原則として配当落ち日において、確定配当金額又は予想配当金額を計上しております。 投資信託受益証券については、原則として収益分配金落ち日において、当該収益分配金額を計上しております。
3. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	有価証券売買等損益 約定日基準で計上しております。 金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
4. その他	当該財務諸表の特定期間は、2025年 4月17日から2025年10月16日までとなっております。

## （重要な会計上の見積りに関する注記）

該当事項はありません。

## （貸借対照表に関する注記）

前期 2025年 4月16日現在	当期 2025年10月16日現在
1. 特定期間の末日における受益権の総数 59,084,145,784口	1. 特定期間の末日における受益権の総数 67,251,752,330口
2. 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.2002円 (10,000口当たり純資産額) (12,002円)	2. 特定期間の末日における1単位当たりの純資産の額 1口当たり純資産額 1.3180円 (10,000口当たり純資産額) (13,180円)

## （損益及び剰余金計算書に関する注記）

前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日																																																												
1. 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額 210,087,385円	1. 運用の外部委託費用 信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用 支払金額 235,786,119円																																																												
2. 分配金の計算過程 2024年10月17日から2024年11月18日まで	2. 分配金の計算過程 2025年 4月17日から2025年 5月16日まで																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>384,726,994円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>19,913,495,391円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>11,083,554,744円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>31,381,777,129円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>52,750,248,645口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F × 10,000</td> <td>5,949円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>60円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F × H/10,000</td> <td>316,501,491円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	384,726,994円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	19,913,495,391円	分配準備積立金額	D	11,083,554,744円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	31,381,777,129円	当ファンドの期末残存口数	F	52,750,248,645口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	5,949円	10,000口当たり分配金額	H	60円	収益分配金金額	I=F × H/10,000	316,501,491円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>449,226,273円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>25,181,471,489円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>10,483,256,342円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>36,113,954,104円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>60,480,245,365口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F × 10,000</td> <td>5,971円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>60円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F × H/10,000</td> <td>362,881,472円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	449,226,273円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	25,181,471,489円	分配準備積立金額	D	10,483,256,342円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	36,113,954,104円	当ファンドの期末残存口数	F	60,480,245,365口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	5,971円	10,000口当たり分配金額	H	60円	収益分配金金額	I=F × H/10,000	362,881,472円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	384,726,994円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	19,913,495,391円																																																											
分配準備積立金額	D	11,083,554,744円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	31,381,777,129円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	52,750,248,645口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	5,949円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	60円																																																											
収益分配金金額	I=F × H/10,000	316,501,491円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	449,226,273円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	25,181,471,489円																																																											
分配準備積立金額	D	10,483,256,342円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	36,113,954,104円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	60,480,245,365口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	5,971円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	60円																																																											
収益分配金金額	I=F × H/10,000	362,881,472円																																																											
2024年11月19日から2024年12月16日まで	2025年 5月17日から2025年 6月16日まで																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>318,925,095円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>20,560,244,020円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>11,038,949,581円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>31,918,118,696円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>53,648,475,590口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F × 10,000</td> <td>5,949円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>60円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F × H/10,000</td> <td>321,890,853円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	318,925,095円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	20,560,244,020円	分配準備積立金額	D	11,038,949,581円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	31,918,118,696円	当ファンドの期末残存口数	F	53,648,475,590口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	5,949円	10,000口当たり分配金額	H	60円	収益分配金金額	I=F × H/10,000	321,890,853円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>360,795,410円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>25,919,963,692円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>10,477,456,009円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>36,758,215,111円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの期末残存口数</td> <td>F</td> <td>61,568,412,597口</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり収益分配対象額</td> <td>G=E/F × 10,000</td> <td>5,970円</td> </tr> <tr> <td>10,000口当たり分配金額</td> <td>H</td> <td>60円</td> </tr> <tr> <td>収益分配金金額</td> <td>I=F × H/10,000</td> <td>369,410,475円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	360,795,410円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	25,919,963,692円	分配準備積立金額	D	10,477,456,009円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	36,758,215,111円	当ファンドの期末残存口数	F	61,568,412,597口	10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	5,970円	10,000口当たり分配金額	H	60円	収益分配金金額	I=F × H/10,000	369,410,475円
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	318,925,095円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	20,560,244,020円																																																											
分配準備積立金額	D	11,038,949,581円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	31,918,118,696円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	53,648,475,590口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	5,949円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	60円																																																											
収益分配金金額	I=F × H/10,000	321,890,853円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	360,795,410円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	25,919,963,692円																																																											
分配準備積立金額	D	10,477,456,009円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	36,758,215,111円																																																											
当ファンドの期末残存口数	F	61,568,412,597口																																																											
10,000口当たり収益分配対象額	G=E/F × 10,000	5,970円																																																											
10,000口当たり分配金額	H	60円																																																											
収益分配金金額	I=F × H/10,000	369,410,475円																																																											
2024年12月17日から2025年 1月16日まで	2025年 6月17日から2025年 7月16日まで																																																												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>374,066,617円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>21,093,729,098円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>10,916,059,090円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>32,383,854,805円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	374,066,617円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	21,093,729,098円	分配準備積立金額	D	10,916,059,090円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	32,383,854,805円	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th></th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>費用控除後の配当等収益額</td> <td>A</td> <td>463,332,574円</td> </tr> <tr> <td>費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額</td> <td>B</td> <td>0円</td> </tr> <tr> <td>収益調整金額</td> <td>C</td> <td>26,279,170,028円</td> </tr> <tr> <td>分配準備積立金額</td> <td>D</td> <td>10,369,636,857円</td> </tr> <tr> <td>当ファンドの分配対象収益額</td> <td>E=A+B+C+D</td> <td>37,112,139,459円</td> </tr> </tbody> </table>	項目			費用控除後の配当等収益額	A	463,332,574円	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円	収益調整金額	C	26,279,170,028円	分配準備積立金額	D	10,369,636,857円	当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	37,112,139,459円																								
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	374,066,617円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	21,093,729,098円																																																											
分配準備積立金額	D	10,916,059,090円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	32,383,854,805円																																																											
項目																																																													
費用控除後の配当等収益額	A	463,332,574円																																																											
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円																																																											
収益調整金額	C	26,279,170,028円																																																											
分配準備積立金額	D	10,369,636,857円																																																											
当ファンドの分配対象収益額	E=A+B+C+D	37,112,139,459円																																																											

当ファンドの期末残存口数	F	54,348,417,101口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	5,958円
10,000口当たり分配金額	H	60円
収益分配金額	$I=F \times H/10,000$	326,090,502円

2025年 1月17日から2025年 2月17日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	314,785,576円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	21,711,224,599円
分配準備積立金額	D	10,829,578,557円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	32,855,588,732円
当ファンドの期末残存口数	F	55,162,540,760口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	5,956円
10,000口当たり分配金額	H	60円
収益分配金額	$I=F \times H/10,000$	330,975,244円

2025年 2月18日から2025年 3月17日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	334,403,064円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	23,607,965,621円
分配準備積立金額	D	10,694,687,628円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	34,637,056,313円
当ファンドの期末残存口数	F	58,147,354,124口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	5,956円
10,000口当たり分配金額	H	60円
収益分配金額	$I=F \times H/10,000$	348,884,124円

2025年 3月18日から2025年 4月16日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	348,846,892円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	24,271,248,975円
分配準備積立金額	D	10,573,412,739円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	35,193,508,606円
当ファンドの期末残存口数	F	59,084,145,784口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	5,956円
10,000口当たり分配金額	H	60円
収益分配金額	$I=F \times H/10,000$	354,504,874円

当ファンドの期末残存口数	F	62,003,331,908口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	5,985円
10,000口当たり分配金額	H	60円
収益分配金額	$I=F \times H/10,000$	372,019,991円

2025年 7月17日から2025年 8月18日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	291,003,065円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	28,554,382,745円
分配準備積立金額	D	10,392,729,989円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	39,238,115,799円
当ファンドの期末残存口数	F	65,703,863,834口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	5,971円
10,000口当たり分配金額	H	60円
収益分配金額	$I=F \times H/10,000$	394,223,183円

2025年 8月19日から2025年 9月16日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	409,375,948円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	29,347,795,998円
分配準備積立金額	D	10,225,279,498円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	39,982,451,444円
当ファンドの期末残存口数	F	66,935,037,372口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	5,973円
10,000口当たり分配金額	H	60円
収益分配金額	$I=F \times H/10,000$	401,610,224円

2025年 9月17日から2025年10月16日まで

項目		
費用控除後の配当等収益額	A	416,493,184円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	B	0円
収益調整金額	C	29,643,509,076円
分配準備積立金額	D	10,125,902,083円
当ファンドの分配対象収益額	$E=A+B+C+D$	40,185,904,343円
当ファンドの期末残存口数	F	67,251,752,330口
10,000口当たり収益分配対象額	$G=E/F \times 10,000$	5,975円
10,000口当たり分配金額	H	60円
収益分配金額	$I=F \times H/10,000$	403,510,513円

## (金融商品に関する注記)

## (1)金融商品の状況に関する事項

前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
<p>1. 金融商品に対する取組方針 当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。</p> <p>2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 当ファンドが保有する金融商品の種類は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。 当ファンドが保有する有価証券の詳細は、(その他の注記)の2 有価証券関係に記載しております。 これらは、金利変動リスク、バンクローンの価格変動リスク、為替変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。</p> <p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>	<p>1. 金融商品に対する取組方針 同左</p> <p>2. 金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク 同左</p> <p>3. 金融商品に係るリスク管理体制</p>

委託会社においては、独立した投資リスク管理に関する委員会を設け、パフォーマンスの審査及び運用リスクの管理を行なっております。 市場リスクの管理 市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行なっております。 信用リスクの管理 信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行なっております。 流動性リスクの管理 流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行なっております。	同左
---	----

## (2)金融商品の時価等に関する事項

前期 2025年 4月16日現在	当期 2025年10月16日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。 2. 時価の算定方法 投資信託受益証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 親投資信託受益証券 （重要な会計方針に係る事項に関する注記）に記載しております。 コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務 これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。	1. 貸借対照表計上額、時価及び差額 同左 2. 時価の算定方法 同左

## (関連当事者との取引に関する注記)

前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
市場価格その他当該取引に係る公正な価格を勘案して、一般の取引条件と異なる関連当事者との取引は行なわれていないため、該当事項はございません。	同左

## (その他の注記)

## 1 元本の移動

前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
期首元本額 51,219,564,543円	期首元本額 59,084,145,784円
期中追加設定元本額 11,645,304,650円	期中追加設定元本額 11,304,880,732円
期中一部解約元本額 3,780,723,409円	期中一部解約元本額 3,137,274,186円

## 2 有価証券関係

## 売買目的有価証券

種類	前期 自 2024年10月17日 至 2025年 4月16日	当期 自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日
	損益に含まれた評価差額（円）	損益に含まれた評価差額（円）
投資信託受益証券	4,087,022,093	2,289,119,654
親投資信託受益証券	0	397
合計	4,087,022,093	2,289,120,051

## 3 デリバティブ取引関係

該当事項はありません。

## (4)【附属明細表】

## 第1 有価証券明細表

## (1)株式(2025年10月16日現在)

該当事項はありません。

## (2)株式以外の有価証券(2025年10月16日現在)

(単位:円)

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	PIMCOバミューダ・インカム・ファン ドA - クラスN (USD)	8,779,504	88,040,866,112	

	小計	銘柄数：1 組入時価比率：99.3%	8,779,504	88,040,866,112 100.0%
	合計			88,040,866,112
親投資信託受益証券	日本円	野村マネーポートフォリオ マザーファンド	1,985,121	2,001,398
	小計	銘柄数：1 組入時価比率：0.0%	1,985,121	2,001,398 0.0%
	合計			2,001,398
合計				88,042,867,510

(注1)投資信託受益証券、投資証券及び親投資信託受益証券における券面総額の数値は、証券数を表示しております。

(注2)比率は左より組入時価の純資産に対する比率、及び各小計欄の合計金額に対する比率であります。

## 第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

### (参考)

「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース」、「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース」、「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース」および「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース」は「野村マネーポートフォリオ マザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された親投資信託受益証券は、すべて同親投資信託の受益証券です。  
なお、以下に記載した状況は監査の対象外となっております。

## 野村マネーポートフォリオ マザーファンド

### 貸借対照表

(単位：円)

(2025年10月16日現在)

資産の部	
流動資産	
コール・ローン	18,911,585
現先取引勘定	40,000,000
未収利息	252
差入委託証拠金	1,040,000
流動資産合計	59,951,837
資産合計	59,951,837
負債の部	
流動負債	
流動負債合計	-
負債合計	-
純資産の部	
元本等	
元本	59,462,655
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金( )	489,182
元本等合計	59,951,837
純資産合計	59,951,837
負債純資産合計	59,951,837

### 注記表

#### (重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 金融商品の時価等に関する事項の補足説明	金融商品の時価の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。
2. その他	現先取引 現先取引の会計処理については、「金融商品に関する会計基準」の規定によっております。

(重要な会計上の見積りに関する注記)

該当事項はありません。

(貸借対照表に関する注記)

2025年10月16日現在	
1. 計算期間の末日における1単位当たりの純資産の額	
1口当たり純資産額	1.0082円
(10,000口当たり純資産額)	(10,082円)

## (金融商品に関する注記)

## (1)金融商品の状況に関する事項

自 2025年 4月17日 至 2025年10月16日	
1.金融商品に対する取組方針	
当ファンドは、投資信託及び投資法人に関する法律第2条第4項に定める証券投資信託であり、信託約款に規定する運用の基本方針に従い、有価証券等の金融商品に対して投資として運用することを目的としております。	
2.金融商品の内容及びその金融商品に係るリスク	
当ファンドが保有する金融商品の種類は、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。これらは、金利変動リスクなどの市場リスク、信用リスク及び流動性リスクにさらされております。	
3.金融商品に係るリスク管理体制	
委託会社においては、独立した投資リスク管理に関する委員会を設け、パフォーマンスの考査及び運用リスクの管理を行なっております。	
市場リスクの管理	
市場リスクに関しては、資産配分等の状況を常時、分析・把握し、投資方針に沿っているか等の管理を行なっております。	
信用リスクの管理	
信用リスクに関しては、発行体や取引先の財務状況等に関する情報収集・分析を常時、継続し、格付等の信用度に応じた組入制限等の管理を行なっております。	
流動性リスクの管理	
流動性リスクに関しては、必要に応じて市場流動性の状況を把握し、取引量や組入比率等の管理を行なっております。	

## (2)金融商品の時価等に関する事項

2025年10月16日現在	
1. 貸借対照表計上額、時価及び差額	
貸借対照表上の金融商品は原則としてすべて時価で評価しているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありませ	
ん。	
2. 時価の算定方法	
コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務	
これらの科目は短期間で決済されるため、帳簿価額は時価と近似していることから、当該帳簿価額を時価としており	
ます。	

## (その他の注記)

## 元本の移動及び期末元本額の内訳

2025年10月16日現在	
期首	2025年 4月17日
本報告書における開示対象ファンドの期首における当ファンドの元本額	39,420,033円
同期中における追加設定元本額	22,624,847円
同期中における一部解約元本額	2,582,225円
期末元本額	59,462,655円
期末元本額の内訳*	
NEXT FUNDS China AMC・中国株式・上証50連動型上場投信	9,938円
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース	1,985,121円
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース	1,985,121円
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース	1,985,121円
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース	1,985,121円
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース(野村SMA・EW向け)	1,994,062円
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース(野村SMA・EW向け)	1,994,062円
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド 為替ナビ Eコース	1,994,064円
野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド 為替ナビ Fコース	1,994,064円
野村ブラックロック世界REITファンド Aコース(野村SMA・EW向け)	9,955円
野村ブラックロック世界REITファンド Bコース(野村SMA・EW向け)	9,955円
財形給付金ファンド	39,532,907円
野村DC・PIMCO・世界インカム戦略ファンド(為替ヘッジあり)	1,994,063円
野村DC・PIMCO・世界インカム戦略ファンド(為替ヘッジなし)	1,989,101円

\*は当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

## 附属明細表

## 第1 有価証券明細表

## (1)株式(2025年10月16日現在)

該当事項はありません。

## (2)株式以外の有価証券(2025年10月16日現在)

該当事項はありません。

## 第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコース

2025年11月28日現在

資産総額	255,846,120,755円
負債総額	1,054,324,451円
純資産総額（ - ）	254,791,796,304円
発行済口数	244,951,792,414口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0402円

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコース

2025年11月28日現在

資産総額	123,212,543,248円
負債総額	661,481,086円
純資産総額（ - ）	122,551,062,162円
発行済口数	63,467,220,951口
1口当たり純資産額（ / ）	1.9309円

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコース

2025年11月28日現在

資産総額	59,655,891,938円
負債総額	517,014,491円
純資産総額（ - ）	59,138,877,447円
発行済口数	71,956,962,745口
1口当たり純資産額（ / ）	0.8219円

## 野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコース

2025年11月28日現在

資産総額	96,053,519,382円
負債総額	420,231,921円
純資産総額（ - ）	95,633,287,461円
発行済口数	69,660,186,253口
1口当たり純資産額（ / ）	1.3729円

## (参考)野村マネーポートフォリオ マザーファンド

2025年11月28日現在

資産総額	60,586,352円
負債総額	円
純資産総額（ - ）	60,586,352円
発行済口数	60,057,735口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0088円

#### 第4【内国投資信託受益証券事務の概要】

##### (1) 受益証券の名義書換えの事務等

該当事項はありません。

ファンドの受益権の帰属は、振替機関等の振替口座簿に記載または記録されることにより定まり、この信託の受益権を取り扱う振替機関が社振法の規定により主務大臣の指定を取り消された場合または当該指定が効力を失った場合であって、当該振替機関の振替業を承継する者が存在しない場合その他やむを得ない事情がある場合を除き、当該振替受益権を表示する受益証券を発行しません。

なお、受益者は、委託者がやむを得ない事情等により受益証券を発行する場合を除き、無記名式受益証券から記名式受益証券への変更の請求、記名式受益証券から無記名式受益証券への変更の請求、受益証券の再発行の請求を行なわないものとします。

##### (2) 受益者に対する特典

該当事項はありません。

##### (3) 受益権の譲渡

受益者は、その保有する受益権を譲渡する場合には、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等に振替の申請をするものとします。

上記の申請のある場合には、上記の振替機関等は、当該譲渡に係る譲渡人の保有する受益権の口数の減少および譲受人の保有する受益権の口数の増加につき、その備える振替口座簿に記載または記録するものとします。ただし、上記の振替機関等が振替先口座を開設したものでない場合には、譲受人の振替先口座を開設した他の振替機関等（当該他の振替機関等の上位機関を含みます。）に社振法の規定にしたがい、譲受人の振替先口座に受益権の口数の増加の記載または記録が行なわれるよう通知するものとします。

委託者は、上記の振替について、当該受益者の譲渡の対象とする受益権が記載または記録されている振替口座簿に係る振替機関等と譲受人の振替先口座を開設した振替機関等が異なる場合等において、委託者が必要と認めるときまたはやむをえない事情があると判断したときは、振替停止日や振替停止期間を設けることができます。

##### (4) 受益権の譲渡の対抗要件

受益権の譲渡は、振替口座簿への記載または記録によらなければ、委託者および受託者に対抗することができません。

##### (5) 受益権の再分割

委託者は、受託者と協議のうえ、一定日現在の受益権を均等に再分割できるものとします。

##### (6) 質権口記載又は記録の受益権の取扱い

振替機関等の振替口座簿の質権口に記載または記録されている受益権にかかる収益分配金の支払い、一部解約の実行の請求の受付け、一部解約金および償還金の支払い等については、約款の規定によるほか、民法その他の法令等にしたがって取り扱われます。

## 第二部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

##### (1)資本金の額

2025年11月末現在、17,180百万円

会社が発行する株式総数 20,000,000株

発行済株式総数 5,150,693株

過去5年間における主な資本金の額の増減：該当事項はありません。

##### (2)会社の機構

###### (a)会社の意思決定機構

当社は監査等委員会設置会社であり、会社の機関として株主総会、取締役会のほか代表取締役および監査等委員会を設けております。各機関の権限は以下のとおりです。

###### 株主総会

株主により構成され、取締役・会計監査人の選任・解任、剰余金の配当の承認、定款変更・合併等の重要事項の承認等を行います。

###### 取締役会

取締役により構成され、当社の業務につき意思決定を行います。また代表取締役等を選任し、取締役の職務の執行を監督します。

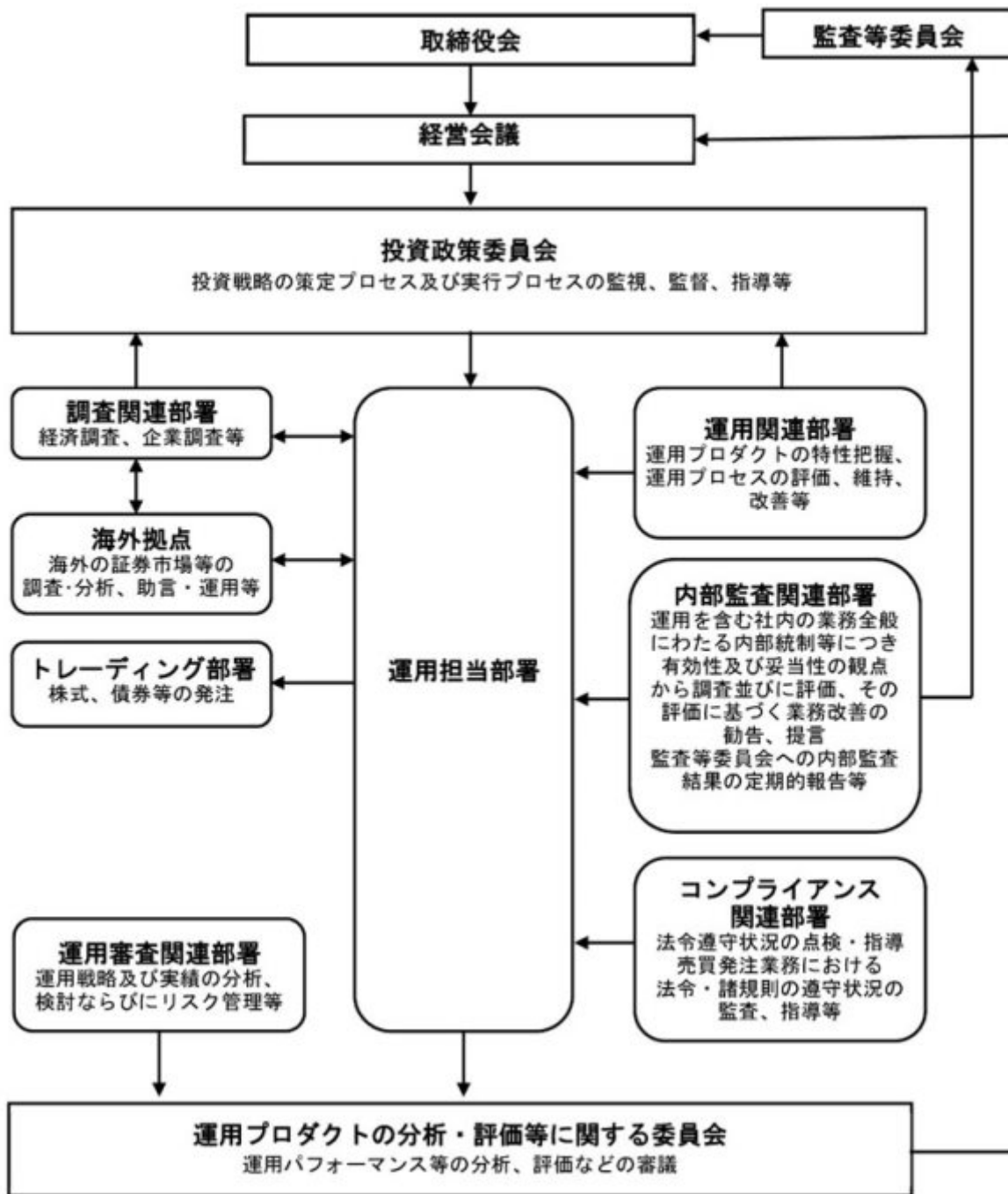
###### 代表取締役・業務執行取締役

代表取締役を含む各業務執行取締役は、当社の業務の執行を行います。代表取締役は当社を代表いたします。また取締役会により委任された一定の事項について、代表取締役を含む業務執行取締役で構成される経営会議が意思決定を行います。なお、当社は執行役員制度を導入しており、経営会議の構成員には執行役員が含まれます。

###### 監査等委員会

監査等委員である取締役3名以上（但し、過半数は社外取締役）で構成され、取締役の職務執行の適法性および妥当性に関する監査を行うとともに、株主総会に提出する会計監査人の選任・解任・不再任に関する議案の内容や監査等委員である取締役以外の取締役の選任・解任・辞任および報酬等についての監査等委員会としての意見を決定します。

## (b)投資信託の運用体制



## 2【事業の内容及び営業の概況】

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託者は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業に係る業務の一部及び投資助言業務を行っています。

委託者の運用する証券投資信託は2025年10月31日現在次の通りです(ただし、親投資信託を除きます。)

種類	本数	純資産総額(百万円)
追加型株式投資信託	900	67,170,616

単位型株式投資信託	130	728,574
追加型公社債投資信託	14	7,208,197
単位型公社債投資信託	371	610,107
合計	1,415	75,717,494

### 3【委託会社等の経理状況】

1. 委託会社である野村アセットマネジメント株式会社(以下「委託会社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号、以下「財務諸表等規則」という)、ならびに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)により作成しております。

委託会社の中間財務諸表は、財務諸表等規則ならびに同規則第282条及び第306条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年8月6日内閣府令第52号)に基づいて作成しております。

2. 財務諸表及び中間財務諸表の記載金額は、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

3. 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(2024年4月1日から2025年3月31日まで)の財務諸表ならびに中間会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)の中間財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人の監査及び中間監査を受けております。

#### (1)【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (2024年3月31日)		当事業年度 (2025年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
(資産の部)					
流動資産					
現金・預金			7,405		8,177
金銭の信託			44,745		46,810
前払金			7		12
前払費用			852		1,019
未収入金			1,023		666
未収委託者報酬			31,788		34,911
未収運用受託報酬			5,989		7,066
短期貸付金			757		2,242
その他			169		195
貸倒引当金			18		21
流動資産計			92,719		101,080
固定資産					
有形固定資産					
建物	2	595		589	
器具備品	2	350		292	
無形固定資産					
ソフトウェア		5,658		6,888	
その他		0		0	

投資その他の資産		17,314		14,923
投資有価証券		1,813	2,164	
関係会社株式		9,535	6,584	
長期差入保証金		519	521	
長期前払費用		10	11	
前払年金費用		1,875	2,413	
繰延税金資産		2,651	3,134	
その他		908	92	
固定資産計		23,918		22,694
資産合計		116,638		123,775

区分	注記 番号	前事業年度 (2024年3月31日)		当事業年度 (2025年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
<b>(負債の部)</b>					
<b>流動負債</b>					
関係会社短期借入金			13,700		6,000
預り金			123		132
未払金			11,404		11,982
未払収益分配金		1		1	
未払償還金		39		65	
未払手数料		10,312		11,326	
関係会社未払金		1,052		589	
未払費用	1		12,507		12,594
未払法人税等			8,095		10,363
未払消費税等			1,590		2,112
前受収益			15		14
賞与引当金			4,543		5,846
その他			24		-
流動負債計			52,005		49,045
<b>固定負債</b>					
退職給付引当金			2,759		2,618
時効後支払損引当金			602		610
資産除去債務			1,123		1,431
固定負債計			4,484		4,660
負債合計			56,490		53,706
<b>(純資産の部)</b>					
<b>株主資本</b>					
資本金			17,180		17,180
資本剰余金			13,729		13,729
資本準備金		11,729		11,729	
その他資本剰余金		2,000		2,000	
利益剰余金			28,910		38,841
利益準備金		685		685	
その他利益剰余金		28,225		38,156	
繰越利益剰余金		28,225		38,156	
評価・換算差額等			327		317
その他有価証券評価差額金			327		317
純資産合計			60,147		70,069
負債・純資産合計			116,638		123,775

## ( 2 ) 【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)		当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
営業収益					
委託者報酬			124,722		155,775
運用受託報酬			21,188		23,666
その他営業収益			291		328
営業収益計			146,202		179,770
営業費用					
支払手数料			43,258		56,923
広告宣伝費			1,054		1,115
公告費			0		0
調査費			33,107		38,115
調査費		6,797		6,901	
委託調査費		26,310		31,213	
委託計算費			1,377		1,345
営業雑経費			3,670		4,336
通信費		92		89	
印刷費		820		780	
協会費		85		93	
諸経費		2,671		3,372	
営業費用計			82,468		101,835
一般管理費					
給料			13,068		14,094
役員報酬		259		321	
給料・手当		7,985		7,982	
賞与		4,822		5,790	
交際費			87		105
寄付金			117		116
旅費交通費			323		394
租税公課			990		1,537
不動産賃借料			1,235		1,236
退職給付費用			893		598
固定資産減価償却費			2,292		2,309
諸経費			12,483		12,708
一般管理費計			31,491		33,100
営業利益			32,242		44,834

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)		当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	
		金額(百万円)		金額(百万円)	
営業外収益					
受取配当金	1	7,054		6,594	

受取利息		48		93	
為替差益		146		1,498	
その他		625		786	
営業外収益計			7,875		8,972
営業外費用					
支払利息		123		210	
金銭の信託運用損		782		396	
時効後支払損引当金繰入額		14		10	
投資事業組合運用損		28		134	
その他		18		10	
営業外費用計			967		763
経常利益			39,149		53,043
特別利益					
株式報酬受入益		28		56	
特別利益計			28		56
特別損失					
投資有価証券売却損		5		-	
関係会社株式評価損		490		-	
固定資産除却損	2	31		14	
特別損失計			527		14
税引前当期純利益			38,651		53,085
法人税、住民税及び事業税			10,821		15,463
法人税等調整額			354		482
当期純利益			28,183		38,105

## (3) 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本								株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		別途積立金	繰越利益剰余金		
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	24,606	31,217	56,509	87,419
当期変動額									
剰余金の配当							55,782	55,782	55,782
当期純利益							28,183	28,183	28,183
別途積立金の取崩						24,606	24,606	-	-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									

当期変動額合計	-	-	-	-	-	24,606	2,991	27,598	27,598
当期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	-	28,225	28,910	59,820

(単位：百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	229	229	87,648
当期変動額			
剰余金の配当			55,782
当期純利益			28,183
別途積立金の取崩			-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	97	97	97
当期変動額合計	97	97	27,500
当期末残高	327	327	60,147

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益準備金	利益剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計		その他利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	28,225	28,910	59,820
当期変動額								
剰余金の配当						28,174	28,174	28,174
当期純利益						38,105	38,105	38,105
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	9,931	9,931	9,931
当期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	38,156	38,841	69,751

(単位：百万円)

	評価・換算差額等
--	----------

	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	純資産合計
当期首残高	327	327	60,147
当期変動額			
剰余金の配当			28,174
当期純利益			38,105
株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額）	9	9	9
当期変動額合計	9	9	9,921
当期末残高	317	317	70,069

## [重要な会計方針]

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) 子会社株式及び関連会社株式 ... 移動平均法による原価法</p> <p>(2) その他有価証券 市場価格のない ... 時価法 株式等以外のもの (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)</p> <p>市場価格のない ... 移動平均法による原価法 株式等</p>						
2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法						
3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法	時価法						
4. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準	外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。						
5. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)、並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。</p> <p>主な耐用年数は以下の通りであります。</p> <table> <tr> <td>建物</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td>附属設備</td> <td>6～15年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>4～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産及び投資その他の資産 定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p>	建物	6年	附属設備	6～15年	器具備品	4～15年
建物	6年						
附属設備	6～15年						
器具備品	4～15年						
6. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 賞与の支払いに備えるため、支払見込額を計上しております。</p>						

<p>7. 収益及び費用の計上基準</p>	<p>(3) 退職給付引当金  従業員からの退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企業年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。  退職給付見込額の期間帰属方法  退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。  数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法  確定給付型企業年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。  退職一時金及び確定給付型企業年金に係る過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金  時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p> <p>当社は、資産運用サービスから委託者報酬、運用受託報酬を稼得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。</p> <p><b>委託者報酬</b>  委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を投資信託によって主に年4回、もしくは年2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p><b>運用受託報酬</b>  運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき契約期間の純資産総額等に対する一定割合として認識され、確定した報酬を顧問口座によって主に年4回、もしくは年2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認識しております。</p> <p><b>成功報酬</b>  成功報酬は、対象となる投資信託または顧問口座の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。</p>
-----------------------	--

[ 会計上の見積りの変更に関する注記 ]

(1) 資産除去債務の計上額

当事業年度において、国内における近年の物価高騰を受け、本社事務所の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務に係る資産除去債務について、最新の物価及び人件費に基づく再見積りを行いました。この見積りの変更による増加額308百万円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。

[ 表示方法の変更に関する注記 ]

( 損益計算書関係 )

前事業年度において、「営業外費用」の「その他」に含めていた「投資事業組合運用損」は、営業外費用の総額の100分の10を超えたため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外費用」の「その他」に表示していた47百万円は、「投資事業組合運用損」28百万円、「その他」18百万円として組み替えております。

#### [ 会計方針の変更 ]

該当事項はありません。

#### [ 未適用の会計基準等 ]

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
  - ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)
- ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

##### (1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるもの。

##### (2) 適用予定日

2028年3月期の期首より適用予定であります。

##### (3) 当該会計基準等の適用による影響

現時点において評価中であります。

#### [ 追加情報 ]

確定給付企業年金制度、退職一時金制度及び確定拠出年金制度を設けておりますが、2025年4月1日より確定給付企業年金制度の新規積立を停止し、確定拠出年金制度及び退職一時金制度による新規積立に変更しております。

この制度変更に伴う会計処理については、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第1号 2016年12月16日)及び「退職給付制度間の移行等の会計処理に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第2号 2007年2月7日)を適用しております。

なお、退職給付制度変更による、当事業年度の損益計算書への影響は軽微であります。

#### [ 注記事項 ]

##### 貸借対照表関係

前事業年度末 (2024年3月31日)	当事業年度末 (2025年3月31日)
------------------------	------------------------

<p>1. 関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。</p> <p>未払費用 1,939百万円</p>	<p>1. 関係会社に対する資産及び負債 区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。</p> <p>未払費用 2,204百万円</p>
<p>2. 有形固定資産より控除した減価償却累計額</p> <p>建物 1,214百万円</p> <p>器具備品 733</p> <hr/> <p>合計 1,948</p>	<p>2. 有形固定資産より控除した減価償却累計額</p> <p>建物 1,528百万円</p> <p>器具備品 792</p> <hr/> <p>合計 2,320</p>

### 損益計算書関係

前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
<p>1. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <p>受取配当金 7,050百万円</p>	<p>1. 関係会社に係る注記 区分掲記されたもの以外で関係会社に対するものは、次のとおりであります。</p> <p>受取配当金 6,591百万円</p>
<p>2. 固定資産除却損</p> <p>建物 -百万円</p> <p>器具備品 0</p> <p>ソフトウェア 30</p> <hr/> <p>合計 31</p>	<p>2. 固定資産除却損</p> <p>建物 0百万円</p> <p>器具備品 -</p> <p>ソフトウェア 14</p> <hr/> <p>合計 14</p>

### 株主資本等変動計算書関係

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

#### 1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	5,150,693株	-	-	5,150,693株

#### 2. 剰余金の配当に関する事項

##### (1) 配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

2023年5月23日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

##### 普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	55,782百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	10,830円
基準日	2023年3月31日
効力発生日	2023年6月30日

##### (2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2024年5月16日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

##### 普通株式の配当に関する事項

配当金の総額	28,174百万円
配当の原資	利益剰余金
1株当たり配当額	5,470円

基準日 2024年3月31日  
効力発生日 2024年6月28日

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首株式数	当事業年度増加株式数	当事業年度減少株式数	当事業年度末株式数
普通株式	5,150,693株	-	-	5,150,693株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

2024年5月16日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額 28,174百万円  
配当の原資 利益剰余金  
1株当たり配当額 5,470円  
基準日 2024年3月31日  
効力発生日 2024年6月28日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

2025年5月14日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。

普通株式の配当に関する事項

配当金の総額 38,115百万円  
配当の原資 利益剰余金  
1株当たり配当額 7,400円  
基準日 2025年3月31日  
効力発生日 2025年6月30日

金融商品関係

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自らが運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を特定金外信託を通じ保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき、運用受託者に対して支払われる報酬の未払金額であります。この未収運用受託報酬は、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、信託財産が信託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクにさらされておりますが、顧客ごとに決済期日および残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

2024年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	44,745	44,745	-
資産計	44,745	44,745	-
(2) その他（デリバティブ取引）	24	24	-
負債計	24	24	-

(注1) 現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、短期貸付金、短期借入金、未払金、未払費用、未払法人税等、未払消費税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 投資有価証券及び関係会社株式は、市場価格のない株式等及び組合出資金等であることから、上表には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

	前事業年度（百万円）
市場価格のない株式等（ ）	9,710
組合出資金等	1,638
合計	11,348

( ) 1 市場価格のない株式等には非上場株式等が含まれております。

2 非上場株式等について、当事業年度において490百万円減損処理を行っております。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
預金	7,405	-	-	-

金銭の信託	44,745	-	-	-
未収委託者報酬	31,788	-	-	-
未収運用受託報酬	5,989	-	-	-
短期貸付金	757	-	-	-
合計	90,685	-	-	-

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

区分	貸借対照表計上額（単位：百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託（運用目的・その他）	-	44,745	-	44,745
資産計	-	44,745	-	44,745
デリバティブ取引（通貨関連）	-	24	-	24
負債計	-	24	-	24

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

#### 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。

信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。構成物のレベルに基づき、レベル2の時価に分類しております。

#### デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算出してあり、レベル2の時価に分類しております。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### （1）金融商品に対する取組方針

当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を特定金外信託を通じ保有しております。特定金外信託を通じ行っているデリバティブ取引については、保有する投資信託にかかる将来の為替及び価格の変動によるリスクの軽減を目的としているため、投資信託保有残高の範囲内で行うこととし、投機目的のためのデリバティブ取引は行わない方針であります。

なお、余資運用に関しては、譲渡性預金等安全性の高い金融資産で運用し、資金調達に関しては、親会社である野村ホールディングス株式会社及びその他の金融機関からの短期借入による方針であり

ます。

## （２）金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

特定金外信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物などのデリバティブ取引によりヘッジしております。また、株式につきましては、政策投資として、あるいは業務上の関係維持を目的として保有しておりますが、価格変動リスクに晒されております。有価証券及び投資有価証券並びに金銭の信託については財務部が管理しており、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、その内容を経営に報告しております。

デリバティブ取引の実行及び管理については、財務部及び運用部で行っております。デリバティブ取引については、取引相手先として高格付を有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。財務部は月に一度デリバティブ取引の内容を含んだ財務報告を経営会議で行っております。

また、営業債権である未収委託者報酬は、投資信託約款に基づき、信託財産から委託者に対して支払われる信託報酬の未払金額であり、信託財産は受託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。同じく営業債権である未収運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき、運用受託者に対して支払われる報酬の未払金額であります。この未収運用受託報酬は、信託財産から運用受託者に対して支払われる場合は、信託財産が信託銀行において分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しており、顧客から直接運用受託者に対して支払われる場合は、当該顧客の信用リスクにさらされておりますが、顧客ごとに決済期日および残高を管理することにより、回収懸念の早期把握や回収リスクの軽減を図っております。

## ２．金融商品の時価等に関する事項

2025年3月31日における貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。

(単位：百万円)

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1)金銭の信託	46,810	46,810	-
(2)その他（デリバティブ取引）	70	70	-
資産計	46,880	46,880	-

(注1) 現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、短期貸付金、短期借入金、未払金、未払費用、未払法人税等、未払消費税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(注2) 投資有価証券及び関係会社株式は、市場価格のない株式等及び組合出資金等であることから、上表には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

	当事業年度（百万円）
市場価格のない株式等（ ）	6,759
組合出資金等	1,989
合計	8,749

( ) 1 市場価格のない株式等には非上場株式等が含まれております。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超

預金	8,177	-	-	-
金銭の信託	46,810	-	-	-
未収委託者報酬	34,911	-	-	-
未収運用受託報酬	7,066	-	-	-
短期貸付金	2,242	-	-	-
合計	99,208	-	-	-

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

区分	貸借対照表計上額（単位：百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託（運用目的・その他）	-	46,810	-	46,810
デリバティブ取引（通貨関連）	-	70	-	70
資産計	-	46,880	-	46,880

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

#### 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。

信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。構成物のレベルに基づき、レベル2の時価に分類しております。

#### デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算出してあり、レベル2の時価に分類しております。

#### 有価証券関係

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

##### 1. 売買目的有価証券(2024年3月31日)

該当事項はありません。

##### 2. 満期保有目的の債券(2024年3月31日)

該当事項はありません。

##### 3. 子会社株式及び関連会社株式(2024年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	当事業年度 (百万円)
子会社株式	9,428
関連会社株式	106

## 4．その他有価証券(2024年3月31日)

該当事項はありません。

非上場株式等（貸借対照表計上額174百万円）及び組合出資金等（貸借対照表計上額1,638百万円）については、市場価格のない株式等に該当するため、記載していません。

## 5．事業年度中に売却したその他有価証券（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

区分	売却額(百万円)	売却益の合計額(百万円)	売却損の合計額(百万円)
株式	36	-	5
合計	36	-	5

## 当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

## 1．売買目的有価証券(2025年3月31日)

該当事項はありません。

## 2．満期保有目的の債券(2025年3月31日)

該当事項はありません。

## 3．子会社株式及び関連会社株式(2025年3月31日)

市場価格のない株式等の貸借対照表計上額

区分	当事業年度 (百万円)
子会社株式	6,478
関連会社株式	106

## 4．その他有価証券(2025年3月31日)

該当事項はありません。

非上場株式等（貸借対照表計上額174百万円）及び組合出資金等（貸借対照表計上額1,989百万円）については、市場価格のない株式等に該当するため、記載していません。

## 5．事業年度中に売却したその他有価証券（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

該当事項はありません。

## デリバティブ取引関係

## 1．ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

## (1) 通貨関連

## 前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち一年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米ドル	730	-	24	24

## 当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち一年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米ドル	2,307	-	70	70

## 退職給付関係

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)	
1. 採用している退職給付制度の概要	
当社は、確定給付型の制度として確定給付型企业年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。	
2. 確定給付制度	
(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表	
退職給付債務の期首残高	20,314 百万円
勤務費用	802
利息費用	275
数理計算上の差異の発生額	1,024
退職給付の支払額	1,150
その他	11
退職給付債務の期末残高	19,205
(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表	
年金資産の期首残高	19,378 百万円
期待運用収益	455
数理計算上の差異の発生額	1,415
事業主からの拠出額	848
退職給付の支払額	850
年金資産の期末残高	21,247

## (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金

## 及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	16,431 百万円
年金資産	21,247
	4,815
非積立型制度の退職給付債務	2,774
未積立退職給付債務	2,041
未認識数理計算上の差異	2,923
未認識過去勤務費用	1
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	883
退職給付引当金	2,759
前払年金費用	1,875
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	883

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	802 百万円
利息費用	275
期待運用収益	455
数理計算上の差異の費用処理額	86
過去勤務費用の費用処理額	52
確定給付制度に係る退職給付費用	655

## (5) 年金資産に関する事項

## 年金資産の主な内容

年金資産合計に対する主な分類毎の比率は、次の通りです。

債券	31%
株式	32%
生保一般勘定	9%
生保特別勘定	7%
その他	21%
合計	100%

## 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

確定給付型企业年金制度の割引率	1.8%
退職一時金制度の割引率	1.3%
長期期待運用収益率	2.35%

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、206百万円でした。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

## 1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として確定給付型企业年金制度及び退職一時金制度を、また確定拠出型の制度として確定拠出年金制度を設けております。

## 2. 確定給付制度

## (1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	19,205 百万円
勤務費用	754
利息費用	331
数理計算上の差異の発生額	1,665
退職給付の支払額	1,317
過去勤務費用の発生額	882
その他	7
退職給付債務の期末残高	16,418

## (2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	21,247 百万円
期待運用収益	499
数理計算上の差異の発生額	429
事業主からの拠出額	748
退職給付の支払額	1,023
年金資産の期末残高	21,041

## (3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金及び前払年金費用の調整表

積立型制度の退職給付債務	14,234 百万円
年金資産	21,041
	6,806
非積立型制度の退職給付債務	2,183
未積立退職給付債務	4,623
未認識数理計算上の差異	4,003
未認識過去勤務費用	825
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	205
退職給付引当金	2,618
前払年金費用	2,413
貸借対照表上に計上された負債と資産の純額	205

## (4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	754 百万円
利息費用	331
期待運用収益	499
数理計算上の差異の費用処理額	157
過去勤務費用の費用処理額	58
確定給付制度に係る退職給付費用	371

## (5) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内容

年金資産合計に対する主な分類毎の比率は、次の通りです。

債券	32%
株式	31%
生保一般勘定	9%
生保特別勘定	7%
その他	20%
合計	100%

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

## (6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当事業年度末における主要な数理計算上の計算基礎

確定給付型企業年金制度の割引率	2.5%
退職一時金制度の割引率	1.9%
長期期待運用収益率	2.35%

## 3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、206百万円でした。

## 税効果会計関係

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

前事業年度末 (2024年3月31日)		当事業年度末 (2025年3月31日)	
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳		1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	
繰延税金資産	百万円	繰延税金資産	百万円
賞与引当金	1,422	賞与引当金	1,840
退職給付引当金	855	退職給付引当金	824
関係会社株式評価減	1,162	関係会社株式評価減	1,281
未払事業税	360	未払事業税	547
投資有価証券評価減	11	投資有価証券評価減	12
減価償却超過額	323	減価償却超過額	331
時効後支払損引当金	186	時効後支払損引当金	192
関係会社株式売却損	505	関係会社株式売却損	509
ゴルフ会員権評価減	79	ゴルフ会員権評価減	81
資産除去債務	348	資産除去債務	451
未払社会保険料	116	未払社会保険料	135
その他	50	その他	38
繰延税金資産小計	5,422	繰延税金資産小計	6,245
評価性引当額	1,848	評価性引当額	1,973
繰延税金資産合計	3,573	繰延税金資産合計	4,271
繰延税金負債		繰延税金負債	
資産除去債務に対応する除去費用	109	資産除去債務に対応する除去費用	144
関係会社株式評価益	85	関係会社株式評価益	86
その他有価証券評価差額金	146	その他有価証券評価差額金	145
前払年金費用	581	前払年金費用	760
繰延税金負債合計	922	繰延税金負債合計	1,136
繰延税金資産の純額	2,651	繰延税金資産の純額	3,134
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳		2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	31.0%	法定実効税率	31.0%
(調整)		(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2%	交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	5.4%	受取配当金等永久に益金に算入されない項目	3.9%
タックスヘイブン税制	1.2%	タックスヘイブン税制	1.3%
外国税額控除	0.3%	外国税額控除	0.3%
外国子会社からの受取配当に係る外国源泉税	0.5%	外国子会社からの受取配当に係る外国源泉税	0.5%
その他	0.2%	その他	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	27.0%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	28.2%

	<p>3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正</p> <p>「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。</p> <p>これに伴い、2026年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を31.0%から31.5%に変更し計算しております。</p> <p>この変更により、当事業年度の繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は9百万円増加し、法人税等調整額が11百万円、その他有価証券評価差額金が2百万円、それぞれ減少しております。</p>
--	--

## 2. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しており、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従って、法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理並びに開示を行っております。

### 資産除去債務関係

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

#### 1. 当該資産除去債務の概要

本社の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

#### 2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

当事業年度において、原状回復費用の見積変更と使用見込期間の延長により、変更前の資産除去債務残高に308百万円加算しております。使用見込期間を当該不動産賃貸借契約期間とし、割引率は0.0%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

#### 3. 当該資産除去債務の総額の増減

	（単位：百万円）			
	前事業年度		当事業年度	
	自	2023年4月1日	自	2024年4月1日
	至	2024年3月31日	至	2025年3月31日
期首残高		1,123		1,123
有形固定資産の取得に伴う増加		-		-
資産除去債務の履行による減少		-		-
見積もりの変更による増加		-		308
期末残高		1,123		1,431

#### 4. 当該資産除去債務の金額の見積もりの変更

【会計上の見積りの変更に関する注記】（1）に記載の通りであります。

### 収益認識に関する注記

#### 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

区分	前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)
委託者報酬	124,707百万円
運用受託報酬	19,131百万円
成功報酬（注）	2,071百万円

その他営業収益	291百万円
合計	146,202百万円

（注）成功報酬は、損益計算書において委託者報酬または運用受託報酬に含めて表示しております。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

区分	当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)
委託者報酬	155,768百万円
運用受託報酬	21,631百万円
成功報酬（注）	2,042百万円
その他営業収益	328百万円
合計	179,770百万円

（注）成功報酬は、損益計算書において委託者報酬または運用受託報酬に含めて表示しております。

## 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

[重要な会計方針] 7. 収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

## 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から当事業年度の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## セグメント情報等

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

### 1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

### 2. 関連情報

#### (1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

#### (2) 地域ごとの情報

##### 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

##### 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

#### (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先が識別されていないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

### 1. セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 2. 関連情報

### (1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

### (2) 地域ごとの情報

#### 売上高

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

#### 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

### (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先が識別されていないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

## 関連当事者情報

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

## 1. 関連当事者との取引

### (ア) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
親会社	野村ホールディングス株式会社	東京都中央区	594,493 (百万円)	証券持株会社業	被所有100%	経営管理	資金の借入(*1)	141,800	短期借入金	13,700
							資金の返済(*1)	128,100		
							借入金利息(*1)	123	未払利息	

### (イ) 子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
子会社	ノムラ・エーエム・ファイナンス・インク	ケイマン	2,500 (米ドル)	資金管理	直接100%	資産の賃貸借	資金の貸付(*1)	2,856	短期貸付金	757
							資金の返済(*1)	3,081		
							貸付金利息(*1)	48	未収利息	

## (ウ) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
親会社の子会社	野村証券株式会社	東京都中央区	10,000 (百万円)	証券業	-	当社投資信託の募集の取扱及び売出の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等 役員の兼任	投資信託に係る事務代行手数料の支払(*2)	30,272	未払手数料	7,148

## (エ) 役員及び個人主要株主等

該当はありません。

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
(\*1) 資金の借入及び貸付については、市場金利等を勘案し総合的に決定しております。  
(\*2) 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

野村ホールディングス㈱（東京証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、  
ニューヨーク証券取引所に上場）

## (2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

## 1. 関連当事者との取引

## (ア) 親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
親会社	野村ホールディングス株式会社	東京都中央区	594,493 (百万円)	証券持株会社業	被所有100%	経営管理	資金の借入(*1)	177,500	短期借入金	6,000
							資金の返済(*1)	185,200		
							借入金利息(*1)	210	未払利息	3

## (イ) 子会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引 金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
子会社	ノムラ・エーエム・ファイナンス・インク	ケイマン	2,500 (米ドル)	資金管理	直接100%	資産の賃貸借	資金の貸付(*1)	6,964	短期貸付金	2,242
							資金の返済(*1)	5,368		
							貸付金利息(*1)	93	未収利息	23

子会社	ノムラ・アセット・マネジメント U.S.A. インク	ニューヨーク	7,934,529 (米ドル)	投資顧問業	直接100%	-	有償減資 (*2)	4,475	-	-
-----	----------------------------	--------	--------------------	-------	--------	---	--------------	-------	---	---

## (ウ) 兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社の子会社	野村証券株式会社	東京都中央区	10,000 (百万円)	証券業	-	当社投資信託の募集の取扱及び売出の取扱ならびに投資信託に係る事務代行の委託等 役員の兼任	投資信託に係る事務代行手数料の支払(*3)	40,328	未払手数料	7,644

## (エ) 役員及び個人主要株主等

該当はありません。

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。  
 2. 取引条件及び取引条件の決定方針等  
 (\*1) 資金の借入及び貸付については、市場金利等を勘案し総合的に決定しております。  
 (\*2) ノムラ・アセット・マネジメント U.S.A. インクが行った有償減資の金額を記載しております。  
 (\*3) 投資信託に係る事務代行手数料については、商品性等を勘案し総合的に決定しております。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

野村ホールディングス(株) (東京証券取引所、名古屋証券取引所、シンガポール証券取引所、ニューヨーク証券取引所に上場)

## (2) 重要な関連会社の要約財務諸表

該当はありません。

## 1株当たり情報

前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)		当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)	
1株当たり純資産額	11,677円62銭	1株当たり純資産額	13,603円86銭
1株当たり当期純利益	5,471円85銭	1株当たり当期純利益	7,398円11銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。		潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。	
1株当たり当期純利益の算定上の基礎		1株当たり当期純利益の算定上の基礎	
損益計算書上の当期純利益	28,183百万円	損益計算書上の当期純利益	38,105百万円
普通株式に係る当期純利益	28,183百万円	普通株式に係る当期純利益	38,105百万円
普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。		普通株主に帰属しない金額の主要な内訳 該当事項はありません。	
普通株式の期中平均株式数	5,150,693株	普通株式の期中平均株式数	5,150,693株

## 中間財務諸表

## 中間貸借対照表

		2025年9月30日現在
区分	注記 番号	金額(百万円)
(資産の部)		
流動資産		
現金・預金		5,306
金銭の信託		61,701
未収委託者報酬		36,524
未収運用受託報酬		6,554
短期貸付金		2,977
その他		1,423
貸倒引当金		21
流動資産計		114,466
固定資産		
有形固定資産	1	694
無形固定資産		7,496
ソフトウェア		7,496
その他		0
投資その他の資産		17,252
投資有価証券		2,936
関係会社株式		6,878
長期差入保証金		522
前払年金費用		2,655
繰延税金資産		4,154
その他		104
固定資産計		25,444
資産合計		139,910

		2025年9月30日現在
区分	注記 番号	金額(百万円)
(負債の部)		
流動負債		
短期借入金		44,300
未払金		12,484
未払収益分配金		1
未払償還金		64
未払手数料		11,936
関係会社未払金		483
未払費用		11,850
未払法人税等		6,494
未払消費税等		970
賞与引当金		3,346
その他		188
流動負債計		79,635
固定負債		
退職給付引当金		2,754
時効後支払損引当金		616
資産除去債務		1,431
固定負債計		4,802
負債合計		84,438
(純資産の部)		
株主資本		
資本金		55,149
資本剰余金		17,180
資本剰余金		13,729
資本準備金		11,729
その他資本剰余金		2,000
利益剰余金		24,239

利益準備金		685
その他利益剰余金		23,554
繰越利益剰余金		23,554
評価・換算差額等		323
その他有価証券評価差額金		323
純資産合計		55,472
負債・純資産合計		139,910

## 中間損益計算書

区分	注記 番号	自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日
		金額(百万円)
営業収益		
委託者報酬		83,255
運用受託報酬		11,442
その他営業収益		148
営業収益計		94,846
営業費用		
支払手数料		31,463
調査費		19,015
その他営業費用		3,383
営業費用計		53,863
一般管理費	1	18,119
営業利益		22,863
営業外収益	2	7,810
営業外費用	3	900
経常利益		29,773
特別利益	4	50
特別損失	5	346
税引前中間純利益		29,477
法人税、住民税及び事業税		6,987
法人税等調整額		1,022
中間純利益		23,512

## 中間株主資本等変動計算書

当中間会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

(単位：百万円)

	株主資本
--	------

	資本金	資本剰余金			利益剰余金			株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計	
						繰越利益剰余金		
当期首残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	38,156	38,841	69,751
当中間期変動額								
剰余金の配当						38,115	38,115	38,115
中間純利益						23,512	23,512	23,512
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）								
当中間期変動額合計	-	-	-	-	-	14,602	14,602	14,602
当中間期末残高	17,180	11,729	2,000	13,729	685	23,554	24,239	55,149

(単位：百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	317	317	70,069
当中間期変動額			
剰余金の配当			38,115
中間純利益			23,512
株主資本以外の項目の当中間期変動額（純額）	5	5	5
当中間期変動額合計	5	5	14,596
当中間期末残高	323	323	55,472

## [重要な会計方針]

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 子会社株式及び関連会社株式 ... 移動平均法による原価法  (2) その他有価証券 市場価格のない ... 時価法 株式等以外のもの (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)  市場価格のない ... 移動平均法による原価法 株式等
2. 金銭の信託の評価基準及び評価方法	時価法

<p>3. デリバティブ取引の評価基準及び評価方法</p> <p>4. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準</p> <p>5. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>6. 引当金の計上基準</p>	<p>時価法</p> <p>外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。</p> <p>(1) 有形固定資産  定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)、並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。  主な耐用年数は以下の通りであります。</p> <table border="1" data-bbox="687 481 1029 577"> <tr> <td>建物</td> <td>6年</td> </tr> <tr> <td>附属設備</td> <td>6～15年</td> </tr> <tr> <td>器具備品</td> <td>4～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産及び投資その他の資産  定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。</p> <p>(1) 貸倒引当金  債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金  賞与の支払いに備えるため、支払見込額に基づき当中間会計期間に見合う分を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金  従業員の退職給付に備えるため、退職一時金及び確定給付型企業年金について、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。  退職給付見込額の期間帰属方法  退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当中間会計期間末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。  数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法  確定給付型企業年金に係る数理計算上の差異は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度の翌期から費用処理することとしております。また、退職一時金に係る数理計算上の差異は、発生した事業年度の翌期に一括して費用処理することとしております。  退職一時金及び確定給付型企業年金に係る過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による定額法により、発生した事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 時効後支払損引当金  時効成立のため利益計上した収益分配金及び償還金について、受益者からの今後の支払請求に備えるため、過去の支払実績に基づく将来の支払見込額を計上しております。</p>	建物	6年	附属設備	6～15年	器具備品	4～15年
建物	6年						
附属設備	6～15年						
器具備品	4～15年						

## 7. 収益及び費用の計上基準

当社は、資産運用サービスから委託者報酬、運用受託報酬を稼得しております。これらには成功報酬が含まれる場合があります。

## 委託者報酬

委託者報酬は、投資信託の信託約款に基づき日々の純資産総額に対する一定割合として認識され、確定した報酬を投資信託によって主に年4回、もしくは年2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、投資信託の運用期間にわたり収益として認識しております。

## 運用受託報酬

運用受託報酬は、投資顧問契約に基づき契約期間の純資産総額等に対する一定割合として認識され、確定した報酬を顧問口座によって主に年4回、もしくは年2回受取ります。当該報酬は期間の経過とともに履行義務が充足されるという前提に基づき、顧問口座の運用期間にわたり収益として認識しております。

## 成功報酬

成功報酬は、対象となる投資信託または顧問口座の特定のベンチマークまたはその他のパフォーマンス目標を上回る超過運用益に対する一定割合として認識されます。当該報酬は成功報酬を受領する権利が確定した時点で収益として認識しております。

## [注記事項]

## 中間貸借対照表関係

2025年9月30日現在	
1 有形固定資産の減価償却累計額	2,510百万円
2 消費税等の取扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ「未払消費税等」として表示しております。

## 中間損益計算書関係

自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日	
1 減価償却実施額	
有形固定資産	189百万円
無形固定資産	1,079百万円
2 営業外収益のうち主要なもの	
受取配当金	7,435百万円
3 営業外費用のうち主要なもの	
金銭信託運用損	507百万円
支払利息	222百万円
雑損	159百万円
4 特別利益の内訳	
株式報酬受入益	50百万円
5 特別損失の内訳	
投資有価証券等評価損	299百万円
固定資産除却損	46百万円

## 中間株主資本等変動計算書関係

		自 2025年4月 1日			
		至 2025年9月30日			
1 発行済株式に関する事項					
	株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当中間会計期間末
	普通株式	5,150,693株	-	-	5,150,693株
2 配当に関する事項					
配当金支払額					
2025年5月14日開催の取締役会において、次のとおり決議しております。					
・普通株式の配当に関する事項					
	(1) 配当金の総額			38,115百万円	
	(2) 1株当たり配当額			7,400円	
	(3) 基準日			2025年3月31日	
	(4) 効力発生日			2025年6月30日	

## 金融商品関係

## 1. 金融商品の時価等に関する事項

2025年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価、及びこれらの差額については次のとおりです。

(単位：百万円)

	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 金銭の信託	61,701	61,701	-
資産計	61,701	61,701	-
(2) その他（デリバティブ取引）	49	49	-
負債計	49	49	-

(注1) 現金・預金、未収委託者報酬、未収運用受託報酬、短期貸付金、短期借入金、未払金、未払費用、未払法人税等、未払消費税等は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、記載を省略しております。

(注2) 投資有価証券及び関係会社株式は、市場価格のない株式等及び組合出資金等であることから、上表には含まれておりません。当該金融商品の中間貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

	中間貸借対照表計上額 (百万円)
市場価格のない株式等( )	7,053
組合出資金等	2,761
合計	9,815

( ) 1 市場価格のない株式等には非上場株式等が含まれております。

2 非上場株式等について、当事業年度において299百万円減損処理を行っております。

## 2. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における（無調整の）相場価格により算定した時価

レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接または間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

## 時価で中間貸借対照表に計上している金融商品

区分	中間貸借対照表計上額（単位：百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
金銭の信託（運用目的・その他）	-	61,701	-	61,701
資産計	-	61,701	-	61,701
デリバティブ取引（通貨関連）	-	49	-	49
負債計	-	49	-	49

（注）時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。

信託財産を構成する金融商品の時価について、投資信託は基準価額、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。構成物のレベルに基づき、レベル2の時価に分類してあります。

デリバティブ取引

時価の算定方法は、取引先金融機関から提示された価格等に基づき算出してあり、レベル2の時価に分類してあります。

## 有価証券関係

当中間会計期間末（2025年9月30日）

## 1．売買目的有価証券(2025年9月30日)

該当事項はありません。

## 2．満期保有目的の債券(2025年9月30日)

該当事項はありません。

## 3．子会社株式及び関連会社株式(2025年9月30日)

## 市場価格のない株式等の中間貸借対照表計上額

区分	中間貸借対照表 計上額（百万円）
子会社株式	6,772
関連会社株式	106

## 4．その他有価証券(2025年9月30日)

該当事項はありません。

非上場株式等（貸借対照表計上額174百万円）及び組合出資金等（貸借対照表計上額2,761百万円）については、市場価格のない株式等に該当するため、記載してありません。

## デリバティブ取引関係

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

通貨関連

## 当中間会計期間（2025年9月30日）

区分	取引の種類	契約額等 (百万円)	契約額等の うち一年超 (百万円)	時価 (百万円)	評価損益 (百万円)
市場取引以外の取引	為替予約取引 売建 米ドル	2,920	-	49	49

## 資産除去債務関係

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

当該資産除去債務の総額の増減（単位：百万円）

	自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日
期首残高	1,431
有形固定資産の取得に伴う増加	-
時の経過による調整額	-
中間期末残高	1,431

## 収益認識に関する注記

## 1．顧客との契約から生じる収益を分解した情報

区分	当中間会計期間 (自2025年4月 1日 至2025年9月30日)
委託者報酬	83,248百万円
運用受託報酬	11,429百万円
成功報酬（注）	20百万円
その他営業収益	148百万円
合計	94,846百万円

（注）成功報酬は、中間損益計算書において委託者報酬または運用受託報酬に含めて表示していません。

## 2．顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

[重要な会計方針] 7. 収益及び費用の計上基準に記載のとおりであります。

3．顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当中間会計期間末において存在する顧客との契約から当中間会計期間の末日後に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

## セグメント情報等

当中間会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)

## 1．セグメント情報

当社は投資運用業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 2．関連情報

## (1) 製品・サービスごとの情報

当社の製品・サービス区分の決定方法は、中間損益計算書の営業収益の区分と同一であることから、製品・サービスごとの営業収益の記載を省略しております。

## (2) 地域ごとの情報

## 営業収益

本邦の外部顧客からの営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

## 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

## (3) 主要な顧客ごとの情報

外部顧客からの営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先が識別されていないため、主要な顧客ごとの営業収益の記載を省略しております。

## 1 株当たり情報

	自 2025年4月 1日 至 2025年9月30日
1 株当たり純資産額	10,769円89銭
1 株当たり中間純利益	4,564円89銭
(注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり中間純利益につきましては、潜在株式がないため、記載していません。	
2. 1 株当たり中間純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。	
中間純利益	23,512百万円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る中間純利益	23,512百万円
期中平均株式数	5,150千株

## 4 【利害関係人との取引制限】

委託者は、「金融商品取引法」の定めるところにより、利害関係人との取引について、次に掲げる行為が禁止されています。

自己又はその取締役若しくは執行役との間における取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

運用財産相互間において取引を行うことを内容とした運用を行うこと(投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれがないものとして内閣府令で定めるものを除きます。)

通常取引の条件と異なる条件であって取引の公正を害するおそれのある条件で、委託者の親法人等(委託者の総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下 において同じ。)又は子法人等(委託者が総株主等の議決権の過半数を保有していることその他の当該金融商品取引業者と密接な関係を有する法人その他の団体として政令で定める要件に該当する者をいいます。以下同じ。)と有価証券の売買その他の取引又は店頭デリバティブ取引を行うこと。

委託者の親法人等又は子法人等の利益を図るため、その行う投資運用業に関して運用の方針、運用財産の額若しくは市場の状況に照らして不必要な取引を行うことを内容とした運用を行うこと。

上記 に掲げるもののほか、委託者の親法人等又は子法人等が関与する行為であって、投資者の保護に欠け、若しくは取引の公正を害し、又は金融商品取引業の信用を失墜させるおそれのあるものとして内閣府令で定める行為

## 5【その他】

## (1)定款の変更

委託者の定款の変更に関しては、株主総会の決議が必要です。

## (2)訴訟事件その他の重要事項

委託者およびファンドに重要な影響を与えた事実、または与えると予想される事実はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

## (1) 受託者

(a)名称	(b)資本金の額 <sup>*</sup>	(c)事業の内容
三菱UFJ信託銀行株式会社 (再信託受託者：日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	324,279百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

\* 2025年10月末現在

## (2) 販売会社

(a)名称	(b)資本金の額 <sup>*</sup>	(c)事業の内容
野村證券株式会社	10,000百万円	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
いちよし証券株式会社	14,577百万円	
岩井コスモ証券株式会社	13,500百万円	
株式会社SBI証券	54,323百万円	
OKB証券株式会社	1,500百万円	
木村証券株式会社	500百万円	
九州FG証券株式会社	3,000百万円	
京銀証券株式会社	3,000百万円	
ぐんぎん証券株式会社	3,000百万円	
四国アライアンス証券株式会社	3,000百万円	
静銀ティーエム証券株式会社	3,000百万円	
七十七証券株式会社	3,000百万円	
十六TT証券株式会社	3,000百万円	
株式会社証券ジャパン	3,000百万円	
株式会社スマートプラス	300百万円	
第四北越証券株式会社	600百万円	
大和証券株式会社	100,000百万円	
ちばぎん証券株式会社	4,374百万円	
中銀証券株式会社	2,000百万円	
東海東京証券株式会社	6,000百万円	
とちぎんTT証券株式会社	1,001百万円	
西日本シティTT証券株式会社	3,000百万円	
八十二証券株式会社	3,000百万円	
百五証券株式会社	3,000百万円	
北洋証券株式会社	500百万円	

松井証券株式会社	11,945百万円	
マネックス証券株式会社	13,195百万円	
三菱UFJ eスマート証券株式会社	7,196百万円	
m o o m o o証券株式会社	8,625百万円	
めぶき証券株式会社	3,000百万円	
楽天証券株式会社	19,495百万円	
ワイエム証券株式会社	1,270百万円	
株式会社あおぞら銀行	125,966百万円	銀行法に基づき銀行業を営んでいます。
株式会社青森みちのく銀行	19,562百万円	
株式会社足利銀行	135,000百万円	
株式会社岩手銀行	12,089百万円	
株式会社大垣共立銀行	46,773百万円	
株式会社沖縄銀行	22,725百万円	
株式会社鹿児島銀行	18,130百万円	
株式会社北九州銀行	10,000百万円	
株式会社紀陽銀行	80,096百万円	
株式会社京都銀行	42,103百万円	
株式会社熊本銀行	33,847百万円	
株式会社京葉銀行	49,759百万円	
株式会社佐賀銀行	16,062百万円	
株式会社三十三銀行	37,400百万円	
株式会社滋賀銀行	33,076百万円	
株式会社静岡中央銀行	2,000百万円	
株式会社七十七銀行	24,658百万円	
株式会社清水銀行	10,816百万円	
株式会社十八親和銀行	36,878百万円	
株式会社大光銀行	10,000百万円	
株式会社第四北越銀行	32,776百万円	
株式会社筑邦銀行	8,000百万円	
株式会社東京スター銀行	26,000百万円	
株式会社西日本シティ銀行	85,745百万円	
株式会社八十二長野銀行	52,200百万円 <sup>**</sup>	
株式会社百五銀行	20,000百万円	
株式会社福岡銀行	82,329百万円	
株式会社福島銀行	19,638百万円	
PayPay銀行株式会社	72,216百万円	
株式会社北洋銀行	121,101百万円	
株式会社みずほ銀行	1,404,065百万円	
株式会社みなと銀行	39,984百万円	
株式会社宮崎銀行	14,697百万円	
株式会社宮崎太陽銀行	8,752百万円	
株式会社武蔵野銀行	45,743百万円	
株式会社もみじ銀行	10,000百万円	
株式会社山形銀行	12,008百万円	
株式会社山口銀行	10,005百万円	
株式会社山梨中央銀行	15,400百万円	
株式会社横浜銀行	215,628百万円	

信金中央金庫	890,998百万円	信用金庫法に基づき信用金庫連合会の事業を営んでいます。
広島信用金庫	3,444百万円	信用金庫法に基づき信用金庫の事業を営んでいます。
第一勧業信用組合	16,830百万円	協同組合による金融事業に関する法律に基づき金融事業を営んでいます。
第一生命保険株式会社	60,000百万円	保険業法に基づき生命保険業を営んでいます。

\* 2025年10月末現在

\*\* 2026年1月1日現在

信金中央金庫、第一勧業信用組合および広島信用金庫の資本金の額の箇所には、出資の総額を記載しております。

### (3) 運用の委託先

(a)名称	(b)資本金の額*	(c)事業の内容
ピムコジャパンリミテッド	13,411,674.44米ドル	金融商品取引法に基づき、投資運用業、投資助言・代理業、及び第二種金融商品取引業等を行なっております。

\* 2025年9月末現在

## 2【関係業務の概要】

### (1) 受託者

ファンドの受託会社(受託者)として、信託財産の保管・管理・計算、外国証券を保管・管理する外国の保管銀行への指図・連絡等を行ないます。なお、当ファンドにかかる信託事務の処理の一部について日本マスタートラスト信託銀行株式会社と再信託契約を締結し、これを委託することがあります。その場合には、再信託にかかる契約書類に基づいて所定の事務を行ないます。

#### <再信託受託者の概要>

名称 : 日本マスタートラスト信託銀行株式会社

資本金 : 10,000百万円

事業の内容 : 銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営等に関する法律に基づき信託業務を営んでいます。

### (2) 販売会社

ファンドの取扱販売会社として、募集の取扱いを行ない、信託契約の一部解約に関する事務、一部解約金・収益分配金・償還金の支払いに関する事務等を行ないます。

### (3) 運用の委託先

委託会社から運用の指図に関する権限の一部委託を受け、信託財産の運用の指図を行ないます。

## 3【資本関係】

(2025年9月末現在の持株比率5.0%以上を記載します。)

### (1) 受託者

該当事項はありません。

## (2) 販売会社

該当事項はありません。

## (3) 運用の委託先

該当事項はありません。

## 第3【参考情報】

ファンドについては、当計算期間において以下の書類が提出されております。

提出年月日	提出書類
2025年 5月27日	臨時報告書
2025年 7月11日	有価証券届出書
2025年 7月11日	有価証券報告書
2025年 8月27日	臨時報告書

## 独立監査人の監査報告書

2025年6月6日

野村アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人 東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 長谷川 敬  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 水 永 真太郎  
業務執行社員

#### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの第66期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の2025年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、監査した財務諸表を含む開示書類に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。

当監査法人は、その他の記載内容が存在しないと判断したため、その他の記載内容に対するいかなる作業も実施していない。

#### 財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用

することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。  
2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2025年12月9日

野村アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

長谷川 敬

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコースの2025年4月17日から2025年10月16日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Aコースの2025年10月16日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、野村アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2025年12月9日

野村アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

長谷川 敬

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコースの2025年4月17日から2025年10月16日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Bコースの2025年10月16日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、野村アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2025年12月9日

野村アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

長谷川 敬

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコースの2025年4月17日から2025年10月16日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Cコースの2025年10月16日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、野村アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2025年12月9日

野村アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

## EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員

公認会計士

長谷川 敬

## 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコースの2025年4月17日から2025年10月16日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド Dコースの2025年10月16日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、野村アセットマネジメント株式会社及びファンドから独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書及び有価証券届出書（訂正有価証券届出書を含む。）に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

#### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、ファンドは継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、経営者に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

野村アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の中間監査報告書

2025年11月27日

野村アセットマネジメント株式会社  
取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人 東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 長谷川 敬  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 水 永 真太郎  
業務執行社員

#### 中間監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている野村アセットマネジメント株式会社の2025年4月1日から2026年3月31日までの第67期事業年度の中間会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、野村アセットマネジメント株式会社の2025年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2025年4月1日から2025年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

#### 中間監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 中間財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を

開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 中間財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した中間監査に基づいて、全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得て、中間監査報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、中間財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に従って、中間監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応する中間監査手続を立案し、実施する。中間監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。なお、中間監査手続は、年度監査と比べて監査手続の一部が省略され、監査人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示リスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。
- ・中間財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として中間財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、中間監査報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、中間監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象に関して有用な情報を表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した中間監査の範囲とその実施時期、中間監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む中間監査上の重要な発見事項、及び中間監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1．上記の中間監査報告書の原本は当社が別途保管しております。  
2．XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。